

日本は大きいがデンマークは小さい、又軍艦はデンマークに二艘しかないが日本には何百艘とある。そして、大きいものになると何萬噸といふのがある、と述べたら、彼等は益々厭な顔をして居る、山はどうだ、丁抹は眞平で、一番高いのが六百尺、之を天山と云つて居る、日本の富士山は一萬二千六百尺で、二十倍も高い、又丁抹の川はどうだ、一番大きな川で五六間位なものだ、ところが日本の河は石狩川とか信濃川とか、幅何百間と言ふ大きな河がある」と述べ立てたので、ランゲの奥さんは、齒を食ひしばつてくやしがつて居りました。最後に農業、農業も日本の方が優つてゐる、丁抹には米がない、お茶もない、蠶もない。即ち丁抹農民は米や茶の栽培、蠶の飼育等は少しも知らない。日本農民は豚も牛も飼つて居る。丁抹でやつて居ることは皆日本ではやつて居る、これでも君等は丁抹が農業では世界一だと云ふのか」と云つたものだから、ランゲも奥さんも黙つてしまひました。

私は、日本の農民は本當に偉いと思つて居る、日本人は人眞似ばかりして居るといはれますけれども、又一面には先祖傳來の遺産たる大和魂を大切にし、之により

て各方面に世界に劣らぬ仕事を爲して居るといふ點を能く御互は自覺しなければなりません。

私は日本デンマーク協會の會員の一人になつて居つて、時々呼ばれますので、私の學校へは時々丁抹人が来るが東京駐在の丁抹領事も來ました。其の時に僕は、能く日本農民は丁抹農民に比較して決して劣つて居らぬと僕は思ふが君はどう思ふと言ふと、丁抹人でも日本を知つて居る人間ならば、必ず之を認める、北海道に居つたソンナゴイヤラーセンは、歸國の途次僕の所に立ち寄つて二三日も泊つて參りましたが、彼等は異口同音に、日本農民は世界で優秀な農民であると云つて、本當に心から日本農民を譽めて居ます。何處の農民に較べても、日本の農民ほどいろいろなものを知つて居るものは少ない。兎に角日本農民は、一町歩といふ小さな地面で何とかして一家を支へて行かうといふ深刻な努力の中に言ふに謂はれない修業をして居るのであります。農民自身は、ですからして、日本農民といふものは洵に身すばらしいものと一般に思はれて居りますが、之は彼等の耕してゐる

地面が少い、従つて貧乏して居るといふことであります。耕地面積が少い結果は、收入が少く、従つて貧乏である、此の點間違ひはありませぬ。然し、農民としての腕、農民としての値打といふ點から云へば、日本農民は決して世界の農民に劣らないのであります。

日本農民に土地を與へ、適當な資金を供給せよ、然らば、彼等は立派に世界にほこり得る農業經營をなすであらう。現に米國に行つて見れば、何百町歩も立派に經營して居る日本農民が現存して居ります。私はメキシコにて、布施常松と云ふ駒場農科大學實科を出られた方の要求にて、此の間私の學校の卒業生を一人同地に送りました。布施氏は四百五十町歩を耕し、乳牛二百頭以上を飼育し、相當大きな農業經營をして居る人であります。

話が横道に入りましたが、兎に角我が國は農家の一戸當り一町歩で土地と人口との割合が洵に悪いと云ふ所から致しまして、失業問題が起つて來ると斷言出来るのであります。

其處で、私は農村の問題も國家の問題も、其の根本に於ては同じであると思つて居ります。思想問題に對しましては、日本農民魂の鍛鍊陶冶を私は主張する、そして此の目的貫徹の爲に私自身としては、日本國民高等學校運動に突進して行かうと考へて居るのであります。日本國民高等學校は、日本農民魂の鍛鍊陶冶を目標として設立されたもので、或る意味から申せば、思想問題に對する大運動なのであります。それから、失業問題に對しましては、唯殖民の一途あるのみであります。それ故、私此の間から何だ加藤は拓務省の役人かと言はれる位夢中になつて、滿蒙殖民運動をやつてゐるのであります。其の位夢中になつて、骨を折つて、やつと一千人ばかり滿洲へ自衛移民を送り出すことが出來ました。來年は、二千人以上の若者を彼地に送り出したいと念願して居ります。斯くの如くして、兎に角滿蒙移民のトップは切つたのであります。従つて將來必ず一大殖民運動が行はれることと確信します。失業問題に對する解決案としては、只殖民あるのみであります。此の失業の問題と殖民問題は、日本農村問題の一番大事な問題であります。何

となれば、此の二つの問題は、農民自身の生存権の問題であつて、同時に我が日本の興亡に關する重大問題であるからであります。實に是は、農民の生命の問題であります。従て若し政府にして此の殖民問題を眞剣に考へず、之が實行を躊躇逡巡して居るならば、私は農民の團體を結成し、此の力に依つて之を斷行することになければならぬと思つて居ります。殖民に就ては色々お話しいたすつもりであります。兎に角農村の問題を眺めて見ますと云ふと、其の中に思想の問題がある、失業の問題がある、で農村に於きまして、是等の問題の整理が出来ますれば都會に於ても、其の整理が出来て來るのであります。都會は塵溜め見たいな所であり、丁度川に例へて見ますと、川上が農村、都會は川下である、其の貧民窟などは、塵のたまり場所見たいなものであります。貧民窟の改善を根本的に斷行するには、其の源を清めなければ駄目であります。此の農村を清淨にしなければ、都會の整理は出来ませぬ。

都會に於きまして、貧民救済を社會政策としてやつて居るやうであります。が、川

下の塵さらへばかりして居つても果しが付かないから成るべく農村から塵を出さないやうにしたいものであります。其の點に就いては内務省の社會局あたりで今思想問題が喧しい爲か貧民救済をやつて居りますが、私共の眼から見ると其のやり方に於て考慮を要する事柄が非常に多いのであります。それは、先づ歩き廻つて貧民窟を見ると解る、貧民五百家族を收容するために、立派なコンクリートの建物を造りまして、それに二百萬圓も三百萬圓も費したと云ふことは實に呆れ返つた愚策であります。一方一千人の自衛移民を送るために政府は百萬圓しか出して居りませぬ。而も此の自衛移民は北滿の警備に任じ日本の礎を固め大和民族發展の土臺となる、その爲に一千家族が乗出して行くのであります。百萬圓や二百萬圓位支出するのは國家として當然であります。五百人の貧民の救済に二百萬圓を費す、此の貧乏な日本に於て、此の種の社會政策は一種の道樂としか思へませぬ。兎に角川上を清めないで川下に集つて來る塵掃除に多大の費用を投ずるといふことは、社會政策と云へばいふやうなものゝ最も拙劣な社會政策であ

ると私は思ふのであります。

今日の日本人は、誠に神經過敏になつて居りますから、都會の貧民窟に潜り込んで所謂惱めるものゝ友とならんと考へて、汗水たらして働いて居る所謂慈善家に對しては、一同が直に涙をこぼして彼を大修業をして居る人の如く人も持囃せば自分もさう思つて居る、私共は、さう云ふ人の居なくなるのを希望して居ります。

よく女子なんかにしましても、東北が饑饉だからと云つて頻りに金錢等を集めて居る。誠に學生が提灯をつけて寄附金を募集して居る、あの態度は實に亡國思想であります。あれは慈善でも何でも、麗はしくも何にもない、却て唾棄すべきものであります。スエズやポートセイズで、乞食が「アーファザー」「ノーマザー」に寄附の募集をやらせることは學生時代から乞食を教へることである。それよりか、どんく、労働でもさして働かしてさうして貧民を救済せよと教ふべきであります。街頭に立つて學生が提灯をつけて往來の人から金錢を貰つて貧民救済

事業をやらうとするのは之は確に亡國思想であります。

どうも色々な話になりましたが、兎に角私は農村を固めて行く、日本の農村に於て思想問題の解決をし、併せて失業問題の解決をすると云ふことに依つて、日本の國の礎も固つて行くと、私は信じて居ります。實に、農村問題は日本の國の重大問題で是非とも解決せねばなりません。

之に對しまして、今まで申上げました様に、私としては一面日本國民高等學校運動を徹底して行こう。尤も名前は必ずしも日本國民高等學校とする必要はなく同じ精神の下にやつて行く機關であれば何でも宜しい。又さういふ活動をする團體があれば、我等は其の先登に立ちまして、日本精神の鍛鍊陶冶をして行く、農村でありますれば、日本農民魂の鍛鍊陶冶をしつゝ、どしどし進んで行く、斯う云ふ風にして行けば、思想問題はそんなに狼へる必要はないと思ひます。日本の農村青年が、自分は日本人だ、といふことがはつきりして居りますれば、今のやうな思想の混亂はないと思ひます。畢竟農村青年の時代に「我は日本人なり」と言ふ信念が確

立して居らないから、思想の混亂が起るのであります。

それから其の次に、失業問題に對しては殖民運動を徹底しなければならぬ。此の殖民運動をやるためにも、矢張り農村の子弟を集めて、之を殖民者として恥しからぬ人間に鍛鍊陶冶して送り出すより外に途がない。殖民運動をするに都會の人間を集めてやるのは、特別の場合であります。

例の深川の天照園には、小坂凡庸夫といふ方が園主となられて、種々貧民の友として活動して居られます。此の小坂君がルンペンを四十人ばかり連れて、滿洲の錢蒙店の或る農場を借り受けて其處で開墾事業に當つて居りますが、眞に結構だと思ひます。私は小坂君が、「私も都會で色々貧民救済をやつて來たが、結局殖民になつてしまつた。」と云はれたことは、誠に眞理であると思ひます。私も小坂君には種々の點に於て非常に共鳴したのであります。

實は私も以前に都會の貧民を殖民させたいと考へた事があります。其の後田舎の方を見つめて、都會の事は見捨て、しまつた。併し今でも尙都會の貧民窟は

時々見に行き、そして未だに之を何とかしたいと思つて居る。天照園にも時々生徒を連れて行つたので、小坂君にも結び付いてしまひまして、小坂君が貧民を連れて渡滿せらるゝ時に食物調理の上に必要な諸器械など送りまして、其の行を盛んにしたのであります。

實際私は日本の貧民階級の連中は案外氣分が宜ろしい様に思つたのであります。一同を集めて話をして呉れと小坂君から頼まれたので、一席話を致しましたが、初めの中は跌坐をかいたり何かして居つて、「ソナナ風をして居つて何を言ふんだ、貴様見たいなブルジュアのインテリの理窟は聽くものか」と云ふやうな態度でありましたが、話をしてゆく中に、彼等の態度が段々穩かになつて來た。それは小坂君が丁度私と同じやうに胃潰瘍であつたので、私はお灸の先生で、私もすえて貰つて居ります信頼し得る先生に願ひして、小坂君にも御灸をすえて貰つてあげました。でありますから私は小坂君の身體は大事にせねばならぬ、胃潰瘍は酒を飲むと危い。と此の事を特に注意をしてやつたのであります。即ち皆に向つて

園主に酒を吞ましてはいかぬ、迂つかりすると危い、君等は是非園主の身體を大切に
にして貰ひたい、胃潰瘍の此の體を提げて一同を連れて滿洲に行くのだ、其の園主
の精神をお互はよく考へなければいかぬ、若し園主が仆れてしまつたら、君等は途
方にくれることになるのだから是非園主の體を大事にし、必ず酒を吞ましては
いかぬと云つた。さうした所が皆坐つて了つた。中には涙をためて聽いて居る
ものもありました。それから私は歸つて來たが、外の職員が後に残つて機械の説
明やら色々質問應答をした。晝になつた所が、官立の無料宿泊所の所長が小坂君
一同を呼んで、送別の宴を開くことになり、僕の所の職員も一緒に行つた。すると
其の無料宿泊所の所長さんが大きな盃に酒を一杯注いで小坂君にさした。小坂
君はなか／＼酒呑みだときいて居るので私の所の職員はどうなるかと黙つて見
て居つた、飲むか飲まぬか、萬一飲んだら飛出して行かうと思つて居つたさうであ
ります。所が、ルンペンの中の頭株の一人が飛出して來て、待つてくれ、園主には酒
は飲ませられないとやつた。小坂君は黙つて顔を凝視してよし解つたと云つて

一滴も飲まなかつたさうであります。私の方の職員が僕に「先生の精神は彼等に
通りました」と報告して呉れたのは嬉しく感じました。

小坂君も長い間貧民窟に閉籠つて彼等を獨立自營の人間たらしめるために骨
を折つて居つたけれどもそれだけではいけない、結局殖民といふ所まで行かぬば
駄目だと氣附いて之を斷行したのは誠に有難いことと思ひます。其處まで落込
まない中に、農民其の者を都會へ出さないで荒地の開墾なり何なりに働かせる又
農家と云ふものは謂はゞ農學校でありますから、農家の子弟をそつくり其の儘荒
地の開墾に持つて行くようにした方が當人の爲にも又國の爲にも宜いのであり
ます。でありますから、殖民問題も農村を見詰めて其の農村問題解決の一端とし
て實行すべきものであると、斯う思ふのであります。

今の話でよく御解りになつたと思ひますが、私共が現代の農村を眺める時、第一
に改良すべき點と致しましては、農村民の心の奥に大和民族の理想信仰を確立す
ると云ふこと、其の次に農村に於きまして年々幾々人が餘計に生れて來る、之に對

して採るべき唯一の途は、只殖民あるのみ、斯う云ふことになる譯であります。是が農村問題の根幹をなしてゐるのであります。之に續きましてどうしても解決しなければならぬ所の問題に取引問題があります。此の取引問題が今日亂雑に行はれて居るのであります。此の三つのものを何とか解決して行かなければならぬ。それ等に對して私は是迄に私の意見の輪廓だけを申して置きましたが、更に詳しく殖民問題と販賣取引改善の問題をお話して見たいと思ひます。

第三章 殖民問題の解決

一 滿蒙の天地に伸びよ

それから殖民問題につきまして申し上げますが、殖民するには、私は滿蒙殖民が一番宜いと思つて居るのであります。何故さうかと申しますと、自分が其處に行つて、獨立農として立つと云ふ時には、滿蒙に於ては其の事自體が日本人として忠であります。即ち國の基礎がそれに依つて固るのであります。ブラジルになり、何なりになりますと、時に依ると、獨逸人が非常に怒つた如く、大戰の後に獨逸系の亞米利加人が獨逸を亡ぼしたと云ふ風に、うつかりすると第二世の日本人が場合に依れば日米戰爭の場合に攻込んで來ないと限らない、又一朝事ある際に、南亞米利加から直ちに應援に來ると云ふことは出來ない。之に反し、滿蒙の天地に於ては獨立農となつてこつ／＼やつて居るといふこと、夫れ自身が日本の國の基礎を固

めることでありませう。同じ命を捨てるならば前から申し上げましたやうに、日本の御國の基礎を固めるそれに自分を捧げると云ふ處に行くべきだと思ひます。それが一番吾々の心の要求を満足する。それで、私は滿蒙移民を専ら云つて居るのでありますが、是も一昨年九月十八日の日支事變以來、それが出来るようになつたのであります。それ迄は、日本人と云ふものは、滿蒙の天地に行つて農業をやる事が出来なかつた。商租權と云ふものがあつて、土地を借りて農業經營が出来ると云ふことになつて居りましたけれども、支那人で日本人に土地を貸す者を張作霖、張學良の二人が壓迫をしまして之を虐めて時には殺してしまふ。又は之を嚴罰に處すると云ふ譯でありましたから、従つて支那人で日本人に土地を貸す人間がないのでありますから、商租權と云ふものがあつてもないやうなものであります。畢竟、日本人は滿蒙の天地に於て農業經營が出来なかつたと云ふ譯であります。

所が日支事變以後に於て、有難いことには是が出来るやうになりました。併も

團體を作つて武装して入り込んで行つて、農業經營が出来ると云ふ様になつた事は實に有難い。私は以前は鴨綠江を何とかして突破しようと思つたので、種々畫策をした。そして、朝鮮殖民や滿鐵沿線の殖民をやつて居つたが鴨綠江の突破と云ふことは僕の目の黒い中には出来るか出来ないか解らぬと思つて居つた所が、此の間出来る様になつたものですから嬉しくて仕様がございません。

自衛移民が只今居りますのは、吉林省樺川縣永豐鎮と云ふ所に第一屯墾隊の本部を置いて、市川中佐と山崎芳勇氏とが熱心に指導して居られます。最近依蘭縣湖南營に第二屯墾隊の本部が出来て屯墾團長としては宗光彦君、屯墾第二大隊長として日澤廉二郎君が選ばれて只今活動中であります。移民の訓練は兩方とも私が關係しました。而して、自衛移民の中には、退團したものも生じまして、只今では八百餘人の者が踏止つてやつて居ると云ふ譯であります。其の人員は、はつきり發表しないことになつて居りますが、大體そんなことであります。

二 殖民は教育の延長

それで何故私がそんなに殖民問題に付て熱心にやるかと云ふと、先程申しましたやうに、之は日本の重大なる國家問題であると思つて無論やつて居るのであります。又一面に於て教育者の立場から、私は、殖民と云ふものは日本の現代に於ては、教育の延長であると思つて居ります。殖民問題を離れて、現代の日本に於て教育は徹底出来ない。何故かと云ふと、私自身教へた生徒から卒業式の日泣きつかれた。「先生のお話は能く分りました。それで飽までも自分は日本農民として立ちたいと云ふ決心がつかせましたけれども、私は小作人の子供でありまして、耕す土地もありませぬ。家から資金を貰ふことも出来ませぬ。私は農業が出来ないのではない。腕はあるし、何とかしてやりたい。先生のお話を聞いて茲に自分は農業をやりたくなつたけれども、何處でやるのですか」と、四人の生徒が私の所に來て泣き出したのであります。丁度洋行せんとする時だつたので、僕が歸る迄鬼に

角僕の家に居りなさい」と云ふので、此の四人を留守中私の家に居つて貰つて、一年半ばかり西洋を歩き廻つて居る間此の四人の生徒の爲に殖民問題を考へ續けたやうな譯であります。

そして丁抹の農業が世界一と聞いて居るので、何處が宜しいのかと思つて凝視して見ると、耕地面積が一户當り十五町歩、日本の十五倍、唯地面が廣いと云ふだけである。そこでつくづく、是は矢張り殖民だと思つて、更に英吉利に行つて大學の先生等と種々議論したり話したりすると、農業と云ふものは、一户當り八十町歩位なければ本當の農業が出来ないと言ふ。之を聽いて私は驚いてしまつた。次に亞米利加に行きまして、コルネル大學のドクター・ウオレン教授と三時間許り話をして見ると、彼は亞米利加農業の重大問題たる能率の増進、即ち生産費の節約と云ふ見地から能率の増進と云ふ問題と、もう一つは取引問題、出來た生産物を如何に販賣すべきかと云ふ、^ケケツテイニングの問題、此の二つの事ばかりを述べて居る。僕の方は之と異なり、腕があり、農業をやりたいが土地が無い。此の人間を

農民にする爲には、どうしたら宜いかと云ふ深刻な生存權の問題を考へて居るので段が違つて話にならぬ。三時間議論して彼曰くどうも農業と云ふものは、一戸當り二百町歩位なければ本當の利益ある農業は出来ない、本大學の學生も卒業後二百町歩位の農業經營をする事を目標として勉強して居る。それだから横斷鐵道に乗つて、紐育からシヤトルに來ると云ふと、どうもがら空の地面が澤山ある癪に障つてしまつた、亞米利加合衆國は大地主だなど思うたのであります。

英吉利及亞米利加を見て私はつくづく、是は土地の分配が悪い。土地は神が人類に與へられたものであります。其の土地を獨占して居る國があるから、一方に於ては饑えこゞえて居る所の人がある。是は、どうしても世界に向つて土地開放の大運動をやらなければならぬ。さう云ふ風な肚が決つた。それから歸つて來ると云ふと、三四ヶ月授業をして何でも授業が濟んでから、直ぐ朝鮮から滿洲、内蒙古の奥まで乗り込んで行つて、さうして内地の青年を殖民させる場所がないかと探し歩いた。今考へて見れば誠に危なかつた。其時にパイインタラ附近の公濟號

農場で馬賊の話の話を聞きました。内蒙古は此の有様では、生命財産の保障がない。残念ながら滿蒙の天地は、今は殖民に不適當であると考へられたので、仕方がないから滿鐵沿線附屬地とそれから朝鮮の空地に内地人を植え付けよう、相成るべくは、鴨綠江の沿岸に内地人を植え付けて、ぢり／＼押しに鴨綠江を突破して行かうと云ふ考を持つ様になつたのであります。

唯今の話で、日本に於きましては殖民は教育の延長である、と云ふ事がよくお分りになつたと思ふ。あなた方が補習教育に努力されて、能く補習教育は旨く行かないと歎ぜられます。そして旨く行かない理由も色々あります。けれども、結局教育した後、彼等を何處で働かせるか、その目標が着いて居らないから教へる先生も張合がないし、學ぶ生徒にも勇氣がないのであります。一人前になつたならば、滿蒙の天地に於て斯う云ふ風に大活動が出来る。だから、今の中に十分の力と十分の體力を練つて置かう、農業の知識技能も十分に磨いて置かうと云ふ風にちやんと目標がついて居れば、補習教育等は獎勵しなくとも立派に青年が勵む

様になる。日本人は將來役に立つことが明かになつて居る場合に補習教育を受けることを忌避する程そんなに馬鹿ではない。所が先が暗いから、やれ／＼と云つても彼等に勉強する勇氣が出ないのであります。されば殖民と云ふことは補習教育を盛んにするといふ點から申しまして、やらなければなりません。どうか、あなた方からして一つ聲を大にして殖民の必要を叱咤して戴きたい。

三 滿蒙の自衛移民

殊に滿蒙の殖民に就ては、お互に眞劍に考へねばなりません。然らば農村教育の立場からはどう考へたらばよいかと申しますと、滿蒙殖民に對しては第一に殖民者其の人は餘程鍛えて置かないと殖民者としての成功が出来ない。滿蒙で農業をすることは、決してむづかしくはありませんけれども、移民それ自身が意苦地なしでは此の滿蒙の殖民さへもが出来ない事になるのであります。

即ち滿蒙は、農業上の見地から申せば、内地よりも遙かに恵まれて居る土地であ

る。今度自衛移民の参りました永豊鎮にしても、七虎力にしても今後十年間位は無肥料で殆ど凡ての作物が出来る。草が四尺も五尺も生えて居る。馬鈴薯でもキャベツでも立派に出来、羊も蠶も飼へる。北滿のこの地方は實に好い所であります。唯私の眼で見ると、支那の奥地、この北滿の天地は謂はゞ戰國時代で到底匪賊の横行が絶えない。移民は武器を持つて常に之に備へねばならぬ。全く戰國時代と謂つて宜しい。内地は元祿時代で、其元祿時代の温室葡萄の様な人間が戰國時代の嚴冬の候に持出されるから、或者は神經衰弱になつて眼が釣り上つてしまふ、餘程是は鍛えて置く必要があります。只漠然とやれ個性の教育だとか何だとか云ふ生溫いことをやつて居つたのでは殖民問題は解決しませぬ。

時々私は田舎に行つて體操を見ると、近頃妙なことが流行つて、踊り見たいなことをやつて居りますが、あれはいけません。もつと眞劍勝負に日本の國情、今の日本の立場をよく考へて、子供の教育をしなければならぬ。大平洋を隔て、亞米利加があり、朝鮮に陸続きで、支那があり、露西亞があつて、皆一癖ある國である。お隣

りの滿洲國は戰國時代で馬賊が横行して居る。此の間に處して日本國の獨立自由尊嚴を維持してゆく爲には、第二の國民を餘程剛健に育て上げねばならぬ。

兎に角、日本人は支那人とは大變違ふ。支那人は金を取る爲に人の命を取ることをも何とも思つて居らない。自分が殺されずに、人を殺して金が取れる場合には平氣で之を決行する。日支親善と謂つてもぼんやりして居ると、とんでもない事になる。今となつて屯墾團員で匪賊にやられる人々の多くは、油斷の結果であります。文明とか何とか謂つても、今の支那では通りませぬ。武器を持つて一人で晝寝したら、必ずやられる。支那通で只屯墾團の指導官となつて居る東宮少佐は常に金を持つてぶら／＼一人歩きをして居つたらきつと殺されるから決して油斷してはならぬ。金、武器、阿片を見ると、支那人は眼が光る氣をつけよと團員をいまして居ります。

八月初旬頃は、阿片を取る煙匪と云ふ奴が出て、盛んに永豐鎮附近の農村を荒して居る。農民は家を棄て、逃げて了ふ、そうすると、煙匪は其中に乗り込んで、自炊

をしながら近邊の阿片を取つて廻る、同時に又農家を強盜して歩く。私が山崎、東宮氏等の屯墾團幹部及隊員二名と隊員が煙匪にやられた所を調べて歩いたのでありますが、隊員のやられた場所の直ぐ前の農家などに入る時は、自分ながら随分危いと思つて這入るにも用心をして行つたのであります。後で、東宮少佐に聞いて見ると、滿洲國の兵隊はさう云ふ場所を探索に行く場合にはもう入口からぼん／＼と上下左右に拳銃を撃つて安全と見た時に始めて這入つて行くさうであります。日本人には其處までの用心はする氣になりませぬ。そつと這入る位のものであります。彼等は油斷すると自分の仲間から何時やられるか解らない。それですから武器を持つて居つても油斷はしない。今の日本人の觀念を以て支那人を、自分と同じ様な者と云ふやうに考へて物事を判斷して行かうものなら、大變なことになつてしまひます。そこで、お互國民教育に携つてゐる者はお隣りにさういふ國があると云ふことをよく／＼考へなければならぬ。殊にあなた方のやうな立場にある人はさう云ふ點を深く理解しなければならぬと思ひます。

眞實のところを言へば、文部省の講習會も大事だけれども、永豐鎮、七虎力の支那の匪賊の出る所に行つて、一人位犠牲になることを覺悟して歩き廻る方が遙に貴君方の爲になるかと思ふ。斯くの如き觀察旅行を一月もやられたならば日本農村の教育はどうしたらよいかと云ふことがよく解ると思ひます。實際一人位殺されて彼の地で慰靈祭でも行つて、始めて日本農村の教育は前に申したやうにしなければならぬと云ふことがはつきり分ると思ふ。それで、殖民も結局人の問題どうしても現代の日本では、硬教育が必要であります。

踊つたり、はねたりする教育をして居るのは、まるで夢でも見て居るやうなもので、私共は聞いても胸が悪くなつてしまふ。やれ個性の教育だとか、やれ情操の教育だとか譯が分らない。何とかシステム何んとかメソッドとか言ふて騒いでる人もあるが、こんな道樂教育は皆亞米利加とか云ふ國でやるべきことで、我が日本に於てはそんな道樂教育をやつて居つたのでは國が亡びてしまひます。

四 滿蒙殖民の第一要件は人

滿蒙殖民について一番大切なのは、殖民者其人の問題であります。殖民者其人が殖民し得る力のある人間であつて、僕にいはせるとかう云ふ人がふさはしい——結局農業殖民には農業の眞の意味がわかつてゐる人で、苟しくも人間の生活に必要な衣食住が生産し得る所であるならば、農を手伸しむことの出来る人——是が滿蒙移民に最も適した人であります。

前にも申しました如く、滿蒙の天地は農業の點から考へますと實に選ばれた所で、比較的水分は少いけれども種子を蒔けばよく發芽し、作物の生長發達も良好で北海道の移民よりは遙かにやり易く、その上氣候風土も内地以上によいのでありますから、農業は自分及び他人の爲に衣食住を作るが使命だといふことをよく理解してゐる人であるならば、滿蒙殖民は實に好適の地であると思ひます。

そして、滿蒙殖民は人が大切であるといふ以上、それには滿蒙殖民に適するやう

に人間を訓練する必要が生じて参ります。この人間には、無論大和魂の鍛錬陶冶を中心として本當に農業労働に耐えるといふ信念氣分を叩き込むにあります。で此の間も、第一回には自衛移民の訓練を、茨城縣友部に於て二百二十人、山形縣小山郡高根村にて百二十人、岩手縣の六原にて百二十人、第二回には群馬縣の相馬ヶ原に於て、陸軍の廠舎を借り練兵場の一部分を利用して、五百人のものを開墾に従事しながら訓練したのであります。どうしても、滿蒙殖民として立派に成功させるには、始めに當つて十分に殖民者たる人を訓練して、遺憾なきを期さねばなりません。

朝鮮や滿洲に殖民して考へついたのでありますが、最初、山形縣自治講習所に所長として赴任しました際には、農村の改造はどうしても人間にある、人間が立派にならなくては農村はよくならないといふ考へのもとに、極力人間を鍛へて來つた所が、理想信念のある確固たる人間を作つても活動の天地を考へてやらねば駄目だといふことになつて、こゝに殖民の運動をやるやうになりました。さて實際に

殖民をして見ますと、人間が出來てゐなければ結局は不成功に終ることが解つて、最後に又人間が基だといふことを知つたのであります。つまり農村の改造は人にある、殖民の成功も人にある。結局人間そのものが、凡ての中心をなすものであることを考へるに至つたのであります。

それから、滿蒙に殖民する人間はどういふ人間にするがよいかと問はれると、兎に角農に徹した人であると同時に、匪賊の横行に對し、彼等がやつて來たならば銃を以て立ちお國の爲に生命を賭して戦ふ覺悟のある人でなければなりません。即ち靜かに農業を楽しむ人にして、いざといふ場合には、銃を以て立つ意氣込みのある人であります。

滿蒙に於て特に大切なことは、普通の殖民地と異なつて、匪賊の横行があるために銃を以て立ち戦争をも辭せない覺悟が必要である。それ故、一面に於ては、農業に親しむ農民として、常に銃をもち額に汗して開墾に耕作に盡す人であつて、他面に於ては、匪賊の横行に對し、武器を以て迫る意氣込みがある人であることが大切で

あります。而して眞に農に徹した人であるならば、戦ひにも徹した人で、兩方に強い人であります。換言すれば眞に農に徹した人は武に徹した人であり、眞に武に徹した人は農に徹した人といふ事が出来ませう。事實新しい滿蒙の天地に於てコツ／＼と働くには、餘程の信念がなくてはなりません。其のコツ／＼と働く人にして、始めて眞に戦ひ得る人と云ふ事が出来ます。匪賊が來つた時、銃持つ手に銃を持って雄々しく戦ふのは、平常農に徹した人のみが出来ることではありません。

極端論をいふならば、よく銃をもつて立つ人は、銃をもつてもよく農に従事する人であるといふことが出来ます。兎に角、強き信念のある人でなくては出来ない事であります。結局、滿蒙に於ける殖民者は右手に銃、左手に鋏をもつて起つ皇國の戦士でなくてはなりません。

それから滿洲に自衛移民を送るに際して、在郷軍人の人から注意があつて、自衛移民は、須く在郷軍人式に訓練せねばならぬといはれたが、私は在郷軍人も青年もない、本當の教育はそんなものでなく、全く同じものであると思つて居ります。要

するに教育の中心點は、日本國民たることを自覺して、日本國民の一人として滿蒙の天地に於て我等何をなすべきか、我等が天職は何かと考へ、其の理想信念のもとに活動する人を作るにあります。この人こそ始めて、滿蒙の新しき天地に於て活躍することが出来るのであります。

次に心得置くべきことは、よく支那人を知ることが最も必要であると思ふ。實に支那人は想像することの出来ない國民で、金錢と武器と阿片とを見ると目の色がかはるといはれてゐます。若し武器をもつて一人歩きをしてゐると、何處かの隅から支那人がやつて來て生命を取るかも知れない。之は私が申すまでもなく支那人は國家から護つてくれないので、自分で防禦しなくてはならぬ。それには第一に武器がいる、それ故に一人きりで軍人が武器をもつて歩いてゐると、それを見て奪ひ取るに至るのであります。又武器は、かなりの値段百圓とか二百圓とかに賣れるので、從て殺して之を奪ふのである。全く日本人の考へ及ばざる事であります。でありますから、よく支那人を知つてゐる人に教へを受けて、その言を吟

味して聞いて、十二分に支那人を知る事が非常に大切なことであります。

普通の殖民、即ちブラジル移民の如きは、家族移民をやつて夫婦打つれて行くのであるが、廣漠たる天地に行つて活動するに於ては、無論家族づれで行くのが理想ではあるけれども、今の所、滿蒙の場合に就ては、初年から家族移民はむづかしいと云はなければなりません。二年か三年経つて、可成り落付いてからならば或は初年から家族移民もよいかも知れないが、匪賊が横行する今日ではさういふ譯に行かないと思ひます。

實際に於て移民するには、氣候風土の關係から、頑強の男子が地固めをして、而して後に家内のものが行くといふのが順序であります。よく人は、一殖民は須く家族移民でなくてはならない。性の問題からいつても、さうなくてはならぬ。一などといふが、實際外國に乗り込むで、荒地に鋤を入れ、新しい家を興し、お國のために盡さうといふ考へを抱いて奮闘するものに對して、二年や三年女子が居なくつてもそんなことで氣がくぢけるものでは決してない。初年から婦女子なくんば移民

は出来ないなどといふものは、日本國民を侮辱する人であります。一年や二年の間、婦女子がゐなくても、少しも苦痛とは思はれない。例へば、一年間も二年間も、先方で戦争ばかりして疲れて休んだりしてゐたならば、或は淋しい感じも起きようかも知れない、家のことが頭に浮んで來るかも知れないが、靜かに天地を友として農産物を作り、未耕地を開墾し、種子を蒔いてその生えるのを楽しみ、それが實るのを楽しみ、豚を飼つては、その成育を喜び、親切に世話し、斯くして次第に農家を作るといふやうにして居れば、男ばかりであつても、そんなに淋しいものではなく、却つて愉快なものであります。それに、かくして奮闘した曉には、立派に家庭も作られる日が目の前にわかつてゐる。而かも歸らうと思へば、二晝夜か三晝夜で日本内地へ歸れ、二三年の後には理想的な嫁をもらつて新しい家族を作ることにも出来る。それ故に、滿蒙殖民に於ては、ブラジル殖民と違ひ、乗り込む時から相手の女子がなくてはいふのは非常な間違ひであります。

新しい滿蒙の天地、匪賊の横行する北滿の平野に、雄々しくも腕を振つて農耕に

従事し、新しい我が家の基礎を築きその地固めをするのは男子の爲すべき當然のことであると云つて宜しいと思ひます。

滿蒙移民に對して、家族移民でなくてはならぬ、初年から女子がゐなくてはならぬといふのは飛んでもないことで、或る筋の宣傳に乗せられてゐるとも見られないことにはない恐るべきことであります。

よく加藤君は固苦しいことをいふと申しますが、匪賊の横行せる現時の滿蒙殖民に於て先づ頑強な男子が荒地を開墾して切り開き地固めをして、然る後に家族を呼ぶといふに至るのは合理的で寧ろ當然のことであると考へて居ります。それが出來ないやうでは日本人ではないのであります。

五 滿蒙に於ける土地問題

次は、滿蒙殖民について考ふべきは土地のこととあります。此の土地に就ても日本人と支那人とは觀念が違ふ。支那人と云ふものは、土地の使用權を重んじて

所有權の方は大して重く見て居らない。内地から行つて居る所謂日系の滿洲國官吏の或者が、やれ内地から移民を送ると一般民衆が不安を感じるからいかぬなどと出鱈目の事を言つて居るが、それ等の輩は新京あたりで酒を呑みながら空想に耽つてるから、さういふ馬鹿げた議論も出て來るので、現地佳木斯近邊の農民は日本内地から自衛移民の來るのを歓迎して居ります。何故かと云ふと、自衛移民と云ふものは、一面から云へば、大慈善事業であります。匪賊の横行せる天地を王道樂土に化する淨化運動であります。内地に於ては、之に依つて農村の子弟に希望を與へ、現地に於ては匪賊の横行に泣いて居る支那人の爲に、匪賊の害を免れしめてやる、何處から考へて見ても是は大慈善事業であります。

之に對して愚圖々々言ふ人間は、それは物の分らない人間であります。日本内地から行つて高い俸給を載いて新京あたりで朝から晩まで酒を飲んで管を捲いて居る人間だけがさう云ふことを言ふのであります。

尙土地に就ましては、今度行つた永豐鎮近邊を馬に乗つて歩いて見ると、實に想

像がつかぬ程廣い此の山とあの山とを繋いで居る一割が一萬町歩、一反歩の値段は既耕地で滿洲人から買へば一圓前後、國有地ならば大體無償で貰ふことになつて居て、土地の心配は毛頭ありません。先方でも來て呉れ〜と云ふ譯で、滿洲の農業と云ふものは誠に面白い。兎に角經驗が土臺でありますので、こつち南瓜を作りますと、支那人も作る、こつちが宜く出來ると、どうして、さう能く出來たと黙つて居つても教はりに來る。又こつちの豚の方が早く太ると見ると、利に敏い彼等地方農民は、どうしてそんなに大きくなるのか、其の仔豚を賣つて呉れないかと頼みに來る。そこでこつちが豚の仔でもやらうものなら、手を握つて日本人様々とあがめ奉られてしまふのであります。

詰り、農業と云ふものは一般民衆と手を握るには最も良い近道である。私は斷言する。世界人類の平和を建設して行かうと思へば、眞面目なる農業殖民に限る。大和魂を固く持して農業殖民をすると云ふことになり、言はず語らずの中、平和の天地が建設されて行くのであります。それで、土地があるかないか

などと心配する必要はない。今申しましたやうに空いてゐる所にどんく〜入つて行つて地方民と結びつけば宜いので議論の餘地は全然ないのであります。

更に土地について述べませう。滿蒙に就て一般の人は、第一どこに土地を得るか、どれ位の殖民が出來るか、と質問されますが、之れ等の疑問は、日本人式に考へてゐる質問であつて、彼地の事情を知らない結果であります。滿蒙に於て普通二百萬町歩の未耕地があると、言はれて居るが支那の統計はあてにならぬ。實際どの位あるか解りませぬ。しかし未耕地がほつてあることだけは間違ひがない。さればその地に日本人が乗り込んで、日本農民の本分を盡すといふことは堂々とやつてよいことと思ひます。

土地について、一人の人間に對しどの位の面積が必要であるかは、世界に於て未だ研究されて居らない、今度の自衛移民は、二十町歩宛與へられ、五百家族として一萬歩の耕地が出來るとする、さうすると、そこにはお醫者も要る、大工も要る、文房具店も、さては學校も入る、従つて先生がゐるといふやうに、それからそれへと一萬町

歩の開墾が出来た場合には相當多くの人が周圍に集り、相當の數に上らうと思はれるのであります。

それを千二百萬町歩しかない。一家族十町歩としても百二十萬人だけしか行かない。年々日本國民は、百萬も殖える。それをどうするなどといつて之に着手しなかつたならば、非常な間違ひであります。斯くの如き人間は日本國家を害する人間でアメリカの旗振りといつてよいと思ひます。

内地に於て土地に飢えた農民の而かも二男三男に生れ、土地なき爲に生きて行くことの出来ない日本農民が、開拓を待つ滿蒙の廣い天地に行くのは當然すぎる程當然である。何處でも、空いた土地に行つて開拓するのは當り前の事であつて、シベリヤでも、滿洲でも、濠洲でもどこでもよい。それが爲に、國と國とが戦争するといふ場合には、敢て辭する所ではありませぬ。致し方がありません。

だから、兎に角、がむしやりに進めばないのであります。

人々は、いつも理屈を云ひ乍ら、大切なことをやつて居らない。前にも云つたや

うに、千二百萬町歩といつても一人十町歩で百二十萬人では心細いとか、毎年百萬人生れるのに五百人や六百人移民したつて何にもならないと言つてやられないのは、我々は七八十年後には必ず死ぬ。それで毎日の仕事を手につかぬといふのと同じで、實に馬鹿げた事であります。それ故に、一人でも、二人でも、百人でも、移民する、といふしつかりした精神をもつて押し通すことが大切であります。

尙、土地について、滿蒙に於ける自衛移民には滿洲の國家から無償で地面を提供することが當然である。又既耕地は一町歩百圓で人民から買上げられる。こんな風で、暫らくは土地を得るに困らないのであります。滿蒙の天地をして王道樂土に化する爲には、匪賊の横行を防止し治安を守る自衛移民は必須缺く可らざる必然的なものであるから、滿洲國としても、無償で土地を與へるのは當然であると考へます。

特に注意を要するのは、日本からいつて居る滿洲國の官吏と利權屋であります。前者は、滿蒙に於て土地所有權を冒すのは、不可といふ、而して利權屋の如きは、自衛

移民がどん／＼來られては自己の利益を侵害せられるので、之に反對するのであるこれらの言に迷はされないやうにしなければなりません。

況んや既耕地に於ても、匪賊の横行があるので、一反歩の土地が一圓位で買へるので、土地獲得にはさしたる困難はないのであります。そして土地そのものは、永豊鎮でも七虎力でも、無肥料で十年位は農産物がよく出来る。内地に比較しても、朝鮮と比べても雲泥の差であります。又、吉林省、黑龍江省邊も極めて豊穰であつて、内地に見られない優良のもので、然もその土地を得るに極めて容易である、自由移民としても、國有地を買ふとか、支那人から買ふとしても内地と違つて大した困難はないのであるから、實に日本人が發展するに絶好の地方であり又絶好の機會であると考へるのであります。

もう一つ申して置きたいことは、支那人は使用權を重んじて所有權を蔑にする。故に、朝鮮の荒地に支那人が入つて、無斷で耕作してゐる、これに對して抗議を申込むと、空き地に入つて耕作するのにどこが悪いといふ感情を持ち、其土地は使用者

に絶對の權利がある。——といふ觀念をもつて居りますが、我々もその精神で滿蒙に於て活動することが大切であります。

土地を所有し居ながら荒地にして置くのは、一種の罪惡である。内地に於ても荒地にして置くのは相濟まない譯で、手が廻らなかつたならば 陛下に返上して然るべしと思ひます。

六 殖民と資金問題

次は資金の問題で、是は只今では拓務省の方で移民一人に對し千圓の費用を出して居ります。將來は段々農民自身が資金を溜めて出掛けて行くか、若くは政府なり民間なりから低利資金の融通でも受けて殖民すると言ふことになると思ひますが、今の自衛移民に就ては資金は殆ど要らないのであります。小遣位が少しあれば宜しい位であります。

兎に角資金の問題は、やりやうによつては少くとも出来るし、多くても足りない

ものであります。支那人の苦力を使つてやるやうでは、移民は成功するものではありません。それらを使はないで、みづちり自給自足で地固めをして行く。自分で家を建て、自分の勞力で衣食住を得て生活して行く、家畜も少し宛飼つて、だんだん増して行くやうにすれば、その割合に費用がかゝらないでやつて行くことが出来ます。酒や煙草も買つてゐてはたまらぬが、一年なり半年なり待てば、それを自分で作ればよろしい。現に葡萄から美味しい葡萄酒を作り、高粱から飴を作つて居る、煙草も專賣ではないから自由に作ることも出来、それが大した年限でなくして出来るのでありますからさして不便ではないのであります。

しかし乍らいざといふ場合には、酒とも絶交するといふ意氣込みは大いに必要であります。酒と絶交せよといふのは無理だ、あれも無理だ、これも無理だといふのは、日本國民を侮辱したもので、移民を決行する場合には早晩その地に於てその家の先祖になる大事業をするのでありますから一年や二年の間此等のものを我慢するのは當然であります。又斯くの如く指導するのが大切であります。

そりや無理だなどと云ふのは、實に移民を毒する言葉であります。或人はいふ――加藤君のいふのは無理だ、君のやうな人や、君の學生にはそれは良いかも知れないが、社會の風に觸れた在郷軍人に之を要求するのは無理だ――といふ。若し、之が事實とすれば、私は、軍隊教育そのものを疑はざるを得ませぬ。軍隊の教育を受けたものが、酒や煙草が止められず、女子がゐなくてはといふ人間に早變りするといふ結論であるならば、國家の爲にも寒心すべきことであります。眞に眞面目な軍人なら、一年や二年は女子がゐなくとも酒がなくともこれらを斥けて差支ないといふのでなくてはなりません。それをやれ煙草だやれ酒だといふのはアメリカの人間かイギリスの人間で、アングロサクソン病にとりつかれたものといつてよいのであります。

日本の武士道の教育は、そんなものではない。ある軍人の話に明治十年熊本城に籠城した事のあつた時に、煙草が喫めなかつたので大いに苦しかつた。そこで煙草と言ふ奴は恐ろしいものだ、煙草は實に國を危うするものなりと知つて、斷然之

をやめたといふ話を讀んだことがあります。日本武士道の精神はかくあるべきものであります。

七 殖民と防備問題

これについては、匪賊の大部隊は征伐されてしまつて今は小部隊のものであるから、之に對抗するのに大して心配はない。小銃か機關銃位でよい。それに防備については、只今では、關東軍の方で十分に保護して呉れますから、心配は要らないのであります。前にも申したやうに、日本人が支那人の心理をよく知り、油斷をしないことが唯一の防備であります。くれぐれも油斷することが大禁物で、自衛移民の心得べき大切なことで、殺されるといふのは、この支那人を知らぬ爲に油斷してゐた結果が多いのであります。

八 殖民と醫科問題

滿蒙に於ては、風土病に苦しむといふこともなく、況んや自衛移民には醫者が附せられてゐますから、病氣に對しても心配は要りませぬ。消化器病に胃される位のもので、之れも亦大して心配はいらないのであります。極めて滿蒙の天地は保健状態にはよいと申して宜しいと思ひます。現在、永豐鎮の自衛移民隊には、京城帝國大學出身の醫學士の夫妻が付き添つて居ります。そして民屋の一部を病舎にしてゐるが行く／＼は病院も建てたいといふてゐる位であります。

九 移民經營の打診

次に經營の問題に就きまして、最も詳しくお話したのであります。滿蒙の農業がむづかしいとか何とか云つて居るのは、皆農業の分らない人の議論でありまして、現に羊の如きは幾らでも飼へますし、小麥等も幾らでも出來ます。羊と小麥とだけを考へても、内地では羊毛を澤山輸入して居りますし、小麥も相當輸入して居るのであります。此れ等を飼育したり、栽培したりするだけでも輸入の防遏を

なし得るのであります。

現に羊も飼ひ、小麥も作つて居る。而も無肥料で作つて居るので、滿蒙の農業經營が行くも行かないもない。經營がうまくゆかぬかといふ議論は實に馬鹿な議論である。然らば、君一體どう云ふ案を以てやるのかと何時でも聞かれませんが、僕に案等はない。僕の案は無案の案であつて、農業と云ふものは案を立てると云つても本當に立つものではない。立つものでないから、全く無案かと謂へばさうではない。小麥も、ライ麥も、馬鈴薯も出來ると云ふ事實を私共は調べて前以て知つて居るのであります。此の事實を凝視しつゝ種々畫策して居るのであつて、やつて行けると言ふ自信なくして北滿の天地に人の子を送り出しは致しませぬ。現に行つて見れば、草も四尺も五尺も生えて居つて、作つて見れば何でも出來て居るのであります。でありますから、自給自足を原則として、それから徐々に混同農業をやれば、立派にやつて行けると云ふ見當は就いてゐます。併しながら斯うやれば幾ら儲かる、と云ふ所謂愚案は今之を作る必要はありません。

人々があんまりくどくどしく案があるかと聽くから、「君、來年此の畑に雀が何羽來るか分るか、又夜盜虫が何匹來るか解るか」と反問するのであります。私の學校の友部の農場でさへも、時に依ると夜盜虫が出るだらうと思つて準備すると、些とも來なかつたり、今年は來まいと思つて居ると、大襲來をして來てふう／＼云ふこともありすが、要は努力奮闘あるのみであります。鳥が出て來たり、虫が出て來たりすることは、一々計算出來るものではありません。農業の技師の作つた案と云ふものは、すらく／＼成功したためしはない。それにもかゝらず尙且つ案々と云つて居るのは、閑人の云ふことであります。だから、經營と云ふものは、吾々に任せれば宜しい。心配はありません。されば茲に唯皆さんに申上げて置きたいことは學校に於ける修養是だけである。滿蒙の移民は、必ずやらなければならぬし必ず出來る。だから貴君方は農村の子弟、殊に二男三男に生れた者に對して、「如何なる困苦缺乏にも堪え得る身體に自分自身を鍛へ上げよ、さうして農業的知識技能を磨いて置きなさい、さすれば、將來必ず滿蒙の天地で立派な農民になれる。」

斯くの如く能く言ひきかせて、彼等が悦んで心身の鍛錬陶冶に自分を捧げ盡すように指導して願ひたい。是がお願であります。

それに對して一番宜しい方法は、あなた方の村からして、自衛移民を一人でも送りなさい。其の者が成功すると、彼等は必ず手紙で其實情を友達に知らして來る。其の手紙の寫しをどしどしとつて多くの者に配る。さうすると、それを皆が見て希望に満ちて参ります。そこで實業補習教育を授けると別に注意せずとも皆勤勉力行の青年になつて行きます。かくして滿蒙の知識をあなた方自身が先づ成るべく深くして下さいます。それを子供なり青年の心に明確に植付けて戴きたいものであります。

移民の問題について、更に附け加へてお話ししたいと思います。

扱て前にも申しました如く、私は自給自足を立前といたしまして、凡ての農業は行はるべきものと思つて居ります。今の永豐鎮の自衛移民の場合に置きましても、農産物は大抵出來、十分に自給が出来るので誠に幸福であります。

滿蒙に於て、農業を始むるには第一に建物が無くては出来ませぬ。然しこれも心配はない。壁土もよき土があり、又よい草があつて、屋根を葺くにも都合よく、又自衛移民では煉瓦さへも作る装置をしてゐて、將來家を造るに敢て不自由はないのであります。次に燃料であるが、これも丁度よい事には近所に森林があつて薪炭には困らない、それに稗や麥が出来るから、それを枯らして其の稗を燃やしても寒を防げます。食物に就て言つても、彼地の將來灌漑排水の便を計れば立派に米も出來、麥類もよく出来るからパンも作れる、又小麦から飴、甜菜から砂糖も取れるといふわけであり、食べ物にも心配は要らないのであります。殊に有難いことには羊が十分に飼へるし、蠶もよく出来るので衣服の問題も解決出来るのであります。それに麻もよく出來て、實に自給自足し得るに十分の天地であつて、衣食住には事を缺かない有様であります。

農民は自分の手に成つた農産物を加工して之を使用する特權がある。住む家も、思ひ切つて文化生活を爲し得るやうにすればよい。着物も、羊の毛があり蠶が

飼へて藪が取れるのであるから、思ひ切つてよきものを着ればよい。何も支那人と同じやうに、まづいものを食べ、きたない着物を着て暮す必要はないのであります。我々の信ずる所をやつて、文化的に新農村新社會を建設して行けばよいと思ひます。もうこれだけいへば、經營の問題についても餘計の心配をする必要はないことでありませう。

それから前にも申しましたが、農民が只自給自足だけ出来るといふのでは、眞の日本農民とは言へない、日本農民にはそれ以外の階級の爲に衣食住を供給する使命がある、茲に於てか交換經濟の世の中であるから、金錢を獲得する必要も生じて來る、滿蒙に於ても、農民の作つたものを社會に提供して金錢を得る必要も、當然起つて來るのであります。之に就きまして、次の二點を考慮する必要があります。

滿蒙に於ては實に小麥がよく取れます。現在、日本に於ては、外國から小麥を何千萬圓と輸入してゐるが、之が北滿に於て日本人の手になつた小麥を内地へ供給するやうになれば、こんなよい事はないのであります。従つて、さうなれば、滿蒙か

ら内地に小麥を送り出して、之を内地で製粉して麩を得ることが出来れば、これによつて家畜の飼養にも役立つことにもなれば、家畜家禽の數も自ら増して來ると存じます。

羊毛の如きも、現在内地に於ては、外國より輸入してゐるのであります。我々日本人が滿蒙にて羊を飼ひ、羊毛を取れば、外國から取て入れる必要がなくなります。此の間も、朝鮮の江原道淮陽郡新興里にゐる青年——日本國民高等學校の卒業生から羊の毛皮を十枚送つて來た、これをなめすのに一枚三圓五十錢かゝつたが立派なもので、之を七圓位に賣れば、農民に向つて、一枚三圓が四圓は支拂へることになります。所が、實際に於てその羊の皮が、市價では十五圓位してゐる有様であります。而して、新興里の農民として羊の肉も罐詰にして貯藏して置くことも出来るといふやうな話で、彼等の將來は大いに有望であると思ひます。

滿蒙に於ては殊に此の永豐鎮の自衛移民の場合に於ては、羊の飼育、牛の飼育は非常に有望であります。

小麦と羊の此の二者だけを考へても、滿蒙農業は經營し得るのでありますが、尙甜菜の如きも之を栽培し、之に加工して砂糖を作ることも出来る、そして、その搾り粕は、豚を飼ふことが出来、豚からはハム、ベーコンを作り、豚の皮で椅子を拵り、毛で刷子を拵る等の農産製造工業の發展も考へる事が出来るのであります。又草が非常に豊富でありますから牛も容易に飼へまして、或はバター、チーズを作り、牛肉の罐詰工業も可能であります。之を要するに混同農業で行くがよいと思ひます。最新式の合理的經營法を考へてやつたらよい、支那人のやうなきまり切つて幼稚な經營法による必要はない、頭で勞働し機械を用ひて堂々と合理的農業を爲すべきであります。

日本農民―内地に於て狭い土地で肥料を澤山入れて、高い租税を拂つて苦心慘澹して經營してゐた―農民が、廣い面積の無肥料の所で、優秀なる農産物を拵へるといふことに於ては、我等支那人に斷じて負けないのは當然であります。

尙又滿蒙の農業經營について、特に大切なことは、將來彼等移民が獨立して經營

して行けるまでは、共同經營をすることでありませぬ。論者或は言ふ、共同してやると怠け勝である。責任觀念が低くなるといふが、それは責任を知らない人のいふ事で、實際眞面目な思想をもつてゐる人なら、與へられた面積で將來安心して獨立出来るまで、共同一致して經營するに異存のある筈はない。それを始めからそのやうな事を周圍でやかましくいふから移民が動き出すのであります。

次に、農業經營についてどんな風にしてやつたらよいかといふ質問を受けたが、それも無理な質問で、その土地に三年なり五年落ついてやつて見て、その上で、定めるといふやうでなくては、本當の案は立ちませぬ。初めから定まるものではありませぬ。支那人がやつてゐるから、それをやるといふのでなく、新しい農業經營法を以て、新しい土地を開拓して行くのであるから、四五年みつもりやつて其の上で合理的經營法を定めて然るべきであらうと思ひます。

今まで滿蒙移民に失敗した人を見ると、農業技師の立てた實際は出来ない案を以て、苦力の使ひ方も知らない人間が多數の苦力を使つて、比較的少ない資金で之

を開始した爲に失敗したのであつて、寧ろ我々から言ふと失敗するのが當然であります。あゝ云ふやり方ならば内地に於ても失敗するのであります。滿蒙に於て少くとも二、三年みつちりやつて見れば、支那人の氣心もわかり、苦力の使ひ方にも慣れ、馬も使へるし、農作物に對しても自信が出来、農學經營に對する案も生れて來るものであります。かくして始めて我々は企業的農業を營む事が出来るのであります。

經營の上に於て最も大切なことは、移住地に於て、移殖民が自ら衣食住の資料を得ることを徹底することである。それが出来れば幸福である。富士山のてつべんには、富士山のてつべんとしての楽しみがある。それを、富士山の上で牛肉が食べなかつた酒がなかつたから殺風景だといふものがあつたならば、世の中の人は、之を馬鹿と稱するであらう。富士山には富士山の喜びがあるやうに、滿蒙の天地に於ても、自ら耕し、自ら食ふ間に、そこに無限の喜びがあるものであります。娛樂がないと云ふが、前にも言つた如く、家を自分で作り、色々と工夫して見る、甜菜から

砂糖を作る、小麦から飴を作るといつたやうにして居れば、そこに楽しみは自づと湧くものであります。移民には娛樂がないから可愛さうだなどといふのは、實に當らない批評といつてよいのであります。

之を要するに、團體移民たる自衛移民に於ては、經營の上に立つ人—即ち幹部の人に一任してやつて行くことがよいと思ひます。若し、滿蒙移民に困難ありとすれば、それは人間その人の心掛にあります。日本の農民ならば、そのまゝ移して十分に出來ます。不安に感ずるのは長い間平和の夢を食つた日本國民の萎縮した精神からきた結果であつて、眞の日本農民であるならば、如何なる困難もつき破つて協力一致、新天地に活動し得ると信じます。我々は現實の日本の社會をよく凝視した時、どうしても滿蒙移民を大々的に斷行しなければならぬことを痛感いたします。又眞の日本農民たるものはかゝる天地に活動することに無限の喜びを感ずるものでなくてはなりません。

第四章 販賣取引問題の改善策

一 農民の使命と販賣取引の改善

次ぎは、販賣取引の問題、農民は成るべく餘計の物を買はないで、自給自足を原則として進み、而かも常に國家有用なものを作る、即ち農民には、農民以外の他の職業に従事して居る人の爲に衣食住の供給をすると云ふ尊い使命があります。若し自分が自給自足をするだけならば、それは農民とは言はれない、農民と云ふのは、自分の衣食住を生産すると同時に、軍人なり、學者なり、労働者なり、或は教員なり、僧侶なり、兎に角農民以外の他の職業に従事して居る人、國家有用な仕事に汗を絞つて居る人の爲に衣食住を潤澤に供給する、さう云ふ使命を持つて居ります。農民の使命は實に此處にあるのであります。

交換經濟の社會に於きましては、所謂取引問題と云ふものが起つて來るのであります。其の取引問題が、洵に現在には不合理に行はれて居ります。何時でも、農民と云ふものは下敷きになつてゐてはたかれて居ります。そこで是の改善をしなければなりません。私の學校では、今東京に販賣所を設けまして、さうしてそれを根據地として、卒業生の生産物、學校の生産物、さう云ふ物を販賣して居るのであります。即ち之によつて販賣取引の改善に一步一步進んで行かうと考へて居るのであります。

日本の農家は、非常に規模が小さいのであります。歐羅巴では農業を一種の企業と見て居りますけれども、日本の農家は餘りに小さな農業を營んで居りますから、先づ第一に自給自足をやる、與へられた地面の上で、農家自身が生活をして行くといふことを原則としてやりませぬといふと、英吉利あたりの農民のやうに土地を借り、金を借り、労働者を使つて農業經營をすると云ふ様な事はなかく、六ヶ敷しい。又さう云ふ形式で内地でやりました場合には到底成功は覺束ない。それ

ですから、どうしても自給自足を原則としてやつて行くより仕方がないと私は思ふのであります。

私は随分以前から此の主張を致して居つたのであります。以前には私の友人などで、何だ加藤は、日本の農業を神代の昔に引返す積りか」と云つて、悪口を云つて居つたものもありました。所が今になつて見ると、段々自給自足を原則として農業經營をすると云ふことに何時の間にかやら皆の意見が變つてしまつて、今では大概の人は自給自足を原則としてやると云ふことを主張する様になつたやうな有様であります。

併し、自給自足を原則としてやるに致しましても、唯其の自給自足だけでは農民とは言はれないのであります。田舎に閉籠つて、且勤勞をして、靜かに自給自足の生活を送つて行くといふのでは、農民とは言はれませぬ。農民と云ふものは、度々申しました様にそれ以上の社會に向つて自分の汗の結晶である所の農産物を提供する所にあります。此の使命を果さなければ、どうしても農民とは言はれない

のであります。

二 農産物取引の不合理

所が、其の農産物の販賣取引が非常に不合理である爲に、何時も農民は一口に申せば踏み躪ふみおられて居ると云ふ形であります。其處で能く農民救済と云ふ言葉を云ひますけれども私は之に反對であります。其の農民救済と云ふ言葉を解剖して見ると、如何にも農民が乞食根性になつて居るやうに思ふのであります。併し物價が安い、即ち農民の汗の結晶たる物價が安いといふ時に救済されて居るものは、一體誰であるか。斯く考へて見ると、私は寧ろ役人軍人さう云ふ俸給生活者が救済されて居るのだと思ふ。物價が安いと云ふことは、俸給生活をして居る人の生活が樂であると思ふ。これは言ひ換へて見れば、經濟上助つてゐるといふことである。農民の努力に依つて衣食住が潤澤に得られたために、其の結果は、農民以外の他の階級の人々は、誠に生活が安定して居る。と云ふ譯で、是

は農民に感謝すべきであります。さう云ふ譯で、救済されてゐる人が、救済して居る人を救済すると云ふことは理論上あり得べからざることでもあります。

さうではないのであります。餘り農産物取引の問題が不合理であるから、其の不合理を解決しなければならぬ、さうしなければ農民に相濟まぬと云ふならば、理窟が立つ、これを救済々々、もうなんでも救済といふのであります。丸つきり頭がそつぽ向いてゐる、農民も亦自分が救済して居りながら、救済されて居ると思つて居る、是れ位頭の悪い人間はありませぬ。

私はさう思つて居ります。汗を擽つて作つた品物を社會に提供さへすれば、それが農民の使命を果したことになる、そして彼が提供する品物が多ければ多い程、其人は餘計使命を果して居ると云ふ譯でありまして、此の際に於ての金錢の獲得、是れは即ち結果であつて、目的ではありません。勿論時には金錢の多寡が農民の使命を果す分量の多少に比例する場合もありますが、併し金錢獲得が農民の使命を果すといふことではない。農産物を社會に提供すると云ふのが使命で

ある。金錢獲得は結果であつて附けたりであります。

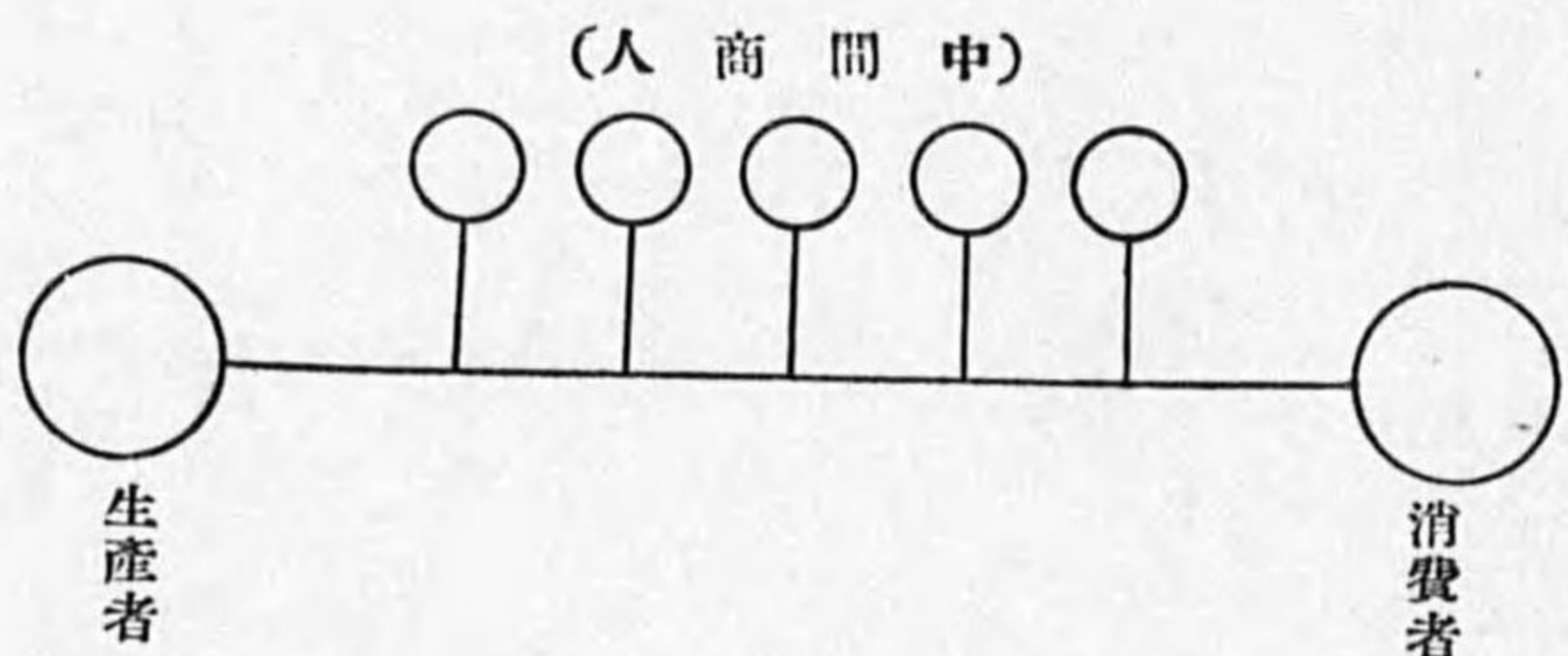
皆さんにしてもさうであります。視學の本分を盡すと云ふことは、金錢を得ると云ふ事ではない。學校の先生もさうである。學校の先生となつて、専心一意教育に盡して居つたが、俸給がさつぱり來ぬ。それでも其人は立派に教育者の使命を果して居る、唯社會が之を待遇する途を知らぬといふだけであります。私の學校にしてもさうであります。一ヶ月も二ヶ月も俸給を支拂はれぬけれども、職員は教育に努力して居る。私の學校の職員は、俸給が來ようが來まいが一意専心生徒の教育に當つて居る、之は則ち教員たるの使命を果して居るのであります。俸給を與へられないと云ふことは、それは社會が其の者を待遇する途を知らないのであります。農民に於ても其の通りでありまして、農民がその汗の結晶を社會に提供する。其の時交換條件として社會は彼等に金錢を與へる。而かも其金錢が極めて少い結果農民が租税も拂へぬと云ふ時に、その農民が可哀相だから之を救濟すると云ふ言葉は珍妙な言葉であります。私はどうしても之を返上しなければ

ばなりません、それだから、救濟事業は私は大嫌ひであります。

三 生産者から直接消費者へ

兎に角、此の取引問題が現實に於て不合理に行はれて居ります。然らば之をどう云ふ風に改良したならば、合理的取引が行はるゝ様になるか、具體的にどう云ふ途を取るべきかと云ふことを私は前から考へて居るのであります、それには第一に、大阪とか東京とかいふ所に農民自身が自分の生産物の販賣所と云ふやうなものを作つて、直接消費者に其の作つた品物を送り届けると云ふことが、取引を合理化する第一歩であると思ふのであります。

此の間も申しますやうに、生産者と消費者とが何とかして結び付かうとして居りますが、元來日本は人が多くて土地が少い。其結果としてどうしても仕事が少い。一方商工業が発達して行く割合より多く人間がどん／＼殖える、其人口を吸収するだけの商工業が発達してゐないのであるから、仕事がなくて困つてゐる人



が多くなる。それで生産者と消費者との間に、これ等の人々が入り込んで来て農民の汗によつて出来た品物を順繰り／＼に送つて行く、この中間に入る人が多いのであります。

其の入る人が多いから、一人の利益を調べて見ると決して多くはないのですが、其の品物を消費者まで送り届ける間に於て色々な方法で、此れ等の人々が色々な手数料を取つて行く、其の一人一人の手数は決して多くはないけれども数が多から大きな額になる。それで消費者の手に入る時の価格と、その品物が生産者の手放れる時の価格とを比較して見ると、丸で考へも及ばないやうな違つたものになります。

例へば此の間、山形の萩野開墾地の大根の販賣を學校

の販賣部でやつて見ました。此の萩野にては五百町歩の開墾地を七十七戸の農家が集つて經營をして居るが、此の指導員の高橋君が来て、今年も随分澤山の大根が出来たが、相當に良い宮重大根がつい先達て一本五厘で、秋田縣の方に賣ることが出来たが、何とか今少し高く賣れぬものかとこぼして居りますから、實は萩野開墾には、自分も責任があるので、一肌ぬいでやりたい、何とか各農家を立派にしてやりたいと思つて居るのだが、どうも今迄氣持が悪い、連絡がとれない、それで高橋に、君は一體眞剣に此の販賣部と連絡をつけてゆきたいと思つて居るのかと少し怒つて問ひたすと、高橋は涙をこぼして、イヤ勿論連絡をつけて、先生の云ふ通りにやつて見度いのだと云ふから、そんなら君に云ひたい事がある。僕は始から其の土地に於て生産する品物は悉く此販賣部を通じて、最も合理的に販賣しやうと眞剣に考へて居つた。それを都合の好い時に出荷したり、都合の悪い場合に止めたり、さう云ふ態度に出られたんでは、連絡が取れない。だからして是からは、さう云ふやうに出したり止めたりせず、命令通り出荷するやうにして貰ひたい。自

分の都合の好い時に勝手に出して来て、都合の悪い時にさつぱり出さない。それではいかぬ。此方が困つても何でも構はぬ、又困らしても構はないと云ふ態度ではいけない。此の販賣部は自分の店であると心得るべきで人が自分の店で品物を賣る場合には、全く賣り易いやうに注意することに依つて始めて自分の品物の取引が圓滿に行くのであります。其の決心がつくかどうか。さうでなければ、我々は君等と手を携へる譯にはいかぬ。君が僕の意見に服従して何處までもやると決心するなら、君の意見を農民が利かなければ君はさつさと止めなさい。そんな所に嚙り付いて居る必要は毫もない。そんな我儘三昧をする農民の先登に立つて何とか親切を盡さうと云ふ必要はない。此方をまるで小使の如く考へて居る農民に對しては、我々は汗を絞る必要がない、斯う云つて實に亂暴な事を申しましたが、高橋は解つたといふので歸りまして、此の間皆を集めて談判したらしい。若し自分の意見をきかなければ、自分は止める。高橋がやめれば困ることは解り切つて居ります。それで皆解つて先生の言ふ通り、生産物の販賣をやつて貰ひた

いと云ふことを申込んで来た。それでは直ぐやつてやらうと云ふので、大根一貨車扱つて見たのであります。

所が驚くのであります。今までの大根が五厘にしかならなかつたものが、今度は手取が三倍以上に賣れて居ります。運賃を除いて正味一錢五厘位支拂ふことが出来た。其の代り丸で戦争であつた。何しろ萩野から大根が着くとそれを洗ふ、販賣部の前には大根か山程積んであるので、八百屋がぞろ／＼やつて来て、何とかかんと云ふ。「それぢや、洗方が悪い」とか、「それぢや賣れない」とか、その癖皆買ひたくてたまらないのである。それ等を皆拂ひ除けて一部を問屋に他の一部は小賣としましたが、賣價が高い時には、一本五錢以上となりました。尤も平均すると、三錢何厘とか言ふのでしたが、兎に角さう云ふ風になつて居る、一本五厘で手放した大根が一本五錢以上すると云ふ事は、一體どういふ譯か。若し、農民が大根一本一錢で賣ればそれで以て相當引合ふのであります。何故かと云ふと、一反歩で賣り得る大根は三千本以上はあります。二尺うね、一尺株間として植付けても五千

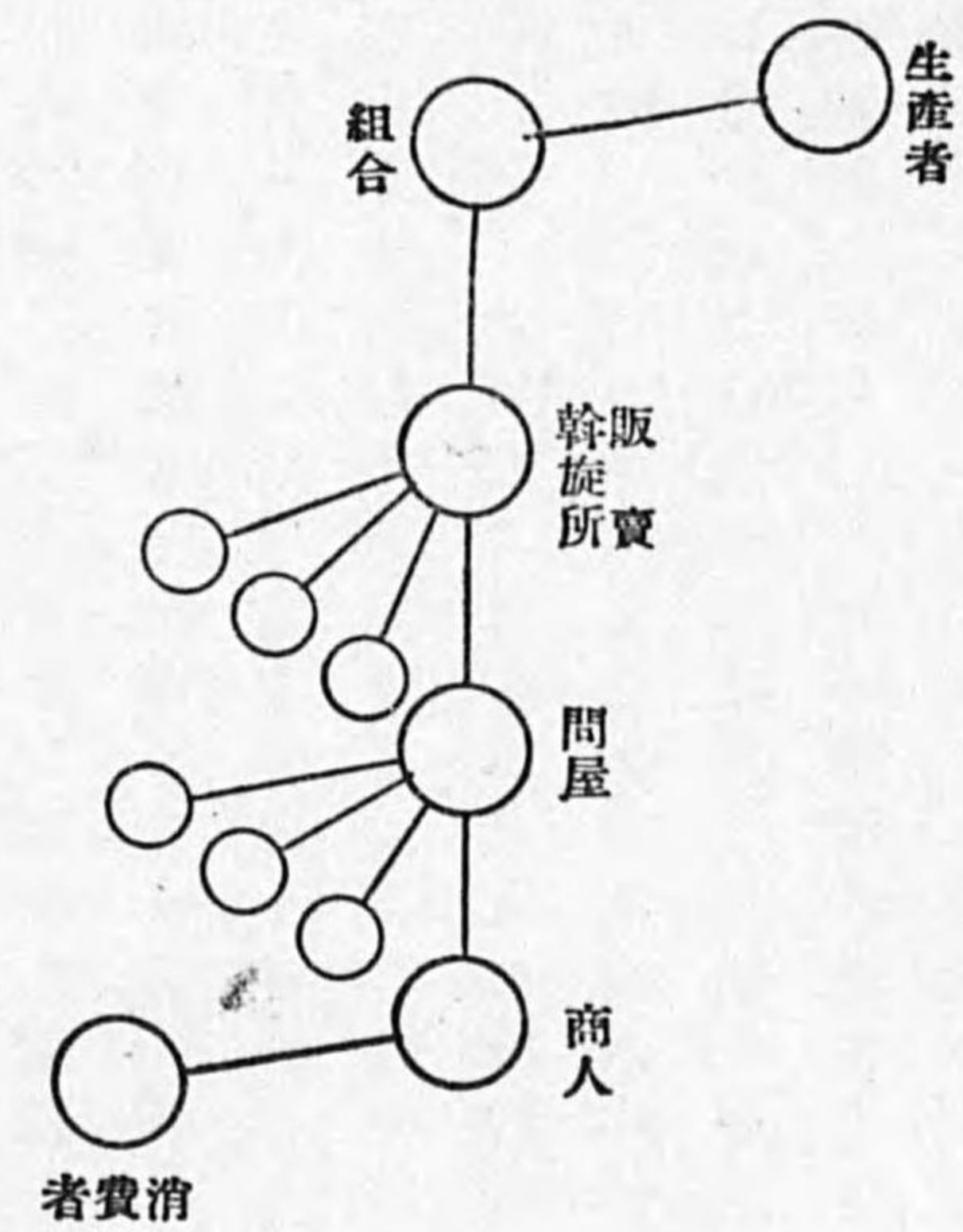
幾らかになるから、それに對して商品として賣出し得る物は三千本か、そこらは當然あるのであります。さうしますと、一本一錢で賣つたら、其の収入が三十圓と云ふことになるから、三ヶ月ばかりの努力に依つて、一反歩の總收入三十圓、肥料が五圓以上要りましても、大體大根だけ作つて二十圓位の収入になるから決して悪くはないのであります。是れが若し一錢五厘に賣れるとしましたら、大根の栽培は經濟的に考へて、決して今の時代で悪くはないのであります。でありますから、それが一本五錢と云ふことになつて参りますと、それこそ、農民として大變な収入になる譯であります。だから、農民としてそんなに大きなことを要求しなくても宜しい、私共は小賣では大抵最大限四五錢位に賣つた譯であります、即ち洗つて、それを運んで、問屋へ持つて行つてやつたり、小賣をやつたりしたので、それからまた、痛んだ大根などを取除いて平均すると三錢何厘と言ふ譯で農民には一本二錢運賃先方持としたのであります。之で農民もよいし、消費者も喜ぶし、又販賣部も基礎が固まつてゆくのであります。

四 現實の問題

今のやうに努力すれば、現實の問題として、前の一本五厘の大根が三倍にも高く賣り得るのであります。だから、今少しく農民自身が眞劍になつて、自分の生産物を途中で利益を吸収されないやうにして、直接消費者に結び付くことを本當に徹底しますならば、農民と云ふものは今の有様でも金錢獲得の上に非常な不利の立場に置かれて居るといふことが餘程緩和される、これだけは間違ひないのであります。ですから、どうしても其處に一つ進んで行かなければなりません。

今帝國農會販賣斡旋所とか、或は中央卸賣市場が出来て居りますが、よくあれ等の制度を考へて見ると、帝國農會販賣斡旋所にしても決して農民が直接消費者に結び付く所の機關ではない。此の間、私も行つて色々話をして見ると、斡旋所では多くの組合から託されて居る。物を競賣に附する。さうして問屋に皆卸す、其の間屋が又商人に賣る。これ等の問屋商人は手数料を取つて居ります。従て斡旋

所の手數料が一定して居つても、第二、第三の手數料が解らない。兎に角、一二三少くとも二つといふものゝ手數料が分らないのであるからして、斡旋所に於て幾ら手



即ち取引が安全だから、斡旋所へ出すと云ふことになつて居ります。併し、是も調べて見ると、販賣斡旋所は、金錢の保證はしないのであります。

數料が少くても、他の中間の方でなければ、生産者の送り出す品物は消費者の手に渡る時に高くなつて居る。さういふ譯であるから、斡旋所が出来たために、生産者及び消費者が直接結び付くといふことが出来たとは言はれない。事實結び付いてはゐない。只、販賣斡旋所に物を出せば、間違ひなく金錢が取れると云ふのであります。

現に此の間斡旋所と取引をして居つた問屋が破産して何萬圓とか回收不能のものが出来た。それが爲に其の何萬圓とかを生産者が損失しなければならなかつた場合、それを斡旋所は保證することは出来ないのであります。でありますから、なか／＼販賣斡旋所なり、中央卸賣市場が出来たからと云つても、消費者と生産者との連絡はむづかしいものであります。

五 自己の農産物の行末を見届ける

生産者と消費者が結付かないで、今のやうに途中で色々なものが居りますと、是等途中に居るとれかが利益を得て居るのであります。それで、田舎は段々さびれてしまふ。現代日本に於ては、都會と田舎の一經濟上の連絡が更にない。都會に於て宿屋が繁昌する、食堂が繁昌すると云つても、農民には或る意味に於て無關係であります。無關係どころか、時によると此れ等のものに農民は知らず／＼の内に搾取されて居るのであります。即ち、よく農民の生産物の取引状態を眺めて見

ると、幾らレストランが繁昌しても、宿屋が繁昌しても、それ等の連中は農民を踏みにじつて、或る意味から言へば農民を足蹴にかけて、さうして榮えてゆく連中でありませぬ。其の又やり方が、實に極端であります。

一例を擧げて見ると、或る宗教團體で慈善事業、社會政策をやつて居ると主張してゐる所があります。名前は避けますが——大變眞面目な人で而も宗教家で、社會的に非常に活動して居るからと云ふので、親類から紹介されました。そこで色々話をしたら共鳴してくれるだらうと思つて、私は本氣になつて話に行つた。學校で馬鈴薯が出来るし、又其處では馬鈴薯を使ふのですから、「一つ學校の馬鈴薯を使つて見て下さい」と話し出した。「私の方では、せめて八錢に取つて貰ひたい」と申込んだのです。さうしたら、「高い七錢でなければ取らぬ」と云ふ、それが街での小賣では二十二錢の時であります。頻りに高いと云ふので腹が立つたから賣らないことに致しました。

そこで或時、どう云ふことをして居るかと思つて、其の食堂へ行つて見た。さう

したら、英語で色々書いてある。英語と云つても假名にて書いてある。Boiled potato Vegetable Salad 斯う云ふやうに書いてある。一體、そんな風に書かないでも野菜サラダと書けば宜い。兎に角、此れ等のものを取つて見た。さうしたら、之を一皿に盛つて來まして、是れが兩方で十錢宛で一皿二十錢。見れば、皿の中に馬鈴薯一個が二つに切つて並べてある。それに一つのトマトが幾つにも切つて、それにチサが一枚か二枚、其の上へマヨネーズ・ソースをチョツをかけて、それで二十錢であります。ポイルドポテート一個十錢であります。私は驚いた。能くも圖々しく、こんなに高く賣れるものだと思つた。一貫目の馬鈴薯は二升五合、大抵四十個あります。それを七錢でなければ買はぬと云つて頑張つた人が、一個十錢で之を賣つて居る。四十倍の暴利を食つて居る。或る時僕が此の事を或る人に話したら、都會の眞中であんな大きなビルディングを以てやつて居るのだから、無理もないと云ふ。とんでもないことである。「そんな大きな建物の重い奴を百姓に背負はせると云ふことは、誠に罪惡である。僕等がビルディングを造つてくれと頼んだので

はない。自分等が勝手に作ったのだ。自分等が勝手に造つて置いて、さう云ふものを皆農民に負はせると云ふことは道理に合はない。氣持の好い食堂を造ることとは異存はないが土地建物の費用まで農民に負はしてしまふといふことが私には分らぬ。今の社會は總てさう云ふものを皆農民に負はせてしまふ、それで消費者に安く賣るのだ、慈善事業をしてるんだと廣告してゐるが、私に言はせると何が慈善だ、それは慈善にあらずして偽善だ。人を助けるのぢやない、人を苦しめるのである。消費者を助けると見せて、生産者を苦しめる偽善と云ふものだ。さう云ふものは打こはさなければなりません。之は極端論ですけれども、今でもさう思つて居ります。

それで、どうしても農民は自己の生産物の行末を最後まで見届ける、其處までやらなければならぬ。さうしなければ氣が濟まないのではありません。それにはホテルとか、レストランとか、さう云ふものは農民の味方となつて働くものに經營させるか、或は農民自ら經營する、其處までやらなければならぬと思ふのであります。

あなた方は、農民即ち生産者を倒してはいけません。生産者を倒すといふことは、國の礎をゆるがせることである。自分達も農民のために働いて居るけれども、農民も亦一面から言へば、自分達の爲に汗水を流して呉れて居る。其の生産者たる農民を飽まで虐げると云ふ現代の社會は、之を改造せねばなりません。教員の會合所たる教育會館の如きを東京に作ると言ふ場合には、其の食堂又はホテルの經營は出来れば之を農民の團體さう云ふものに經營させると云ふ風にして貰ひたい。私は、日本青年館の食堂なども、喧しく云つて我々にやらして貰ひたい、さうすれば、農村の生産物を活用してやつて見せると主張して居るのであります。

六 農村問題の解決は自分の足下から

今日のやうに、皆都會に於ける人々が、農民を蹂躪つて利益を貪りつつ、それで以て農村問題の解決とか何とか云つても、それは駄目であります。農村問題の解決は、自分の足下からやつたら宜いのであります。

帝國農會が頻りに米の値段がどうの斯うのと言つて居りますが、そんなことより、先づ第一にホテルの經營でも始めるが宜い。そしてそれを農民の經營にすれば、それが繁昌をする場合には、田舎の農民も亦恩惠を受ける。都會と田舎との連絡をつける爲にもつと農民が都會に進出致しまして、最後に食堂からホテルの經營まで農民自身がやるやうにしなければいけない。東京にはやれ寶亭だ、やれ何だと云つて、食堂が澤山あります。聞くところによれば、其の株主の中に農民は一人もゐない。私は實際に調べた譯でないから知りませぬが、何でも軍人とか、教育家とか言ふ人まで株主となつて居るのに、農民は一人も居ない。さう云ふことが社會政策上善いか悪いか、軍人金を愛すれば其の國亡ぶである。更に私の聞く所に依ると僧侶まで株主となつて居ると云ふ。是等は餘程考へものであります。

さうして、その下に働いて居るコツクなり何なりは常に商人をとつちめて其材料を購入して居る。其の商人は農民を踏にじつてゐる、否踏みにじらざるを得ないのであります。又時には偶我々が眞面目な品物を持つて行つて、此等の食堂な

どと結付かうと思ふと、コツクの多くは、商人との腐れ縁が出来て居ります關係上、甚だしい時には、我々の納めたものをすり變へてしまつて、斯う云ふ物を持つて來ましたと其の主人に虚言を言ふ。ですから我々の方に直ぐ主人から尻が來る。例へば卵にしても毎日検卵して居りますから、斷じて腐敗せるものはないと云ふことを斷言しても宜いのであります。それが、それなのに腐つたものを寄越して困るなど云ふ。そこで少し突込んで調らべると、終ひには何でもないことが暴露する。主人が若しコツクなど止めるなら止めても宜い、正義の爲には間違つたもの悪いものは放り出してしまふと云ふ覺悟でやつて呉れれば有難度いが、其處まで腹の据つた者は少なくて、結果は有邪無邪に終るのであります。さう云ふ點で、なかなか六づかしい。それで常に農民が責を負はされるのであります。

七 東京に於ける販賣部の經驗

我等は、販賣部を二年間やつて見て、いろ／＼なことを突止めて居るのであります。

す。或る大きな有名なホテルで卵を取りたいと云ふので、其の連絡を付けた。向ふから調度係がやつて来て、斯んな立派な卵なら誠に有難い、安心した幾らでも取ると云ふので納入し始めて居つたのであります。さうすると、急に「卵はもう要らない」と云ふ、おかしいと思つて、だん／＼調らべて見ると、コツクが商人から取るところにしたとの事、つまり商人から取るとコツクの幾らかの収入になると見えまして、我等の方とは取引中止となりました。そして止める時には、やれ卵が悪いとか、黄味の色が薄いか、何とか理窟をつけて止めてしまふ。若し本當に黄味の色が薄ければ、之を濃くする途もある。薄いと思へば、幾らでも濃くしてやることも出来るのであるけれども、何とかかんとか理窟をつけて取らないやうにしてしまふ。こちらの方からそれ以上突込んで行けば、主人としては働いてゐるコツクをすつかり替へてしまはなければならぬことになる。それまでしてもこちらから卵を取ると云ふことは、經營上出来ない相談である。故に今のやうに眞面目なものを社會に提供しても、時には斯くの如くはたかれるのであります。さういふ譯であ

りますから、どうしても農民の團體を作りました、農民自身が都會に進出して販賣取引をやる消費者と直接取引をやるのが大切だと信じます。斯くして私の學校は販賣部を東京に設立して、配給組織による學校生産物の販賣を斷行して居ります。

軍隊へも鶏の卵を納め始めました。所が初めは色々な事がありました。例へば軍隊なら、軍隊に鶏を納めると云ふ時に、鶏屋は少しでも目方を多くすれば自分の利益になる。だから前の晩にうんと食物をやる。激しい者は口から或物をぎゅう／＼押込む。我等と競争入札でもやらうものなら、斯くの如くして重量を付けて安く賣つても引き合ふ様にする。例へば私の學校のが百匁二十錢とすると、十匁二錢でありますから、若し五十匁殖やさうものなら十錢違ふ。一羽に就て納入價格が十錢違ふとなか／＼競争が出来ない。一方は七十錢、一方は六十錢と云ふことになるともう競争は出来ませぬ。或鶏屋はさういふことをやるのであります。それで販賣部の鶏は何時でも胃袋は空つぽになつて居る。料理する場合に

は胃袋が空つぽでなければいかぬと云ふので、眞面目に一二日前に腹を減らして勝の中には何物もなしにして持つて行く。従て鶏屋のとは一羽に就て、優に何十匁も違ふ。されば同じ物を同じ値で持つて行く場合には、鶏屋の方の鶏の目方の内には、胃腸の中の食物や時によると土の如きものまでが這入つて居るのだから、眞面目に考ればそれだけ目方を差引いて計算すべきであります。軍隊でも始めの中は、どうも學校の鶏は胃袋が膨張んで居らぬので氣持がよいと言つて居つたところが、さういふと問屋の方では負けずに、「あれは病氣だから物を食はないのだ」と斯う言ひふらす。そうすると消費者の方では、「それはいかぬ」と云ひだす。こうなると、眞面目なものが却て取引が出来なくなるのであります。然しよく考へて見ると、それには又理由がある。何故かと云ふとさういふ連中は、之れに依つて生きて居るのであるから、之は實に彼等の生存權の問題であります。従つて彼等も眞劍勝負になつて来る。其の結果、こんなことになるのであります。併し國家の政策として考へて見ますと、眞面目な生産者を苦しめて、唯生きんが爲に何で

もやると云ふものを擁護する必要はありませぬ。若し彼等がそれが爲に失業すると云ふことになるなら、國家としては他にさう云ふ人々を活かす途を考へてやるべきであると私は思つて居ります。

生産者と消費者との間に、大勢の人が入込むと云ふことは間違つて居る。さう云ふ風に入り込んで來ては、生産者が倒れる。さういふことはすべきものでない。彼等は彼等で生活の途を別途に考へて行かなければなりません。それには色々な方法があるが、殖民こそは方向轉換をする唯一の途であります。現在田舎から出て來て中間商人となつて居るものは仕方がないとしても、今後は今のやうに消費者と生産者との間に立つて生産者を苦しめるやうなものにならぬと云ふやうに村民を指導して頂きたいのであります。

八 公 定 相 場

それからもう一つ販賣取引の問題に就て、皆さんに考へて頂きたいことは、公定

相場を決めると云ふことであります。物によりてはどうしても公定相場を作らなければ困る。それには農民自身其の氣にならなければならぬ。私はどうしても米の最高最低の價格を作らなければ駄目だと云ふことを、色々批評を受けながら始終言つて居つたのであります。

一體相場などと云ふものは、どの位の處が公平であるのかよく解るものではない。それを大勢の學者を集めて如何に面談臭い議論をして、それで決めやうとして居るのは如何なものであるか。國法で平均二十五圓とか、三十圓とかピシヤンと決めれば米價は安定する。農民はさういふ相場が出来れば、それに準じて汗を絞る。僕に言はせれば、一體米の値段を幾らにしたら宜いかと役人連中が皆で審議して居るのは、どうも私には解らぬ。若し役人の俸給を幾らにしたら宜いかと農民が集まつて審議するとしたら、人々はどう考へるか。役人の俸給の最低はどうして決めたか自分達のこととは其方除けにして置いて、農民の生産物の値段に就て頻りに論じ合つて居る。どうも私共には、それが解りませぬ。勞力といふものは、

幾らにしたら宜いか一寸見當がつかぬ。従つて、米の相場は幾らが合理的であるかと云ふことを明瞭に、科學的に決めることは無理ではないか。それよりも大體今二十五圓から三十圓と言ふ風にピシヤンと決めてしまひさへすれば、農民はそれで以て所謂米栽培の見當が着く、之が有難いのであります。

もう一つ大事なものは、鶏の卵の値段の問題であります。是は私の學校でも泣いたのであります。今は一個四錢位になりますが、一時は一錢以下のこともありました。所が鶏を飼ひます場合には、どうしても飼料を購入しなければならぬ。支那から此の飼料が來るのですが、一日一羽に付て五厘は要る。それで三千羽飼つて卵は一千羽位しか毎日々々生みませぬ。飼料が卵一個につき少くとも一錢五厘位は要る。ですから、卵の價格は幾ら安くても二錢以下では鶏は飼へなくなる。それよりも安くなると農民は皆養鶏を止めてしまふ。近頃は卵價が高いものだから、又飼ひ始めた。だから始終飼つたり止めたりすると云ふことになる。豚について申しますと、矢張り同じことであります。今は高い。生豚百匁十二三

錢位でありますが一時は七錢或は五錢時には三錢まで下つたことがあります。豚も亦與へる飼料から割出して其價格を計算すると、少くとも生豚一貫匁八十錢百匁八錢位しなければ引合ひませぬ。されば之より高ければ豚を飼ふものが増加し之より安くなれば段々飼育者が減じてまゐります。日本の土地は狭いがために、どうしても人間の生活に必要な物を先づ作らなければならぬ。家畜の飼料まで生産する餘地はない。従つて農民に家畜を飼はせやうと思へば、外國の飼料を入れると云ふことになる。即ち支那からでも飼料を買つて、それで以て家畜を飼つて行く。従て畜産物の價格が或る程度以下では家畜が飼へなくなる。而も其の家畜を飼養するといふ事は、農業經營の根本に觸れてゐる。何故かと言ふと肥料を使はなければ、土地が肥えない。土地が肥えなければ農業は出來ないのであるから、何とかして土地を肥さなければならぬ。さうかと云つて金肥を無暗に使つたのでは農民は引合はない。これは自給自足の原則にも反する。そこで何とかして自給肥料を作らせなければならぬ。茲に於て農林省でも、各府縣でも口を

揃へて之を獎勵する。然らば農家で其の自給肥料を作るにはどうしたらよいかと云ふと、鶏や豚を飼ふより外に途がありません。だから、政府でも此れ等の小家畜を盛に獎勵して居りますが、獎勵して居つても卵なり、肉なりが今のやうに値段が安くなつた場合には、此の養鶏養豚が出來ないのであります。

でありますから、どうしても農業經營の立場から申しますと、卵や豚の肉等の最高最低の價格を決める。或は少くとも消費者と生産者との間に於て、互に約束をして適當の價格を決めると云ふ位に行きませぬと、養鶏養豚は實際に於て駄目です。而して一方に於て農民がもつと自覺致しまして、各農村の部落々々に於て農業倉庫でも發達せしめて、卵なり肉なり、或は米なりを成るべく長く保つやうに貯藏し、一朝饑饉の際に遭遇してもピクともしない準備をする、さういふ精神を持つて來れば占めたものであります。現在では、農民は作つた物は賣らねば氣が濟まぬと云ふ頭になつてゐる。それを變へまして、一部分は自家用に使つて他のものは貯へる、十年位の饑饉が続いても生活困難はないと云ふ位に、今少しく生

産物を貯藏すると云ふ觀念が出来て参りませば、生産物の價格も今の様に下落せず相當の價格に戻つて來ることにもなるかと思ふのであります。唯それが餘りにやり過ぎて、農民以外の人を苦しめても農産物の價格を高くしようと云ふことになるのでありますから、結局は孰れにしても農民自身の自覺に待つより外ありませぬ。

農民としては、自衛上自分が農民としての使命を完全に果す上に於て、今日の如き取引方法では不都合であるからそれを今少しく改善して行かうと云ふだけの考へであつて、自分の生産物を無暗に高くして、他の人々を苦しめても構はぬと云ふのではないのであります。

兎に角、取引問題に就ては、生産者、消費者が直接に結付くやうな所にまで進めて行く、農民自身自分の生産物の行末を見届ける、農民自身大都會に於て自己の汗の結晶である農産物を取引する、生産者自身が自分の生産物を消費者に送り届けるまでの面倒を見ると云ふことが、取引を合理化する目標であります。田舎と都會

との連絡をきちんとつける。都會に於けるホテルや食堂が繁昌すると同時に、農民も經濟上其他に於て好くなると云ふ仕組みに社會をしなければ駄目だと思ひます。農場の主人が、一面に於て食堂の株主又は主人と云ふことになれば、食堂が繁昌すれば従てその農場も具合が好いと云ふことになつて來る、處が日本の現在はそのがばら／＼であります。ですから都會の發達は動もすると田舎の衰微を來すと云ふことになるのであります。是れはどうしても改善しなければならぬ。これが私の取引問題に關しての所信でありまして、兎に角、皆さんも此の點をよくお考へになつて蔭になり日向になつて農民の立場をもう少し明るくするやうにして頂きたいと思ふのであります。

第六篇 日本國民高等學校

第一章 山形に於ける自治講習所

私は丁度二十年も前から農村問題に就て種々考へ込んで居りますが、其の結果として一番最初に努力したのが、農民の魂の奥底に大和民族の理想信仰を確立すること、換言すれば日本農民魂の鍛練陶冶と言ふことであります。此の目的貫徹の爲に、丁度十八年前に山形の自治講習所に行つたのであります。勿論當時にあつても殖民問題や取引問題のことを考へては居りましたが、さう一時に何もかも出来るものでもなし、又眞に日本農民の大和魂が鍛練陶冶されますならば、是れ等の問題は自ら解決がつくと斯う信じて専ら日本國民高等學校運動に没頭し、突進して來たのであります。尤も山形に於ては、當時は國民高等學校とは申さずに自

治講習所と申して居りましたが、此の自治講習所は矢張り私の思ふ通りに教育し得たのでありますから、其の時にも今のままのことを實行して居つたのであります。

茲に、私が山形に行つて此の種の運動にとりかゝるに至りました経路を申しますと、その頃に内村先生の御弟子で藤井武君といはれる方が、御大典記念事業として努力奮闘の結果造り上げたのが、この自治講習所であります。此の自治講習所設立の案が縣會を通過しますと、藤井君は前約を踏んで、矢作博士に所長の推薦を申込んだのであります。

聴くところによると、藤井君が此の講習所を提案せんとする時一番問題になつたのは、所長其の人を得ることが出来るか否かと言ふことであつたさうであります。そこで矢作博士に人はありますかと質問したところが、人は引受けたから其の機關を早く作りなさいと言はれたので、藤井君はとう／＼之を決行した。それと同時に、直ぐ所長の問題が始つて來たので、前言通り矢作博士につめよつて來た

であります。矢作先生はどういふ譯か、此の加藤を推薦せんと考へて居られたので、早速僕に是非赴任せよと迫つて來られた。矢作先生とは公立私立の問題で随分議論を闘はしたが、とう／＼僕が譲つてしまつて藤井君と會つて話すことになり、小平君と二人して山形に行つて藤井君に面會して又議論を闘はした。僕曰く、「君が理想の學校を造るなら君が職を辭めてから所長になつたら宜からう。何も僕を愛知縣のやうな所から引張り出して來てやらせるよりも、自分でやつたら宜いではないか」と。藤井君が言ふのに、「僕は役人を早晚辭める積りである。さうして自分は福音を宣傳するのが自分の天職と信じて居るから、其の中に牧師にならうと思つて居る。だから君と僕と若し意見が合致したならば、僕の代りに君がやつて呉れても宜ろしいではないか」と言はれて、遂に午後三時から夜の十時頃迄二人でが／＼論じ合つたが、而も僕の方ではなるべく御免を蒙りたいので無理の事ばかり云ふのだが、藤井君が僕の意見に合ふように合ふようにやつて來るので、遂に議論が一致してしまつて、二途も三途も行かなくなつて引受ける約束をし

た譯であります。

其の時私は藤井君に申しました。僕の信ずる通りにやつて宜しいか。僕の考へによると藤井君の最初考へられた中堅人物養成と言ふ目的は達せられない。教壇に立つて只自治の話とか、或は公民教育のやうなことをやつたからと謂つて、そんなことをして居つたら農村の三百代言が出来てしまふ位のものだ。それよりも黙つて朝から晩まで労働々々で行けば、少しは其の目的を達し得るであらうと主張した。所が藤井君が、「さう朝から晩までトラピストのやうに労働労働では何を教育して居るのか、縣會議員連中にはさつぱり分らないではないか。せめて二時間位は講義をして呉れないか。言葉でも教育が出来ぬと言ふことは無い。」さう言はれて見ると、一時間も授業はせぬと云ふ譯に行きませぬから仕方がない。それなら二時間位は講義をしようと思つて僕が讓歩した。それから又随分亂暴な話だが、「一體今の社會では學校の校長等を全るで泥棒のやうに取扱つて、會計検査と云ふことをやるが、あんなものは必要はない。講習所で必要な額は全部所長に任

して、一切干渉しないと云ふことにして貰ひたい。」縣立である以上それは困つた。それは出来ぬ。只會計規則の許す範囲で一番寛大な一番自由の利く特別會計にするからそれで我慢して貰ひたい。」と言はれて、是れ亦僕が我慢することになつて、赴任の約束をしたのであります。

大正四年十一月十五日に山形に赴任し、十二月十六日に同校が出来、それから生徒が這入つて来て、授業を開始しました。藤井君は大悦びである。校舎は出来る。所長が定まる生徒は兎も角二十三名入所したので大得意である。或時生徒を僕の官舎に集めまして、藤井君と一所に茶話會を開きました。藤井君は生徒に向つて、君等はどう云ふ希望を以て學校に來たか、君等の輝いて居る希望の一端を伺ひたいと非常な期待で此の質問の矢を放つた。さうした所が、生徒が一人々々有りの儘の事を述べ始めた。「私は實は、此の間から筋膜炎を患つて漸く快くなつたが未だ十分でないので、家にふら／＼して居つたが仕事がなく困つて居つたから郡長が自治講習所に行け／＼と云ふので來たので希望も何にもありません。養生

がてらに來たのです」と云ふ。中には行きたくなくて断つたけれども、何でもかんでも行けと郡長や村長が云ふので仕方がなく來たが、私も忙しい身體でさう愚圖々々して居れないと言ひ出す者もありました。一人としてニコ／＼して居る者はなかつたのであります。

之を聞いて、藤井君は非常に苦い顔をして、がっかりして居る。所が私は之と反對で、自分も三十迄煩悶し續けた奴で、これ迄は日本精神とか、或は大和民族の理想信仰とか云ふやうなことに付ては、少しも分らなかつた人間であります。兎に角、三十歳迄大まごつきをし抜いて、永い時間を潰した男である。爲すところもなく三十迄愚圖々々過して了つたこと、それが自分の經驗で誠に勿體ないことをしたと思つて居ります。而して日本人として目醒めた今日、私は日本農村の青年を僕と同じ様な境遇に一年でも置くことは、實に勿體ないと思ひつめて居るのであるから、何とかして農村子弟を一日も早く今の自分と同じやうな氣分の若者、つまり煩悶のない元氣に満ちて仕事に没頭し得る様な快活な青年に導きたい。心に

煩悶を持つ青年の友となつて、少しでも御役に立つて行きたいと考へて山形に行つたのでありますから、今の話聞いて益々元氣がついた。是だから國民高等學校其の時は自治講習所と謂ひましたけれども、斯う云ふ學校が必要であると思つたのであります。

其の時分には、自治講習所の如きを設立することは、屋上屋を架するやうなもので、そんな學校は要らぬと云ふやうな議論が多くて、誠に同情が少なかつたのであります。設立に反對した縣會議員が開校式に、學校の様子を窺ひに來た。藤井君が僕に開校式の當日所長として話をして呉れと言はるゝので、僕は此の學校は職員生徒が畑の真中で大和魂を鍛鍊陶冶する道場であり、斯う言ひました。所が分つた様な分らぬ様な誠に面白かつたのであります。

「どうして大和魂の磨き合ひをする」

「それは臨機應變其の時々やる」

さう云ふ調子で、縣會議員も何が何だかさっぱり解らぬ。私自身としては、何と

かして若い青年をして今少しく自分の進む道に自信のある人間にしたい。然るに郡長から責めつけられて厭々ながら來たなどは、益々鍛へ上げてやらねばならぬ人間である。いかに郡長からすゝめられても、何か或所に行くと云ふ場合には、行くべき理由があつて行く。信ずる所があつて行くと云ふことでなくては行けない。それで私としては、前の青年の言葉を聞いて、益々斯の如き教育機關の必要を痛感したのであります。

それから踏止つて一生懸命に教育を始めました。始めは、僕が何を言ふのか生徒にもさつぱり解らない。僕もどう云ふ風に生徒を導いて宜いのか僕にも解らぬ。只自分の様な心持にしてやりたいと言ふだけである。勿論其の時は實修の形式も何も決つて居ない。それですから、無茶苦茶に進んで随分苦しんだ。併し此處に詳しいお話は止めて置きますが、兎に角一年間に於て自分も非常に修業致しましたし、生徒も随分修業して、大變喜んで皆歸りました。遂に二十三人が、終まで退校せず居たのですから、やり方は相當宜しかつたであります。

是が山形の自治講習所の第一期生でありますが出放題の教育をやつたのです。其の時の生徒は今非常に能く結び付いて居ります。是から東北の方にお出でになるならば、新庄と云ふ驛があります。其の新庄から二里ばかりの所に萩野と云ふ原があります。其處に開墾地があります。其處の開墾屯所の主任をして居ります高橋猪一君は、第一期の生徒であります。近頃は、大分縣の役人連中が萩野の開墾地の事を悪く云ふと言ふ話だが、一體之は行啓記念事業であつて、悪いと云つて攻撃するよりも、何とか之を立派なものにするに云ふことに一生懸命にならなければ役人の務がつとまらぬと思ふ。此の間高橋が参りましたから、斯う云ふ精神でやれと僕の信ずるところを能く言つてやりました。高橋も其の決心で飽くまでもやると言ふて居りました。此の間は、萩野の大根を一貨車とりよせて全部賣つたことは一寸御話して置きましたが、何でも地方で賣るよりも三倍も高く賣れたさうです。山形に行かれたら萩野の開墾を御覽になつたならば、少しは参考になると思ひます。此の高橋猪一といふ人は、自治講習所の第一期の卒業生で

ありまして、前に話した二十三人の一人であります。

それから山形市の近くに東村山郡金井村と云ふのがあります。今此の村の村長をして居る五十嵐政二郎君、其の時は、此の人も同村の助役をして居りまして矢張り郡長や縣廳の役人に薦められたが、助役の位置に居る自分が今更生徒になつて授業を受けぬ暇はないと云つて斷つたけれども、郡長が是非入所して呉れと頼むので、仕方なく藤井君の所に來て、自分は多忙な身であるからとてもそんな所に入つて居れないと斷つたところが、藤井君が、併し折角だから、兎に角所長に會つてそれから入所するなり、止めるなり決定したら宜からうと言はれて、私の官舎に會ひに來ました。五十嵐の言ふには、頻りに郡長から入所を薦められるが、どうも忙しい身で一年も斯う云ふ所に這入つて過す譯にはゆかない。併し、「一體、何を教へる學校ですか」現任助役の位置に在つて、毎日の仕事に多忙を極めて居る。今更一年近くも斯う云ふ所に這入ることは出來ぬ。「僕それは結構だ、自分の仕事に全力を擧げて居つて愉快だ、少しも煩悶がない、實に元氣に自分の仕事を樂しん

でると云ふ人は此處に這入る必要はないと申し更に、

「併し君は、實際今の村役場の助役の仕事の本當に楽しんでやつて居るのか」と質問したところが、頭を下げてしまひました。

「どうだ。心から其の肚の奥に本當に楽しみがあるのか」と言つた所が、「さう言はれると、さうも云はれませぬ」「それでは這入らなければならぬ」「分りましたから這入ります」と云つて、それから約九ヶ月の間熱心に修業しました。此の助役は今金井村の村長となつて、山形縣では、模範村を形造つて居ります。一期の時にはいろいろの人が居る。それは随分亂暴な指導も致しましたが、兎に角一生懸命に磨き合ひをしたのですから、相當に教育が徹底したのであります。中には働くのが厭で草を取り乍ら始終私の傍で聞えよがしに僕の悪口を言ふものもあつた。

「斯んな所長では迎も問題にならぬ」と云ふ。其の言葉を聞きながら、僕は之は御大典記念事業だ。自分の短氣で潰しては御上に相濟まぬとジリツト齒を喰ひしばつて、黙々として働いて居つた。迎もよい修業でありました。世間では、山形の

青年は温しいと云ふけれども、決して温しくはありません。併しこちらの氣分が能く分ると、言ふことを聽いて呉れます。しかし、私も約半年間は自分を抑へることに非常に苦しみました。或時は、家内にちやんと荷物を作らして、いざとなつたらすぐ家に歸れと命じて旅行に出たこともあります。終ひには、一同に僕の心が通じてしまひまして、今では、山形の青年は大抵の言ふことを聽いて呉れる。即ち現在では割合に私のこともよく知つて呉れて居りますが、約一年間と云ふものは、それはひどい目にあつたものであります。東北の人間と關東の人間とは違ひがありません。關東の人間は思つたことをどしどし言つてしまふ。肚に何にもない。東北の連中は、心の中に思つて居つて黙つてゐるから、何が何だか些とも分らぬ。ペラ／＼喋舌るのは薄べらな、輕卒な淺はかな人間の如くに考へて居るので、僕の心が解らない中は、何んでもかでも邪推をまはして、全部ではないが随分僕を困らせたものである。今のやうに解つてしまふと有難く、私は時々涙が出る位に山形の青年に大事にされるのであります。

第二章 日本國民高等學校の機構

一 農村青年に明確なる人生觀を與へる

日本國民高等學校は、とに角農民の子弟にはつきりした人生觀、日本人としての理想信念を明確に自覺させる使命を持つて生れたもので、丁抹の國民高等學校にならつたものではありませぬが、目的が同じであること、國民高等學校といふのは國際的の意義を持つてゐる所からして、名は國民高等學校と致しました。しかも日本人としての理想信仰を明確に農村青年に植ゑつけるのが目的なので特に日本といふ字を冠したのであります。

現に、國民高等學校と謂ふものは農村青年に向つて、はつきりした人生觀を與へるのが目的で作られてゐる。獨逸に於ても佛蘭西に於ても、丁抹に於てもおのこの此の意味を持つて作られてゐるのであります。前にも申しました如く、私は三

十歳迄迷ひました。その學句、笈先生にお目にかゝつて、日本精神のお話をお伺ひしまして漸く落付きが出来ました。私から見ると、農村青年に私と同じ様な此の煩悶をさせるのは誠に勿體ない、個人としても氣の毒でたまらない。何とかして僕と同じやうな日本人としての理想信念を興へたい、青年の時代に明確に其の行くべき道を提示してやりたいといふ考へが心に満ち／＼て居つたので、進んで山形の自治講習所の教育に當つたのであります。つまり農村青年が三十迄も私の様に迷ふことがいけない。一日も早く自信のある事を一步一步させたい。農村青年の歩みを健實にしたいといふ考へから自治講習所に赴任したのであります。さて次に、日本國民高等學校について私の意見を述べて見ます。

二 日本國民高等學校の眞精神と其組織

一

近時丁抹の國民高等學校に關する議論が喧しくなつて來て、到る所之が建設の

機運を見るに至つたことは誠に慶ぶべきことであります。併し日本と丁抹とは自ら國情を異にして居り、従つて日本には日本獨特の國民高等學校が必要であるから、丁抹國民高等學校の形式其の儘を我國に移すと云ふことは勿論不可である殊に自分の眼から見ると、現在の丁抹に於ける國民高等學校は、其の數は澤山あるけれども、其等の學校は、設立當初の眞精神によつて總てが經營されてゐるとは考へられませぬ。故に唯斯様なものを見て直ぐ其れを眞似ると云ふことは愚の至りであります。

其處で自分が山形に於て自治講習所の經營に當つて以來十年、其間體驗したことを基礎として、自分の眼に映じた丁抹國民高等學校の眞の精神なるものを併せ考へ、將來我國に於て建設せらるべき丁抹の國民高等學校に相當する農村教育機關は如何なるものにせねばならぬか、其機關に就きて聊か自分の信ずる所を述べて見たい。

二

第一に日本に於ても丁抹に於ても此種の學校の教育の對象は主として農村の青年であります。其の青年と云ふものに變りはない。従つて丁抹に於て當初國民高等學校が其等に對して確乎たる人生觀を與へ、丁抹魂の涵養に努力したことは我國の場合に於ても勿論必要であります。即ち、我國に於ても矢張り農村青年に確乎たる人生觀を與へ、大和民族本來の理想信仰のもとに、飽迄も奮闘する精神を涵養せんとすることは全く彼我一致してゐる。茲に一言附け加へて置きたいのは、丁抹に於て丁抹魂の涵養をし、日本に於て大和魂を涵養すると云ふことが、異つた魂の涵養に努むるものであるかの如く考へられるかも知れぬが、其れは決してさうではないのであります。眞の大和魂は、其の儘眞の丁抹魂であり、眞の丁抹魂は、其の儘眞の大和魂である。眞の大和魂は時と場所との如何を問はず世界到る所に燦然として光を發する。其の大和魂の涵養に努むるのが日本の國民高等學校であらねばならぬ。唯彼の國に於て其目的を貫徹する爲に採つた手段方法と我國に於て我々が目的を貫徹する爲に採るべき手段方法とは大いに異なる可き

ものがあると考へます。自分は我國に於て上記の目的を達する爲に採るべき手段方法を述べるに先き立つて丁抹に於て僕が見聞した彼の手段方法を一言述べ、其れを反省しつゝ意見を述べて見たい。

三

彼の國に於て青年に人生觀を與へ、丁抹魂を涵養するに如何なる方法を採用して居ると云へば、第一は生徒全體を寄宿舎に收容し、そして出来るだけ職員と生徒とが精神的に接觸する様に努めてゐます。之は日本に於てもそうしなければならぬと思ふ。元來生徒と職員とが精神的にも肉體的にも接觸を多くすると云ふことはクリステン、コルの示した實例に範を採つたものゝやうであります。クリステンコルは日本の塾のやうなものを作つて其處へ生徒を收容し、自分も生徒と一緒に生活し、畑で働くことも、食事をすることも、掃除をすることも、寝ることも朝から晩まで生徒と生活を共にしたのです。現在では職員と生徒とが接觸する機会がすつと少くなつた、即ち現在では字義通り寢食を共にすると云ふことなく、二三

人宛の職員が交代で一日に一回宛食堂に臨み食事を共にする位であり、校長や教頭なども一日一回食事を共にする位であります。又掃除とか食事の準備とかに就てもクリステン・コル自ら啄を入れ自ら額に汗したやうであるが、今では食事に就ては校長の主婦が之に當り、其の他の人は之に當らない。又クリステン・コルの時代には學校の畑で共に汗を絞ると云ふことがあつたけれども、今ではさういふことも行はれて居りませぬ。併し校長始め凡ての職員が成るべく生徒との接觸に努めて居ることは事實であります。例へば校長は自分の家に有志を集めて一週に一度位は聖書の講義をする、パイブル・クラスを開くとか、或は時に茶話會、芝居、舞踏會、音樂會等を開くとか、或は丁抹に於ける有名な詩人の作を互に讀み合つて手仲しむとか、一緒に旅行するとか、兎も角も接觸の機會を多くすることに努めて居ることは確かであります。

次に丁抹國民高等學校では其の目的達成のため、グルンドキ一の主張のもとに青年に人生觀を興へるに相當効果ありと信ぜられる詩歌の合唱をして居る。グ

ルンドキ一は教會に於ける讚美歌の合唱が基督敎的精神を涵養するに與つて大に力あることを信じて居つたので、青年に人生觀を興へ丁抹魂を吹込むにも矢張り之に相應しい詩歌を皆で集つて合唱することの効多きことを唱へたのであります。

又近頃は體操も必修科目として盛には行れて居るが、これは主として肉體の發育と云ふことに重心が置かれ、併せて協同的精神の涵養を圖るものゝ如く思はれます。

今一つは世界に於ける丁抹の立場、丁抹人としての自己、さう云ふものを明瞭ならしめんが爲めに歴史教育に力を盡して居る點であります。勿論之は教壇に於てなされるものであるが、之も矢張りグルンドキ一の主唱にかゝり、國民高等學校長たるものは歴史教育をする際にグルンドキ一の所謂活きた言葉を以て自己の人格を生徒に注入せんとするのであります。

四

以上は丁抹國民高等學校の現状の一端に過ぎないのでありますが、然らば、日本に於て將來建設せらるべき國民高等學校は、其の根本目的を達成せんが爲には如何なる手段方法によつて教育せねばならぬかといふことになりませぬ。

農村青年子弟を集め、之に確乎たる人生觀を與へ大和魂の涵養に努力しやうとするに就いて、第一に問題となるのは學校の校長以下職員全部の人格如何と云ふことであると言ふまでもありません。自ら燃えて居ない職員が教壇に立つて、冷い話をして、そんなことは生徒に通ずるものでありません。自ら眞に農業の尊さを理解して居ない人間が、如何に口を酸くして農業の尊さを教へ込んでも、生徒の頭にはいる筈はない。兎も角も國民高等學校に於ては、其の教育の衝に當る校長以下職員全部が、先づ自ら確乎たる人生觀を持し、大和魂の權化ではないまでも、少くとも自己の内心に潜む處の大和魂を飽く迄磨き磨いて行かんとする念願に燃えて居るものが教員とならなければ駄目であります。同時に又生徒をして確乎たる人生觀を持たせ、大和魂を涵養せしむる爲に採るべき手段方法に至つても

非常な考慮を要するのであります。

抑々現在の日本は精神的にも肉體的にも眞面目に労働に手伸びむと云ふ氣分が如何なる原因かは知らぬけれども、薄らいで來たことが各方面を通じて痛感せられます。人も許し自らも信じて精神的労働に汗を絞つてると言ふ學者にしても、本當に學究の爲に汗水を絞るといふことは至つて少い。多くのものは遊び半分に學問を弄んで居る様に見える。又肉體的労働者にしても労働運動こそは盛にやるけれども、實の處其の労働運動なるものは労働の嫌ひな人間が集つて只賃銀を多くとらうとするのであつて、眞面目に労働して其れに相當する報酬を得やうと云ふ眞劍な労働運動では無いやうであります。

斯くの如く何れの方面を見ても労働忌避の現象を認めざるを得ないのであります。各方面に労働忌避の現象が多くなればなる程、其の社會は混亂する。労働を忌避する國民の生産は擧りやうがない。生産を擧げないで分配のみを考へたとてだうなるものか。労働忌避の人間社會からは生産も上がらなければ本當の

學者也出なければ、本當の藝術も生れる筈がない。詰り労働忌避の精神が其の心のどん底に横たはつて居る社會からは美しいもの、清いもの、尊いものは生れ出ないのであります。労働忌避の悪病を根本的に除去しなければ世界に誇るべき強い軍隊も程なく其影を潜めるであります。蓋し徴兵忌避と言ふ奴も實は眞劍の労働を忌避する精神から流れ出る腫物の膿であります。其處で徒らに若い青年に人生觀を與へ大和魂の涵養に努めると云つた處で、若し結果に於て、矢張り同じく労働に汗を絞ることを喜ばないやうな卒業生がぞろ／＼出て行くことになれば如何なることを高調しても、さういふ學校は不必要であるし、又さういふ結果であるならば、眞に青年に人生觀を與へ、大和魂を涵養させたとは決して云へないのであります。何となれば人生觀確立して大和魂横溢すれば、人間は精神的にも肉體的にも眞劍に労働することを手伸びむ筈だからであります。處が其れと反對の結果を産むとしたならば、當初の目的は毫も達せられて居ないのであります。兎も角、眞に労働に手伸びむといふ底の人を少しでも殖やすといふことは何處迄

も必要であり、現在の日本には其れが特に必要であると思ひます。

然らば其の目的を達する爲には、如何なる方法に依るかと云へば、自分の體驗によれば、單に寢食を共にするとか、歴史教育をするとか、一堂に集つて唱歌を唄ふなどいふだけでは物足りない。如何なる労働に對しても眞に手伸びしんで之に當るといふ精神を涵養するには、どうしても生徒と共に汗を絞るといふことが大切であります。食事の仕度にせよ、掃除にせよ、何事にもあれ生徒と共にしなければなりません。殊に現在の日本の農村の状態を考へる時、單に労働を手伸びむと云ふだけではなく、特に農業労働に對する憧憬といふやうなものを持つ人を造らねばならぬ。其處で丁抹の國民高等學校が如何にあらうとも、我國に於ては國民高等學校の全職員は、常に先頭に立つて、生徒と共に農業労働に汗を絞る覺悟がなくしてはなりません。如何なる口實を持つて來ても、自ら農業労働に汗を絞らぬ人は、絶對的に日本國民高等學校の生徒を日夜指導する當面の職員たる事を許さぬのであります。

五

其れから既に飽迄も農業労働を手伸しむといふ精神が入つた後に於て、自分には今一つの要求がある。其れは如何なることかと云へば、一體日本の農村青年は將來非常に堅い決心の下に、精神的肉體的労働を續けて、先づ自分の家の改造の實を擧げねばならぬ事情にある。其處は丁抹と非常に違ふ點であります。丁抹に於ては人生觀が確立し、丁抹魂が磨き上げられ、同時に労働を手伸しむと云ふ氣分が入るならば、彼等青年は直ちに―其れがよし小農の子弟であつても五町歩以上―中農であれば二十町歩、三十町歩の農場の經營に當るのであります。或は直ちに當らなくとも、將來其れに當るべき準備に就くのであります。而も其の農業經營組織は既に確定して居る。換言すれば丁抹の農村には青年の意氣と活きた智識技能に俟つべき問題が少ないのであります。

然るに日本にては之に反し、如何に人生觀が確立し、大和魂が磨かれても、一度實際の農村に入ると或は過度期であるためか、凡ゆる方面に改善を要する多くの問

題が自分の村にも横たはり、而も其問題たるや精神的、肉體的に非常な努力に依らなければ解決されざるものあり、或は優秀なる活きた智識技能を振り翳して向はなければ解決の付かないものもあります。つまり鞏固なる意志と、聰明なる知識とを生きた技能とを以て掛らなければ打ち克てない事柄が、我が農村農家には誠に多いが故に、根本に於て農業労働を手伸しむといふ精神を入れると同時に、如何なる境遇に處しても徐々に改善の實を擧げ得るやう青年を教育することが必要なのであります。茲に於て農業労働を手伸しむ他に農業の活きた知識技能を植付けることが問題となつて來るのであります。例へば茲に或る青年が一町歩か二町歩の自作農の子弟であつて家には澤山の弟達があるとす。其の青年が卒業して家に歸ると、先づ第一に打衝かる問題は、土地が狭いから、餘程立派な經營組織を作らなければならぬと云ふことであります。即ち其の家には仕事が多くて人が多いから、生産が少なくて喰ひ潰しが多く、常に家がざわつく。従つて其の卒業生は餘程上手に經營をやらなければ、其の日其の日を面白く暮すことが出來ない。

又其の土地が如何に考へても餘りに狭くどうにも經營が成り立たないとすれば其の面積を増すことに向つて進まねばなりません。さうなると事は仲々簡單には片付かない。よし又擴張されたとしても家族全體が各其の所を得て手伸しく暮すためには非常に苦心を要する。此の苦心は机の上の議論ばかりしてゐる人には到底解りませぬ。其れに加へて弟達を獨立させんとすれば、中産階級以上の場合は學校に入れたり、養子にやつたり、分家もさせられるであらうけれども、此の様な其れ以下の農業の場合には、弟達を普通の労働者にするか農業にするか、兎に角獨立させねばなりません。處が弟は未だ歳も若いから彼等が自ら自分の前途を展開することは出来ぬ。従つて煩悶する。煩悶の結果は怠惰者となつてゐるのが普通だ。斯う云ふ場合弟を本當に獨立させるには、兄として相當心配をしなければなりません。又弟をして殖民させることが一番良いと云ふことになつても、其れを實現する爲には、先づ弟をして自ら喜んで殖民せんとする精神状態に彼を導かねばなりません。又例へ弟が決心して殖民するとしても、其の爲めには直

接間接に斡旋しなければならぬ仕事が多い。斯様な次第で、堅い人生觀を持し、大和魂を磨いて居ても、同時に活きた知識技能を持たなければ、其の場合〳〵に處して、信ずる所を斷行し、自家の改良は勿論、進んで農村改造の中心人物になるなど、云ふことは思ひもよらぬのであります。故に僕は日本國民高等學校に於ては、飽迄も彼等に確乎たる人生觀と練磨されたる大和魂とを涵養せしめんと努力すると同時に、農業經營上、農村生活上必要な活きた知識技能を出来る限り修得せしめるやう努むべきであると思ひます。

六

然らば彼等をして短日月の間に、活きた知識技能を修得せしむるには如何にすべきかと云ふことになるが、其れは農業教育の問題になつて來るのであります。抑々從來の農業教育といふものは、多くの労働忌避の人、農業の實地的經驗を積んで居らない人が、單に多くの書物を讀んで、そして頭で考へて其れを教へるのであります。其の結果は云ふ迄もなく、彼等をして實地的活動の出來ない、所謂農學者

たらしめんとする。そして猫も杓子も農業者、農政學者になつてしまふ。誠に考ふべき事であります。それから今一つは其事を非常に弊害と認めて専ら自己の農業の經驗を基礎として、甘藷は斯く作るのである、菜を作るには斯くすべきであると云ふやうに、實地指導を口實として、一定の場所で一定の作物を作る道だけを教へて満足してゐるものがあります。併し斯様な教育を受けた農民子弟は其の場所での作物を作ることは出来るけれども、一向に融通が利かない人間となつてしまふ。前者は最も悪く、後者は幾分よいけれども物足りないであります。之に就て吾々は斯く信じて居ります。一定の場所に於て種々な作物を作つて生徒と共に農業労働に汗を絞りつゝ、其の生徒が卒業した後には、如何なる境遇の下に、如何なる場所に於て、如何なる作物を作り、如何なる經營をしても、よし彼が最初は何度失敗しても、將來は必ず立派な作物を作り、立派な經營を爲し得る様な農民を養成したいのであります。如何なる場合に處しても、如何なる所に於ても、如何なる境遇に立つても、其の農家を改善するばかりでなく、其の近隣の農村を

も段々改善し得る様なさういふ人を造りたい。其處に精神を置いて教育をしたのであります。茲で又問題は自から教育家自身の問題に立ち還つて來る。即ち教育家自身が先づ如何なる場所に於ても、如何なる時に臨んでも、自己の要求する作物を作り、自己の信ずる改造を斷行し得る様な人でなければなりません。そうでなければ其の生徒を立派に仕上げることは不可能であります。故に結局日本國民高等學校なるものは、職員其のものが中心であつて、學校に於ける教授方法の如きは第二義的のものであると斷言して憚らぬのであります。

七

以上は主として國民高等學校に就て、其の第一義とすべき點を述べたのであるが、次は其れ等のことを實現すべき手段方法に説き及びたいのであります。

國民高等學校の目的を達する爲に採るべき手段方法として、第一に擧げたいのは、生徒職員ともくくりに働き、且つ農場の組織其のものを以て、精神の鍛鍊所とし、將又農業生産上に就て、學校と云ふ一の大家族が、眞の分擔精神を以て經營をして行

く生きた實例を示すといふことであります。而して其の農場は大きいものであるから、其儘眞似することは出来ぬが、能く其れを考へて見れば、生徒自身の家の經營を如何にすれば良いかといふことの目標が與へられるのであります。精神のこもつた農場を作ることが第一條である。併し農場をして此重大なる職能を果させる爲には作物も立派に作らねばならぬ。勞力分配も適切にしなければならぬ。取引方法も注意しなければならぬ。そして其れには職員生徒ともく、に従事しながら、其の間に自ら生徒をして、其の時、其の所の如何を問はず、難局を切り抜け得る様な智識技能を與へる様に努めるのである。自分は其れが可能であると信ずる。又斯様にして、尙且つ生きた智識技能が與へられないならば其の時は自分は教育に失望する。否自分は農村子弟の教育者たる資格がないと觀念する。そしてその時は自分は教育を捨て、農民に立歸らうと思つてゐます。兎も角將來設立せらるべき國民高等學校の方針は其處に立てたいと思ひます。

其の以外の事に就ても、丁抹で實施して居る唱歌の如きは必要であるから、大和

民族の意氣を涵養する様な唱歌はなるべく之を集め、事ある毎に之を合唱したい其れから體操の如きも必要と思ひます。併し自分は體操のみでは満足しないで日本古來の武道を加へたい。其の理由は成程體操に依つて共同的動作を敏活ならしめるとか、身體の發育を圓滿ならしめるとか、色々の利益はあるけれども、併し事に臨んで少しも動じない、命を棄て、も更に厭はないと云ふやうな大勇猛心を涵養するには、武道でなければ出来ないものであります。つまり事に臨んで動かない精神、いざとなれば喜んで命を捨るといふ大勇猛心を涵養すると云ふことは、體操では出来ないといつては強過ぎるかも知れんが、兎に角武道には此の方に獨特の力がある。況や農場經營の様な活きた動植物や人々を相手に活動する場合に當つて、武道によつて鍛鍊陶冶された活精神は非常に貴い。併し單に武道と言つても、現在普通のやり方ではいけない。今の武道は稍々もすれば武道でなくして武術である。そしてある意味に於て、やり方が悪いと虚榮心を増長せしめるとか詐欺的精神を養ふ様なことになります。其れではいけない。自分は直心影流の

法定の型をとつて居るが、之にも氣を許すと或は虚榮心を満足させることになる
と云ふ多少の缺點があるかも知れませぬが、型の根本精神は各自の大和魂の鍛錬
陶冶であつて、眞面目にやればやる程、人は活人となる。苟も國民高等學校である
からには、大和魂の發育に力のあつた日本古來の武道はどうしても採らなければ
なりませぬ。

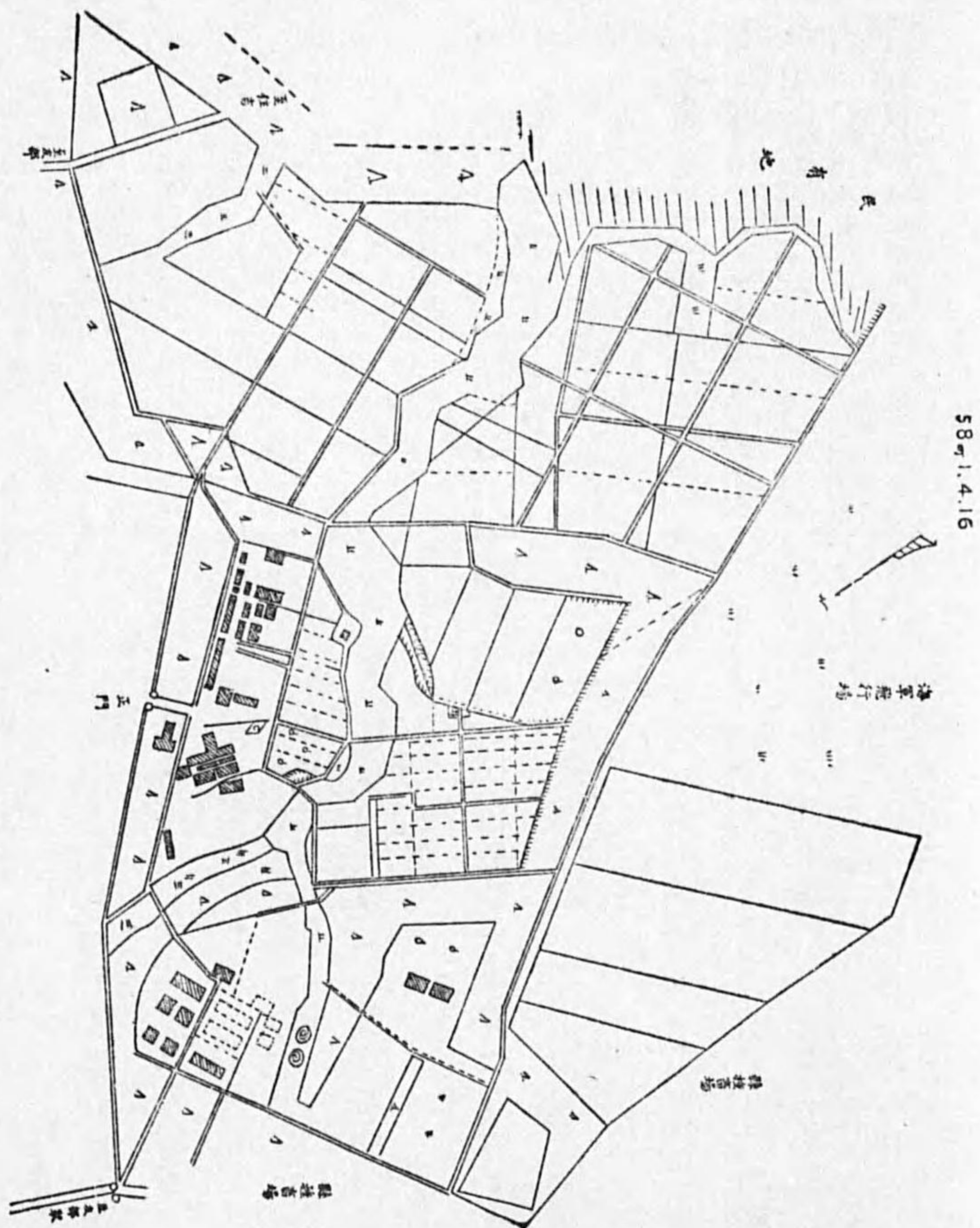
其れから歴史教育に就ても、成程多くの人の唱へる如く、現在世界に於ける日本
の立場、或は現在日本の社會状態が如何なる経路を辿つて現出したかといふ歴史
の流を知らしめ、以て自己の立場を明かにするといふことは勿論大切であります。
故に出来るだけ歴史教育も高調しなければならぬものと信じて居ります。然し
乍ら靜に考へて見ると、世界に於ける日本の立場を知り、現在日本の社會状態を知
り、現在日本に於ける自己の立場を知つても尙且つ茫然としてゐる大病人もあり
ます。或は無暗に騒ぎ廻つてゐる者もあるがどちらも困つたものであります。
さういふ立場を知つたならば、自己としてなさねばならぬ所を明白に自覺して、正

當と信ずる所に向つて即刻努力奮闘しなければならぬのに、唯徒に綱紀の紊亂
とか、政治の腐敗とかを憤慨するもの、扱て然らば「自分は何を爲すべきか」と自問し
て答に窮する様では困るのである。だから唯歴史の教育をしたいと云つて、其れ
だけでは決して満足出来ないであります。グランドキ一の所謂活きた言葉と
いふことは、此處に於て大いに意義があります。グランドキ一の謂ふ活きた言葉
といふのは、歴史教育を受けた人をして、世界に於ける自分の國の立場、其の國に於
ける自分の立場を知つて、自己のなさねばならぬ天職を斷乎としてやり除ける様
な人を作り得る様な活きた言葉であります。斯かる人が出る場合に始めて、歴史
教育の爲に使つた言葉は活きた言葉であります。されば其の歴史教育を受けた
青年が自己の立場を理解し、其の努むべきを努め、神の御旨を體して國の要求する
大切なる任務を自ら果すといふ人間にならなければ、其の職員の發する言葉は活
きた言葉でも何んでもない。其れは死んだ言葉であります。故に歴史教育は非
常に必要であるけれども、之とても結局之を教育する人の問題に歸着する。自分

は歴史教育を加へたいと思ふが、併し其の教育に自ら當れば勿論、誰かにして貰ふとしても、以上の様な精神でやりたいと思ひます。

八

以上雜然と述べ來つた處を綜合して云へば、日本の國民高等學校なるものは、丁抹の國民高等學校と同じ様に、徹頭徹尾其の教育の衝に當る教員其の人を得なければならぬことになりす。縱令所期の目的を達し得ないにしても、職員と生徒とが互に堅い人生觀を涵養すると同時に、日本魂を磨き上げつゝ進む間に、現在日本の國が最も要求して居る所の生産の増進——眞劍なる勞働によつて汗を絞り、其れに相應しき生産——の實を擧げるといふことに盡して行く事が大切と信ずる。國民高等學校の職員生徒は精神的にも肉體的にも、斷じて浮浪人たるべからずと云ふこと、之が日本國民高等學校の一大信條であらねばなりません。斯くすれば國民高等學校に活動する人間も眞に活き、其處に附屬する土地も活きることになり。其れから前に述べた如く、此の學校を出た人は如何なる時に臨んでも、農家の



日本國民高等學校略圖

改善は勿論、農村の改善をもなし得る様に仕上げねばならぬのであります。

自分は多くの親友の真心に依つて、茨城縣友部に、日本國民高等學校が建設されることとなり、同校經營の衝に當るべきこととなつたのであります。就いては本校の將來は略々以上に述べた如き心持を以て、一心に進みたいと思ひます。併し其れがうまく行くか、行かないかは理窟ではない。希くば唯だ吾等の爲す處を靜かに見て戴きたい。

「凡ての物事の最後の判断は活事實である」ことを信ずるものであります。

社團 日本國民高等學校協會概要

一、本協會は農村の中心人物たるべき者の養成指導を爲し依つて農民の精神上及び物質上の向上發達並に農村の改善を期するを以て其の目的とし、目的達成の爲に左の事業を行ふ。

- (1)、日本國民高等學校を設立し之か經營を爲すこと。
- (2)、他の國民高等學校の設立を助成すること。
- (3)、農村に於ける講習講話實務指導を爲すこと。

(4)、其の他本協會の目的達成上總會に於て必要なりと認めたる事業。

二、本協會の會員は本協會の主旨を賛成し、本協會事業を援助する者又は本協會の經營する日本國民高等學校を卒業したる者とす。

會員を左記三種とす。

- (1)、正會員——本協會の主旨を賛し、協力實行を期する者（主として日本國民高等學校卒業生）年額五圓以上（當分五圓とす）の會費を納付するものとす。
- (2)、特別會員——協會の發起者、特別縁故ある者及資金を寄附して本協會の事業を贊助する者、年額三十圓又は一時金二百五十圓以上を寄附するものとす、會費を要せず。
- (3)、名譽會員——主として資金を寄附し、本協會の事業を贊助する者、一時金二千五百圓以上を寄附するものとす、會費を要せず。

三、本協會は大正十四年十二月文部農林兩大臣より設立の許可を受け、十五年一月登記を了し、又日本國民高等學校を茨城縣友部に設立し、同年五月茨城縣知事の認可を受けたり。

四、本協會は右國民高等學校に關し加藤校長をして再度の丁抹獨逸見學を爲さしめ、數名の職員を選任し又建坪千餘坪の建物を購入し、五十餘町歩の農場を借入れ校舎の移築増設を行ひ諸種の設備を爲し、昭和二年二月開校せしも尙ほ各方面の好意ある了解を要する事益々多く又學校維持資金として諸方よりの寄附金を仰がざるべからざるもの尙約十萬圓なるを以て篤志諸賢が本協會の主旨を賛して多數入會せられ、資金を寄附せられ、以

て事業を援助せられんことを切望して止まず。
資金の保管出納は理事責任を以て之に當り、學校及農場一切に付ては加藤校長をして充分自由なる經營を行はしめ、以て目的の達成に進まんことを期す。

五、入會申込及寄附金拂込は左記宛の何れかにせられんことを希ふ。

東京市北豊島區落合町四丁目千三百七十九番地 (小平権一方)

財團法人 日本國民高等學校協會事務所宛

又は 東京市麴町區大手町農林省農務局内 渡邊俣治宛

尙ほ拂込に振替口座使用の場合には左の如し。

振替口座東京七四七三〇番日本國民高等學校協會

日本國民高等學校概要

設立者 社會法人日本國民高等學校協會ノ事業トシテ本校ノ設立經營ヲナス。

創立及開校 大正十五年五月茨城縣知事ノ認可ヲ受ケ昭和二年二月一日開校ス。

位置 茨城縣西茨城郡宍戸町平町一七一八番地ニ在リ。

(常磐線友部驛下車南方約十三町、茨城縣種畜場隣接地、元農商務省種羊場ノ跡地ニシテ總面積五

八町一四、一六歩營林局ヨリ有料貸下ヲ受ク)

要旨

一、國民高等學校ナル名稱ハ丁抹ニ始マリ今ヤ世界的ニ特定ノ意義ヲ有スルヲ以テ之ニ據レリ。世上動モスレハ誤解ヲ惹起シテ徒ラニ學科ノ高等設備ノ完全等ヲ聯想スルノ嫌少シトセザルモ、本校ノ趣旨ハ決シテ此ノ如キ所ニアラズ、訓育ノ方針ハ職員生徒協力ノ眞劍ナル農業勞働生活ニ依ル精神鍛鍊ニアリ。學科ハ徒ラニ高等煩雜ヲ避ケ其眞髓ノ會得ト活用トニ重キヲ置キ設備亦從ツテ數備ヲ期セズ簡約ヲ旨トス。

一、四十數町歩ノ農場ト寄宿舎トハ教室ト相俟チ心身鍊磨ノ道場トシテ左ノ主旨コ從ツテ之ヲ經營ス。

(イ) 職員生徒ハ居常寢食ヲ共ニスル一心同體ノ大家族トシテ立チ各自分擔ノ作業ニ勵ミ、眞ニ協力最善ノ經營ヲ行ヒ生活及教育ノ自營ニ資スルコト。

(ロ) 眞劍ナル農業勞働ニ依リ其崇高ナル精神ヲ體得シ常ニ能ク農業ノ眞意義ヲ味フト同時ニ勞力ノ分配能率ノ増進、技術ノ鍊磨ニ努メ以テ我國ノ農業改善ノ要諦ヲ知り時ト所トニ應シテ最モ適切ナル經營ヲ實行シ得ル根本力ノ養成ヲ期スルコト。

募集及ヒ入學

一、方法 生徒募集要項ハ十二月若シクハ一月號帝國農會農村時報及ビ各縣農會報其他ニ發表ス(委細學則參照)

各部ヲ通シ身體強健農業勞働ニ耐ユルモノニシテ高等小學校卒業以上ノ能力ヲ有スルモノタルヲ要ス。(第一、二四部ニアリテハ農學校、中學校若シクハ中等程度ノ課程ヲ修了程度及ヒ以上ノモノナレバ一層可ナリ)第一、二四部ニアリテハ三月一日ヨリ一ヶ月假入學ヲ許シ一ヶ月ノ後ニ個々ニ本入學ノ許否ヲ決ス可シ、第三部ニアリテハ四月一日ヨリ一ヶ月假入學ヲ許シ一ヶ月ノ後許否ヲ決ス可シ。

本校ハ生徒ノ家ガ地主タルト自作農タルト小作農タルトヲ問ハス成ル可ク其生徒カ夫々將來農村ニ於ケル中心人物トナリ得ルモノ、並ニ内地及ヒ滿鮮等ニ殖民セントスルモノヲ農村改善上先ヅ入學セシメンコトヲ欲シ、生徒カ修了後縣命ニ努力發展セントスルニ當リ實際ニ之ヲ行ヒ得ル自由ノ餘地ヲ與ヘラレンコトヲ望ムガ故ニ青年ノ入學ヲ希望セラル、父兄、村當局、有力者等ハ其修了ノ上ハ必ズ之ニ一町内外ノ土地ノ經營ヲ一任シテ爲サシムヘキコトヲ豫メ本人及ヒ本校ニ進ンテ申出デラル、場合ノ多カラシムコトヲ期待ス。

本校ハ生徒ノ個々ノ相談ニ應ジ成ル可ク實際ノ指導ニ盡力センコトヲ欲スルガ故ニ生徒入學ノ場合ニハ各自ノ所有及耕作スル土地ノ詳細財產狀態ノ大要、親族及家庭關係、居村ノ現狀等ニ關スル智識ヲ具ヘ來ランコトヲ望ム。

各部ヲ進シ一ヶ月ニ要スル費用ハ總計十六圓(食費十二圓、舍費二圓、授業料二圓)トス。但シ第一、二部ニアリテハ授業終了間際ニ於テ鮮滿旅行ヲ課スルヲ以テ約百圓内外ノ旅費ヲ要ス、書籍代筆紙代ハ自辨ナルモ多クヲ要セス。被服、寢具、勞働着ハ各自持參トス。服制トシテ制帽(一圓内

經費

外)制帽、夏(五圓内外)冬(十四圓内外)ヲ要ス。

現況 卒業生一覽

卒業後ノ 状況	計	第四部	第三部	第二部	第一部	部別年次號		分佈	狀況
						第一年度	第二年度		
其移經自 民地營家 他三四六	43			18	25	第一年度		總計	
六八	74	10		18	46	第二年度		茨城	三一〇
六四	70	14	5	23	39	第三年度		千葉	二〇
八一六	91	6	6	32	47	第四年度		群馬	一〇
一二四	95	11	11	18	55	第五年度		山形	三
八一〇	89	12	9	27	41	第六年度		福島	一〇
								山梨	二
								香川	三
								岡山	七
								鹿兒島	三
								愛媛	三
								三重	三
								福井	三
								滋賀	三
								岩手	三
								富山	二
								福岡	二
								熊本	二
								佐賀	二
								大分	一
								宮崎	一
								高知	一
								大島	一
								北海道	二
								北海	二
								名	二

在校生一覽

部別	人員	履				備考
		高小學校 補習學校 卒	中等學校 半修學 卒	農學校 卒	中學校 卒 其他	
第一部	七九	一二	一〇	二	一四	其他ハ實業學校商業學校教員養成所ナリ
第二部	四二	六	九	三	五	九同 上
第三部	三八	三〇		七		一
第四部	七	三	一			三其他ハ全部師範學校
計	一六六	五一	二〇	一一	二〇	三七
						二七

一、日課概要

起 床 午前五時若シクハ五時三十分、禱・清潔、整頓ヲナス。(太鼓合圖)
 武道、體操 五時半若シクハ六時ヨリ一時間、半數宛武道(直心影流法定ノ型)及ヒ日本體操(やまとばたらき)ヲ課ス。
 禮 拜 午前七時一同校庭ニ集合左ノ形式ニヨリ禮拜ヲナス
 一、二拜二拍手一拜 二、教育勅語奉讀

朝 食 午前七時
 學 科 自午前八時三十分、至正午
 實 習 自午後一時三十分、至日沒
 夕 食 六時—七時
 自 習 七時—九時、一週間ニ擊劍柔道各二日、講義ヲナス場合モアリ
 禮 拜 九時、一同各宿舍ニ集合左ノ形式ニヨリ禮拜ヲナス
 二拜二拍手一拜職員生徒相互ノ挨拶

二、當 番

本校ニハ使丁、炊夫農夫ヲ置カス、當番制ヲ施キ職員生徒之ニ當ル
 (イ) 事務室當番 二名 之ニ當リ外來者ノ應接、事務室ニ於ケル雜務ニ服ス。
 (ロ) 掃除當番、數名 各寮内外ノ清潔整頓ニ當ル
 (ハ) 炊事當番、數名 之ニ當リ豫メ作成セラレタル献立表ニ基キ調理「カード」ニ依リ食事一切ノ賄、燃料ノ研究入浴室ノ準備整理ニ當ル
 (ニ) 麵麩當番、四名 麵麩若シクハ製菓ノ作業ニ服ス
 (ホ) 畜舎當番、四名 宛之ニ當リ大小家畜家禽ノ飼養管理ヲナス

- (ハ) 農具、當番、一名 之ニ當リ作業場ノ整頓農具ノ整頓整理ニ當ル
- (ト) 農場、當番、一名 農場巡察農場日誌ノ記入ヲナス
- 三、會 合 時々茶話會、講話會ヲ催ス。尙活動寫眞、其他ノ娛樂會合ヲ催スコトアリ
- 四、農 場 (イ) 圃 場 耕地全面積四十六町六反歩 (水田三、八町、畑四二、八町)

主作物ハ主要食糧トシ其他之ニ隨附ス。即チ

- 一、陸稻其他禾穀類
- 二、豆菽類
- 三、薯 類
- 四、蔬 菜
- 五、果 樹
- 六、飼料作物、其他
- (ロ) 畜 舍 大家畜 乳牛 一四(仔共) 鮮牛 一〇 馬 二
- 小家畜 豚 五〇(仔共) 緬羊 三 兔 一〇
- 小家畜 鶏 三〇〇〇
- (ハ) 加工部 農産加工 精米、精麥、挽割、瓶詰類、罐詰類、ハム、ベーコン、ソーセイジ、漬物一切等
- 農産製造 味噌、醬油、納豆、豆腐等

日本國民高等學校學則

第一章 總 則

第一條 本校ハ農村青年子女ヲ訓育シテ皇國農民タル信念ヲ涵養セシメ天分ヲ明確ナラシメ其進路ヲ示シ探ルヘキ方針ヲ授ケテ農村ノ發達農民文明ノ建設ニ努ムルヲ以テ目的トス

第二條 本校ニ第一部乃至第五部ヲ置キ各部ノ教育要旨ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一部 (長男教育) ニアリテハ年齢二十歳以上ノ農家ノ子弟(主トシテ長男)ニシテ將來農家ノ戸主トシテ立チ農村ノ中核タルベキ者ヲ養成ス但シ十八歳以上ノ者ト雖モ入學ヲ許スコトアルベシ

第二部 (次三男教育) ニアリテハ年齢二十歳以上ノ次男以下ノ農家子弟ニシテ將來拓地殖民ニ從事スル者ヲ養成ス

(第一部及ヒ第二部ニ於テハ四月ヨリ十二月迄實科實習及旅行ヲ行ヒ一月ヨリ三月迄自宅ニ於テ各自農業經營ニ對スル計劃ヲ立テ報告セシメ三月末終了スルモノトス)

第三部 (少年教育) ニアリテハ小學校卒業年齢ヨリ十八歳未滿ノ農家子弟ニ訓育ヲ行ヒ農業ニ關スル智識技能ヲ習熟セシム

第四部 (女子教育) ニアリテハ年齢滿十五歳以上ノ農家子女ニ訓育ヲ行ヒ將來農家ノ主婦トシテ必要ナル家

政及ヒ農業上ノ智識技能ヲ授ク

第五部 (短期講習) ニアリテハ學校教員其他青年ニ對シ皇國精神發揚ニ關スル講習會等ヲ隨時隨所ニ開催ス

第二章 教材及課程

第四條 本校ノ教科ハ總テ第一條ニ掲ゲタル本校ノ目的達成ノ精神ヲ以テ一貫スルモノトス

各部ノ教科目及ヒ其課程ヲ定ムルコト別表ノ如シ

第五條 各教科目ノ課程及ヒ教授時數ハ學校長之ヲ定ム

第三章 職制

第六條 本校ニハ左ノ職員ヲ置ク

一 校長 一名 二 補 導 若干名

第七條 校長ハ校務ヲ總理シ生徒ノ訓育ヲ掌リ職員ヲ監督ス

第八條 補導ハ校長ヲ補佐シ生徒ノ訓育ニ當ル

第四章 修業期間及休業

第九條 本校ノ修業年限ハ第一部及ヒ第二部ハ一ケ年、第三部ハ二ケ年、第四部ハ一ケ年、第五部ハ其都度學校長之ヲ定ム

第十條 本校ノ學年ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一部 自四月一日 至翌年三月二十日

第二部 同 上

第三部 自四月一日 至翌々年三月廿日

第四部 自四月一日 至翌年三月廿日

第十一條 授業時間ハ午前八時ニ始マリ午後二時ニ終ル但シ農場實習ハ不定時トス

第十二條 本校ノ休日ハ左ノ如シ

一 大祭祝日

二 日曜日

三 本校記念日

四 第三部ニ限り左ノ期間休業ス

後期休業 自三月一日 至三月三十一日

前期休業 自八月十五日 至八月三十一日

第五章 入學及退學

第十三條 本校ニ入學シ得ルモノハ第二條ニ定ムルトコロニ依ル

第十四條 本校ニ入學セントスルモノハ戸主又ハ後見人連署ノ上入學願書ニ履書及ヒ戶籍抄本ヲ添へ學校長ニ差出スヘシ

第十五條 入學志願者ニ對シテハ試験ヲ行フコトアルヘシ

第十六條 本校ニ入學シタルモノハ總テ寄宿舎ニ入舎セシム

第十七條 寄宿舎ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定ム

第十八條 本校ヲ退學セントスル者ハ其ノ理由ヲ具シテ戶主又ハ後見人連署ノ上退學届ヲ差出スヘシ

第十九條 學校長ハ本校所定ノ課程ヲ終了シタル者ニハ修了證ヲ授與ス

第二十條 授業料ハ各部ヲ通シ月額二圓トス但シ第一部及第二部ニ於テハ一、二、三月分ハ之ヲ徵收セス

第二十一條 本則實施ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定ム

教科課程及教授時數每週

大體左記概定表に従ひ明確に各其ノ要點を會得せしめて活用に資することを力む。

修身	教科目	第一 部 (長男教育)		第二 部 (次三男教育)		第三 部 (少年)		第四 部 (女子教育)	
		課程	時數	課程	時數	課程	時數	課程	時數
農 村 經 營	皇國精神及	五	五	五	五	四	三		
	農國精神及								
	皇國精神及								
	農國精神及								

計	地理歴史	國語	數學	農學	外國語	武 道	體 操	教 練	家 政	音 樂	農場實習	殖 民	視察旅行	第一 部 (長男教育)		第二 部 (次三男教育)		第三 部 (少年)		第四 部 (女子教育)	
														課程	時數	課程	時數	課程	時數	課程	時數
二八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	珠算	一	珠算	一	講讀	一	講讀	一
二九	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	劍道	二	劍道	二	初歩	二	初歩	二
三〇	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	日本體操	三	日本體操	三	日本體操	三	日本體操	三
三〇	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	日本體操	四	日本體操	四	初歩	四	初歩	四
二八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一般	一	一般	一	一般	一	一般	一
二八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一般	一	一般	一	一般	一	一般	一

備考 本課程は必要に應じ隨時變更することあるべし

四四つの柱

日本國民高等學校は今まで申上げたやうに、日本精神の鍛錬陶冶を目的とする學校であります。此の日本國民高等學校は大體四つの柱から成つて居ります。是はどういふことかと申しますと、日本國民高等學校協會と云ふのが一つの柱であり、この幹部には、私の親友で今の農林次官の石黒君や京大の橋本博士、東大の那須博士等が居ります。元大藏大臣井上準之助さんも大變賛成をして熱心に後押しをして呉れました。併し石黒君が中心であります。それに經濟更生部長小平君、山崎延吉先生も骨を折つて呉れて居ります。

兎に角、國民高等學校を建設する爲には矢張り資金が要りますから、此の協會の幹部、即ち前に述べた方々が頻りに資金の募集や何かをやつて呉れます。資金の募集については、私は全く無關係であります。

其の次に、篤志家は是れ又柱の一つであります。僕は至つて頑固な男で、國民高等學校なるものは、一面に於て教權の確立、即ち金力と權力とには絶對的に頭を下げぬと云ふ教權の確立、天皇陛下直屬の學校と思つて居る。で最初文部省から補助金を出す様にしようかと云はれたが御斷りしたのであります。うっかりすると面倒臭い干渉をされる。丁抹では國家で此の國民高等學校には補助をして居りますが、絶對的自由を認めて、校長のすることに就ては一切彼是れ云はないことになつて居ります。それでなければならぬと思ふ。やれ授業がどうなつて居る、やれ何を報告しろ、何んだ斯んだと云はれた日には、肝心要めの教育が出来なくなる。此の點を御役人が明確に發心する迄は補助金を戴かないと極めて居ります。そんなことを申しては少し亂暴かもしれませぬけれども、教權の確立上、今の場合止むを得ぬのであります。資本家に對しても、勿論此の注意が入ります。淨財でなければ、斷じて受けてはならない。うっかりすると金錢に依つて縛られてしまふ。一體日本人は家族制度の下に培はれた人間でありますから、世話好きな國民

でありまして、他人のことを自分のことの如くに考へる癖がありますので、それが出過ぎると干渉となります。時によると、學校教育に経験もない知事等が出しや張つて来て、一廉の教育者のやうな顔をして種々なことを言ひ出す。縣廳の役人などにも干渉癖があつて困るのであります。解りもせぬものが、只監督官廳だからと言ふて、又は資金を寄附したからと言ふて無暗に干渉されては教育は出来なぬ。そこで日本國民高等學校は、是非とも権力と金力とに超越しなければならぬと、斯う私は信じて居るのであります。丁度大久保彦右衛門式で至つて頑固であります。厭な時には誰が迎へに來ても行きませぬ。氣の向いた時は、誰が迎へに來ても行く。至つて其の點亂暴者であります。そして私は世の中にはさう云ふ奴も居つて宜しいと思つて居りますし、文部省の武部普通學務局長も加藤はあゝ云ふ男だと思つて居られるらしいので、我儘者の僕などを一向怒りもしないで來て呉れと呼ばれたので此の講習に參つた譯であります。

教育者としては、どうしても金權に超越して居らねばいかぬと思ふ。そうでな

ければ教へ子に獨立自營の精神を吹き込むことは出来ない。私が権力や金力に常に頭を下げて屈從して居つたならば、生徒を獨立自營の日本農民に養成しようとしても出来る筈がない。それですから私は何時も此の點については頑ん張つて居る次第であります。そこでどの資本家が幾ら金を出したか、ちつとも知らない。金錢は神様から來るものと思つて居ります。

尙又、私は何時も最悪の場合を考へてやつてゐます。萬一生徒が一人も來ないと云ふ時は、職員全體が五十町歩の畑の中に突つ立つて、學校に籠城して行かうと覺悟を決めてゐます。ですからして篤志家が幾ら寄附しても、それは誠に結構であるが、併し之が爲に其の人が學校經營に嘴を入れると云ふことは、一切御免蒙る。先達でも、服部報公會で私を呼んで呉れた。それが三遍も呼んで呉れたので行く氣になつて、此の洋服で出て行つた所が受付に行くと、あちらに行つて下さい、お渡しする物があるからと云はれる。僕にはさつぱり解りませんでした。「何ですか」又「加藤先生ですか。お渡しする物がありますからあちらに」と云ふの

で、その方に行かうと思ふと、又一人が小平更生部長が先生に代つて持つて行かれましたと言はれて、始めて學校への寄附金だと思つた。そこで、「さうですか。些とも知らぬのですから……」。ところが、小平君が自分は七時には退席せねばならぬから、君が代つて「御禮を言つて呉れ……」と僕に言ふ。

とんでもないことになつたものだ。それから愈々僕が御禮を言ふ番になつたので「只今下村さんが服部翁の皆様に捧げる所の金銭は洵に淨財である、と懇々説明されましたので、私は安心して戴きますが、一體日本に於ては、土地と人と金とがばら／＼になつて居つて誠に困る。人さへ確乎として居れば何でも出來ると云ふけれども、教育をするには土地も要れば、建物も要る。私の方の學校には職員は大體に於てよく揃つて居るが、何時も金銭が少い爲に思ふ存分の活動が出來ない。そこで神様が御心配になつて、服部報公會から一千五百圓とか云ふ金銭を寄附する様に神様が御命令になつたに違ひない。之は誠に結構な有難たいことである。世の中には私のやうに活動しようと思つても、資金が無い爲に思ふ存分の活動が

出來ない人も澤山居るでせうから、どし／＼寄附されむことを御願ひ致します。私共も決して無駄使ひはしませんから、御安心を願ひたい。」と澁澤翁の例を擧げましてお禮を申し上げました。

此の寄附金の事で、私も澁澤翁に五時間許り御話を申し上げたが、翁に就ては偉いと思つて未だに忘れられぬことがあります。石黒君が是非私に澁澤翁の所に行つて國民高等學校の説明をして呉れ、澁澤翁も學校の後援をしたいと思つて居られる様だが、學校の意味がよく分らないから誠に濟まないが、學校の説明をして呉れないかと。そこで夕御飯を戴きながら、前にも述べた様に五時間も翁と討議を致しました。あれ程深味のある質問をした人は、私は未だ接した事がありませぬ。翁は農家の出身で養蠶でも何でも出來るので、農村問題農業教育の問題についてしみ／＼質問せられて五時間もやりました。最後に翁は能くお話が解りました。結構なことでありますから、誠に少いのでお恥しい次第ですが、二口ばかり後押しをさせて戴きたい。どうかさう願ひいたしますとあべこべに頼まれた。

其の時は二口が幾らであるかと云ふことは知らなかつたが、後で聞いて見れば、五千圓誠に結構、有難いと思ひました。そこで僕も「出来るだけやりますから」と云ふことでお別れしたのでありますが、矢張り私見たいなツムジ曲りには同じ淨財を出すにしても、出し方があるのであります。澁澤さんのやうに言はれて出されると、こつちは眞劍にやるぞと云ふ氣になる。それを何んとか、かんとか鼻にかけて出されたのでは眞つ平御免で、さう云ふものはお断りであります。

それから此の権力と云ふものは、必ずしも上からばかり来るものでない。近頃は生徒が團結してストライキをやる。其の権力に先生が屈從することがある。之も排斥する。私は斷乎として生徒が一人も居なくなつても宜しい。そこで私の方では、入學させる時に、一ヶ月の試験をやる。其の試験と云ふのはどう云ふのかと云ふと此の學校は斯う云ふ學校であると言ふことを示す爲に朝から晩まで一ヶ月の間は殆ど毎日々々主に土工をやらせる。一時間半位は毎朝私が自分の信ずる所を述べます。けれども、後はどしどし労働をさせます。さうして、皆さん

よく考へなさい。考へて此の學校に居つた方が自分の爲になると思つた人は残る。厭になつた人は歸る。決して無理に此の學校に居つて貰ひたいとは一口も言はない。私みたいな人間はほんくらな人間で、決して皆の師表になれる人間ではないから、厭だと思つたら皆歸つて下さい。一人残らず歸られても宜しい。一月の間よく胸に手を當てて考へて、居りたいと思ふ者は、僕の前で誓を立て下さい。此事は毎年々々繰り返して申して居ります。今年五人位は身體が弱くて歸りましたが、さう云ふ連中は大抵斯う云ふ譯で身體が悪いから今年は控へるが、來年は是非御厄介になります」と大抵はさう言ふて歸ります。随分亂暴に働かせるのであります。けれども、一人として怒つて歸るものは殆どありません。之は誠に頼もしいことと思つて居ります。

さう云ふ譯でありますから、未だ曾て生徒がわい／＼集つて騒いだなどと云ふことは一度もありません。

其の次の柱は、職員と生徒であります。それで此の中どれが中心かと申します

と、勿論生徒と職員とが中心であります。つまり、茲に一人の人間があつて、其の間が大和魂の眞髓を體得して其の體得した大和魂の眞髓を以て、一人でも多く大和民族の理想信仰に生きんとする人を作る。さう云ふ活動を始める時に、そこに日本國民高等學校が生れて來ます。それであるから、時に依れば一人でも宜しい。又必ずしも大きな校舎を要しない。國民高等學校は校舎を叩き潰して、生徒を殘らず歸郷させても、決して亡びない。先程申しました秋田縣の森川源三郎翁は、四つ小屋附近の阿邊郡上北手村字古野の二見山に閉ぢ籠つて、十五町歩の植林をした人でありますが、翁の庵を訪ふと室内の柱に二見山實業學校生徒一人と書いた竹の符が掛けてある。先生は松とか、檜とか、米とか、麥とかを先生として一人でも眞の農業を學んだ人であります。

國民高等學校とは大和民族の理想信仰を鍛鍊陶冶して、其の理想信仰に滿ち滿ちた人が農村に閉ぢ籠つて、さうして附近の農民子弟の教育に當ると云ふ時に産れ出るもの、之が即ち國民高等學校であります。友部のは今少しく大きくなり過

ぎて居る。之は時勢の然らしむるところである。建物も大きくなるし、牛も二十頭、鶏も三千羽、豚も六十頭居る。さうして生徒も百數十名居れば、從て寄宿舍もあり、道場もある。けれども國民高等學校の中心は何かと云ふと、職員と生徒とであつて、時に依れば是が一人一人になつても宜しい。愈々となれば、我一人でも結構だから平氣で如何なることがあつても些とも驚きませぬ。

併し乍ら職員生徒が心を合して愈々茲に國民高等學校運動をどしどし盛んにして行かうと云ふのには、多數の人の協同一致、即ち前に申した四つの土臺の柱が必要となつて來るのであります。勿論大きくなるに越したことはありません。けれども其の根本に於ては、前に申した精神が大事であります。ですからして、私の方では決して東京に於ける私立學校の如くに何とかして生徒を引止めようと云ふ風な妙な態度は起りませぬ。それでは教育が出來ない。知識の受賣りは出來るかも知れませぬけれども、人格の陶冶は出來ないのであります。

若し、皆さんが各府縣に國民高等學校と云ふものを建設せんとする時には、今申

したことを是非御參考にして戴きたいのであります。諸君が縣廳に居つて縣の役人として建設される時に、無論校長其の人を十分に選ぶことは必要であるが、選んで任じた以上は、其の人に一心不亂にやらせる。尤も其の者が日本の國體に觸れるやうな間違つたことを言ひ、間違つた行動をなす場合には直に誡首してしまはなければなりません。さうでない限り、即ち日本精神を鍛鍊陶冶する校長として其の人格が恥しくない人間であるならば、思ひ切つて其の人の活動に一任すると云ふ風に指導して願ひたいのであります。

第三章 國民高等學校の徹底運動

尙云ひたいことは、國民高等學校は私立が宜いと思ひます。といふのは、國民高等學校は日本人としての本分を果す人を作るのであつて、それには獨立獨行の間を作る獨立獨行の人間を養成するには、職員が金力、權力を超越しなければならぬので、現代の日本に於ては私立をやつた方がよいと考へます。自分としては、

かういふ國民高等學校が、日本に十箇所位出來たらよいと思つてゐます。各府縣に一つづつが理想であるけれども、少くとも東北に、北陸に、山陰に、東海道に、近畿に、四國に九州にといふやうに十箇所を念願してゐる次第で御座います。今、縣立で出來るといふ氣運があるが、勿論建設するまでは縣でやつてもよいが、設立した以上は經營は校長に之を一任するやうにありたいと思ひます。

今や、日本は非常時に遭遇してゐる。國民は一致協力して國家の進展に貢献しなければならぬ。そしてどうしてもこの困難を突破して行かねばならぬ。それには自信のある心も身體も絶大な人間を作ることが先決問題で、そうするにはどうしてもこの國民高等學校の様な學校にその使命を果さしむることが大切であると、痛切に感ずるのであります。

第四章 寺、教會以上の國民高等學校

もう一つ云ひたいことは、國民高等學校は、必ず農場を備へ此處にて職員も生徒

も共々に農業労働に従事し、額に汗して農産物を生産し、大和魂を磨き合ふことが目的であつてお寺や教會に似てゐるが根本に於て違ふのであります。お寺や教會は生産的のことはしない。金持や信者からの寄附金でやつてゐる。然るに、我々は相當の資産家から寄附を受けるけれども、職員生徒が生産に従事してゐる。衣食住の生産に土臺を置いてゐるのであります。即ち生産に従事しつゝ大和魂を鍛練陶冶してゐるのであります。お寺以上、教會以上の仕事をしてゐるといつてよいと信じます。

第五章 國民高等學校の使命

今の學校に修身科といふのがありますが、私に言はせると校長が修身の話をするよりも、自分が汗を流して労働に服しつゝ子供等を導びいた方が、どんなに立派な修身教育になるか知れないと思ひます。吾が日本國民高等學校に於ては毎日、炊事當番があつて職員と生徒でやつてゐます。大勢の人の飯をこがしては相濟まぬ

といふ責任觀念も自ら強くなる。之は百遍の説法よりも効果があります。一體於て、農業經營は責任觀念を強くする。かうしては相すまないといふ感じを起させるものであります。

今の學校に於ては修身の教育に於て、義務心を説き、忍耐を説いても少しも徹底しない。全く口舌の學で體驗がない、即ち行がないので身にしみ込まない、さればどうしても行をする必要があると思ひます。行をしてゐると自ら體得し得らるゝもので、壇上からいくら勇氣をといても身につかないが、毎日毎日武道をやつてゐると、自づと忍耐も勇氣も體得して、自分のものとなす事が出来るのであります。

多事多難の現代日本を切り開いて、萬代の礎を築く爲には、眞に勇氣忍耐に充ちた強い人間が、大和魂を鍛練陶冶して、雄々しく起ち上つて、内に外に活躍を続けねばならないことを痛切に感ずる。此の中心人物を作るのが、我が國民高等學校の使命と存するのであります。

結 論

私は日本農村教育といふ題目で長く述べて参りました。而して話の順序として第一に農業の眞意義について申上げ、序でに私も始めは農業の意義を知らなかつたが、或る機縁に觸れて其の眞意義に徹してから農を樂しむに至つたことを御話申し、聽講されし方々に僕と同じ考と同じ感じを持つて頂きたいことを希うたのであります。而して農業の眞意義に徹し、農業生活を樂しみ得る、さういふ信念を有する人が教育の衝に當り、小さい子供に農業を樂しむの精神を植付け、又農村青年に飽くまでも其の手から鋤をはなさぬと言ふ確乎たる信念を持たせることが農村教育の根柢をなすものと思ひます。

しかし單に農業の意義に徹するのみでは、まだ十分とは云へませぬ。其の上に日本人としての自覺、日本人としての理想信仰を有たねばなりません。

日本農民魂の鍛鍊陶冶を説き、家とか村とかいふことをお話致し、日本人としての自覺ある生活を提唱した次第であります。

かくして、日本人の自覺の下に、自分は日本國民として終始一貫する、その人間が現在の農村をどうするかと考へた時、こゝに三つの問題が生れる、即ち思想の問題、殖民の問題、農産物販賣取引改善問題であるとして、第一の思想の問題では、自分は終始一貫日本農民の一人として何處までもつとめる、かういふ信念を鍛鍊陶冶する、つまり農民の心の奥に明確なる日本農民としての理想信仰を植付ける、これが農村振興の原動力ともなれば又思想の對策ともなるものであることを述べ、その理想信仰を鍛鍊陶冶するには、國民高等學校の様な道場に於てなすべきことを申上げたのであります。第二は殖民の問題で、日本は年々何十萬と人口が増殖する、然るに耕地は現在内地に於て六百萬町歩で五百五十萬の農家がある、そこで長男は何とかやつてゆけるとしても、その二男三男はどうするかといふ問題になる。どうしても、これらの増殖する人口を殖民する必要がある、そこで滿蒙殖民の急務及

び解結を説き、第三に農民は自分で自給自足するのみでは農民とは云はれない、自分以外の他の階級の人々を自分が汗水垂らして作った生産物で養ふ、即ち他の階級の人々の衣食住を引受けるといふ所に農民の本分がある、その爲に販賣取引の問題が生れる、然るに其の販賣取引が現在不合理に行はれるが故に、其の解決を説いたのであります。

要するに、自分自身に農の眞意義に徹し、明確なる日本人としての自覺を持ち、他をして日本農民としての理想信仰を持たしめるべく努力し、お國の爲に全身全靈を捧げる人を多く出来上らせることが、日本農村教育の眞諦であります。結局、根本は人の問題であると思ひます。

日本農民が、日本人としての理想信仰を持ち、この難局に立てる日本を背負つて起つ意氣込みに燃え、光明の天地をめざして飛躍することが、昭和に於ける日本農民の使命であると固く信じます。教育の任にある人は、かゝる意味に於て農民青年を指導監督されむことを御願申します。

以上縷々數萬言を費しましたが、善きは採り悪しきは捨て、各地各處に於て活用さるゝやう切望して止みませぬ。

日本農村教育 (終)

文部省前督學官 農學博士 松井謙吉先生著 四六判 定價二圓五十錢
千葉高等師範學校長 三五〇頁 送料十六錢

【版 五】 農村並農業教育

一、松井博士の力作初めて顯る行政家・實際家として眞摯なる學究的態度の博士の御研究技に大成す
二、自力創生への農村教育の高唱 農業教育の要諦は須く自力創生の大精神を以て終始するに在り
三、農業教育の背景をなす農村教育 農業教育の振興は勢農村教育の研究を必要とする意味にて此問題をも具示
第一章現時の世相に鑑みて・第二章農村の現状を念頭に・第四章農村生活・第五章農村青年の使命・第六章農村教育問題の検討・第七章國家の基調としての農村教育・第八章農村問題の中
心としての教育・第九章農業教育論・第十章今後の農業教育・附録 桃太郎の話を題材として等々

前文部省督學官 九州帝大教授 小出滿二先生著 四六判三五〇頁・定價二圓五十錢
函入裝幀美本・送料十六錢

【版 八】 農業教育

▲著者は我國農業教育の權威者 文部當局として、帝大教授として、文檢委員として各方面に關係さ
れ農業教育の最高指導者である。而して其農業教育に關する著作は本書唯一冊のみである。
▲農業教育に携る者の必須良書 農村教育上の諸問題を詳述し、農村教育問題に悩む者への大指針書
前篇農業教育本論 農學・實利と學理・農業教育の現状・農學校の使命(略)・後篇農村教育の諸
問題 農村教育・家庭尊重・高等小學の農業・師範教育改善・實業補習教育・農村成人教育等諸

教育週報社長 爲藤五郎先生著 四六判・定價二圓五十錢
三六〇頁・送料十六錢

【版 八】 現代農村の教育

一、著める現代農村指導者への光明 現代農村は行詰り青年男女其方途に悩む本書は之れが新指針書。
二、實例引用農村の新教育方法親切 翻譯まがひの空論に非ずして專ら實例を以て農村教育を詳細想述す。
三、農村一致教育村の教育神髓詳解 國定教科書のモデル福岡縣神興村を親しく視て其の真相を披瀝す。
一、農村教育の典型・二、貧弱なるこの山村・三、神興小學校を觀る・四、村の先覺者と語る・五、流汗十
年經營の跡・六、小學校經營・七、公民教育經營・八、村を背負つて起つ青年・九、愛の權化安部訓導(略)

文部省 關屋龍吉先生 名古屋青年 石田利作先生 定價二圓八十錢
社會教育局長 訓練所至學 送料十六錢

【版 五】 實際的合理的青年指導法

▲唯一無二の青年教育指導法指針 補習學校青年訓練所青年團其他の指導方法を手に取るが如く詳述
▲實際的にて而も合理的な優越 實際的に詳細な記述なると共に青年心理其他に立脚極めて合理的
▲悉く體験による實感の伴ふ良書 前者「青年訓練所の經營」が江湖に歡迎されると同く皆體験より生れた書
第一章青年教育の省察・第二章明日の青年教育・第三章合理的指導の基礎・第四章現代世相と青
年の使命・第五章合理的指導・第六章青年の自覺を中心とした指導・第七章指導者の態度(以下略)

東大 發兌 社會資合式株書圖洋東 京東 阪大
番七三〇一京東替振・日丁一町保神區田神市京東
番六五五九三阪大替振・八二日丁一町寺堂安内・區南市阪大

文部省實業補習教育前主事 千葉敬止先生著 定價二圓八十錢 送料十六錢

【版 六】 高等 小學 農業教育原論

▲高等小學に於ける農業教育の目的・本質・教材・方法・教師・實習地經營等凡そ高等小學の農業教育に關する一切を闡明し盡せる良書にて、高等小學農業指導書の姉妹篇として編纂されたものである。
【總論】第一章農業教育の發達・第二章農業教育の分類・第三章農村の小學教育・第四章農村の農業教育の排列・第五章農村の農業教育の教授要旨・第六章農村の農業教育の教材・第七章農村の農業教育の關係・第八章農村の農業教育の實習・第九章農村の農業教育の訓練・第十章農村小學教員以下略

文部省實業補習教育前主事 千葉敬止先生著 【三冊】 上卷——高一用——各冊 二圓五十錢 下卷——高二用——各冊 二圓五十錢 送料十六錢

【版 八】 高等 小學 農業指導書

▲著者は文部省農業新要目選定の中心委員で本書は其の要目の選定の精神に基き且教材毎に(1)教授要項(2)教材要旨注意(3)指導上の準備(4)内容の解説(5)指導方法(6)實習指導の六大要目に分ち詳細懇切す男女教材を鹽梅し兩様に更にし、且別に設備一覽並に實驗細目等を添へた完備比較なき良書である

文部省實業補習教育前主事 岡 篤 郎 先生著 菊丸五八三頁 函入裝幀美本 定價四圓五十錢 送料二十錢

【版 七】 産業教化 補習學校 經營原論

▲學校の地方化、教育の社會化は、昭和國民教育の生命である。本書は其具體方法を示せる最良書。▲本書は公民教育の權威であり、市町村の産業教化の考究に多年蘊蓄を傾倒してゐる著者が民力涵養、産業教化の擴張を基調とする、實業補習學校の施設經營を平易に論述された快著である。▲昭和實業補習教育の新しい命の下に鋭き批判の眼を以て其施設經營の方法を痛快に論明して學校の組織、學費、設備の活用、教授訓練の方法、實習指導女子教育訓練の施設等、實業補習學校を中心とする社會教化に町村産業の振興に關する方策を説きて示す所なし。

文部省實業補習教育前主事 岡 篤 郎 先生著 菊丸三三五頁 函入裝幀美本 定價三圓三十錢 送料二十錢

【版 六】 産業教化 補習學校 經營の實際 地方改善

▲本書は全國優良補習學校經營の實際につきその特色長所を紹介したる補習學校經濟原論の姉妹篇にて、將來の實業補習學校改善振興に關する實際的方策を論明せる最良書である。▲學校當局は勿論、市町村當局、地方教育研究者の必讀すべき良書である。
一、實業補習學校の經營理想から現實へ。
二、教育經營で陸々たる村勢を築いた市邊實業補習學校の經營。
三、陸々たる村勢を築いた市邊實業補習學校の經營。
四、町村に新しい特産を作らしめた大賀農産公民學校の女子教育。
五、農業指導に努力す實業補習學校の經營。
六、貧しき出稼娘の教育に苦心する上休村の女子教育。
七、農業指導に努力す實業補習學校の經營。
八、貧しき出稼娘の教育に苦心する上休村の女子教育。

文部省實業補習教育前主事 岡 篤 郎 先生著 菊丸三三五頁 函入裝幀美本 定價三圓三十錢 送料二十錢

東京 東大 東洋圖書株式會社 發行
東京市神田區保町一丁目一替振東京一〇七三番
大阪市南區安堂寺一丁目二番八替振大阪三九五九番

東京 東大 東洋圖書株式會社 發行
東京市神田區保町一丁目一替振東京一〇七三番
大阪市南區安堂寺一丁目二番八替振大阪三九五九番

【書育教の書圖洋東】

版重	版三十	版二十	版重	版三	版三	版三	刊新最
關西學院 砂川寛榮先生著 （四）送料二・五〇	奈良女高師教授 木下竹次先生著（四）送料二・八〇	九州帝大 松濤泰巖先生著 （四）送料二・五〇	早稲田大學 稻毛詛風先生著 （四）送料二・八〇	附屬小學主事 堀 米次先生著 （四）送料二・六〇	附屬小學主事 渡邊昌司先生編 （四）送料二・八〇	附屬小學主事 渡邊昌司先生著 （四）送料二・六〇	大日本學校衛生會長 本圖晴之助先生著 （四）送料二・五〇
進歩的教育の諸問題	學習諸問題の解決	學習心理と學習様式	日本文化の創造と教育	辨證的の教育	具體的指導要諦	具體的教育	榮養學校給食の研究
□本書は教育の社會的方面の強調學校家庭の幾多の算術に於て、その實相と之が對策を詳述する。	□本書は教育の社會的方面の強調學校家庭の幾多の算術に於て、その實相と之が對策を詳述する。	□本書は教育の社會的方面の強調學校家庭の幾多の算術に於て、その實相と之が對策を詳述する。	□本書は教育の社會的方面の強調學校家庭の幾多の算術に於て、その實相と之が對策を詳述する。	□本書は教育の社會的方面の強調學校家庭の幾多の算術に於て、その實相と之が對策を詳述する。	□本書は教育の社會的方面の強調學校家庭の幾多の算術に於て、その實相と之が對策を詳述する。	□本書は教育の社會的方面の強調學校家庭の幾多の算術に於て、その實相と之が對策を詳述する。	□本書は教育の社會的方面の強調學校家庭の幾多の算術に於て、その實相と之が對策を詳述する。

最良の師として貴社の書籍を信頼す（宮崎・時任義次）……讀者の聲

四

東大 社會資合式株書圖洋東 發兌

東京市神田區表神保町一〇番地・東替一〇三〇番
大阪市南區安堂寺町一丁目・八二番・大阪替三九五六番

【書圖洋東は書育教】

版五	版五	版四	版五	版五	版六	版八	版八
東京帝大助教授 土入澤宗壽先生著（四）送料二・五〇	文部省 荻田萬一郎先生著（四）送料二・六〇	奈良女高師 秋草ちか先生著（菊）送料二・五〇	東京高師 相島龜三郎先生著（菊）送料二・八〇	文部省 荻田萬一郎先生著（菊）送料二・五〇	大阪市視學 野中吉光 奈良女高師訓導本清先生共著（菊）送料二・八〇	奈良女高師 小川正行先生著（菊）送料二・八〇	東京帝大教授 深作安文先生著（四）送料二・五〇
教育者と教育精神	思想と自己創造	作法實習記録	現代國民作法精義	勅語詔書精義	式辭・訓話精義	最近訓練原論	我國體觀念の發達
□教育最終の問題は教師其の人の人格にある。現代教育の進歩は、この第一義諦に基き、斯界の權威入澤先生がを倒せられたる唯一の良書である。	□現代青年の久しく渴望して満たされざりし、總ての自己を創造し、而して新社會に適應する。眞生活建設の良指針書。	□我が國古來より傳はる作法中特に古典的代、本膳・饗應の食器を初め、進撤の次第、食事の作法・献立・料理法のすべてを詳説する。	□昭和新时代的男女長幼の作法を悉く、而も懇切に修身・國史・國語等に直接關係あるもの、は懇切に説明せしむる。類なき徹底書。	□建國の神勅を始め、大化・明治・大正・昭和の勅語、詔書全部五十有餘の讀方・字義・大意を詳述する。懇切に説明せしむる。類なき徹底書。	□生活に必要なる式辭・訓話・祝祭日・記念日に凡そ學校、朝會に教室に講堂に於ては、是非必要なる好伴侶。	□洋の東西を通じて、訓練の良書なき折柄、造詣深き著者が、蘊蓄を傾倒せしむる。一大快著。	□我國體觀念の發達を具體的に叙述し、國民道の現時の大問題を、示したる良書である。

御社は常に親切にして愛讀者本位なり（福井・森昇一）……讀者の聲

五

東大 社會資合式株書圖洋東 發兌

東京市神田區表神保町一〇番地・東替一〇三〇番
大阪市南區安堂寺町一丁目・八二番・大阪替三九五六番

【書育教の書圖洋東】

版七	刊新最	版十二	版五	版十	版重	版八	版五
文部省嘱託 大阪市前視學 鈴木治太郎先生著(菊) 送料〇・三〇 定價三・三〇	大阪教育研究所長 大伴茂先生著(菊) 送料〇・三〇 定價四・三〇	廣島高師教授 久保良英先生著(菊) 送料〇・六〇 定價二・八〇	文部省實業 局長 木村正義先生著・守田保先生著(菊) 送料〇・六〇 定價二・八〇	京都女師校長 榎山榮次先生著(菊) 送料〇・六〇 定價二・八〇	文部省實業 局長 木村正義先生著(菊) 送料〇・六〇 定價二・八〇	文部省實業 局長 木村正義先生著(菊) 送料〇・六〇 定價二・八〇	文部省實業 局長 木村正義先生著(菊) 送料〇・六〇 定價二・八〇
□ 日本の内モン法として東西の専門家を以てなる基礎とし	□ 本書は三年間の心血を以てなる基礎とし	□ 本書は三年間の心血を以てなる基礎とし	□ 本書は三年間の心血を以てなる基礎とし	□ 本書は三年間の心血を以てなる基礎とし	□ 本書は三年間の心血を以てなる基礎とし	□ 本書は三年間の心血を以てなる基礎とし	□ 本書は三年間の心血を以てなる基礎とし

貴社は適切な著書多く實際教育に益する所多大なり (奈良・奥村正司)……讀者の聲

六

【書圖洋東は書育教】

刊新最	版十	版五	版一十	版五	版五	版重	版重
奈良女高師 山路兵一先生著(興) 送料〇・二〇 定價二・五〇	奈良女高師 山路兵一先生著(興) 送料〇・二〇 定價二・五〇	奈良女高師 山路兵一先生著(興) 送料〇・二〇 定價二・五〇	奈良女高師 山路兵一先生著(興) 送料〇・二〇 定價二・五〇	奈良女高師 山路兵一先生著(興) 送料〇・二〇 定價二・五〇	奈良女高師 山路兵一先生著(興) 送料〇・二〇 定價二・五〇	奈良女高師 山路兵一先生著(興) 送料〇・二〇 定價二・五〇	奈良女高師 山路兵一先生著(興) 送料〇・二〇 定價二・五〇
□ 全體教育並に合科は特殊の學校にのみ行は	□ 全體教育並に合科は特殊の學校にのみ行は	□ 全體教育並に合科は特殊の學校にのみ行は	□ 全體教育並に合科は特殊の學校にのみ行は	□ 全體教育並に合科は特殊の學校にのみ行は	□ 全體教育並に合科は特殊の學校にのみ行は	□ 全體教育並に合科は特殊の學校にのみ行は	□ 全體教育並に合科は特殊の學校にのみ行は

權威ある書籍に敬意を表す (三重・林安雄)……讀者の聲

七

東大 洋東圖書株式會社發兌

東京市神田區表神保町一〇番地・播替東一〇三七番
大阪市南區安内寺堂町一丁目・播替阪三九五五番

東大 洋東圖書株式會社發兌

東京市神田區表神保町一〇番地・播替東一〇三七番
大阪市南區安内寺堂町一丁目・播替阪三九五五番

【書育教の書圖洋東】

版七	版四十	版六廿	版十	版五	版五	版二十七	版一十
東京女高師 教授兼主事 北澤種一先生著 (菊) 送料 〇・二六	東京女高師 教授兼主事 北澤種一先生著 (菊) 送料 〇・二六	東京女高師 教授兼主事 北澤種一先生著 (菊) 送料 〇・二六	東京女高師 教授兼主事 北澤種一先生著 (菊) 送料 〇・二六	東京女高師 教授兼主事 北澤種一先生著 (菊) 送料 〇・二六	東京女高師 教授兼主事 北澤種一先生著 (菊) 送料 〇・二六	東京女高師 教授兼主事 北澤種一先生著 (菊) 送料 〇・二六	東京女高師 教授兼主事 北澤種一先生著 (菊) 送料 〇・二六
新社會觀、新時代の各要素、新校經營の原理、新校經營の長観、新校經營の短観、新校經營の理想	昭和新時代の要求に適應し、眞に児童を善導する、國民教育の達成を目標とする、社會教育の指導、學校教育の改良、學校教育の地方の實際を詳説する	昭和新時代の要求に適應し、眞に児童を善導する、國民教育の達成を目標とする、社會教育の指導、學校教育の改良、學校教育の地方の實際を詳説する	昭和新時代の要求に適應し、眞に児童を善導する、國民教育の達成を目標とする、社會教育の指導、學校教育の改良、學校教育の地方の實際を詳説する	昭和新時代の要求に適應し、眞に児童を善導する、國民教育の達成を目標とする、社會教育の指導、學校教育の改良、學校教育の地方の實際を詳説する	昭和新時代の要求に適應し、眞に児童を善導する、國民教育の達成を目標とする、社會教育の指導、學校教育の改良、學校教育の地方の實際を詳説する	昭和新時代の要求に適應し、眞に児童を善導する、國民教育の達成を目標とする、社會教育の指導、學校教育の改良、學校教育の地方の實際を詳説する	昭和新時代の要求に適應し、眞に児童を善導する、國民教育の達成を目標とする、社會教育の指導、學校教育の改良、學校教育の地方の實際を詳説する

東大 東洋圖書株式會社 發兌

東京市神田區表保町一丁目 電話一〇三〇七番

大阪市南區安内寺町一丁目 電話九三九三番

底力のある東洋圖書は知識のオアシス (臺灣・東郷善雄)……讀者の聲

【書圖洋東は書育教】

版六廿	版九十	版三十	版一十	版五十	版十	版六	最新刊
東京女高師 教授兼主事 北澤種一先生著 (菊) 送料 〇・二六	東京女高師 教授兼主事 北澤種一先生著 (菊) 送料 〇・二六	東京女高師 教授兼主事 北澤種一先生著 (菊) 送料 〇・二六	東京女高師 教授兼主事 北澤種一先生著 (菊) 送料 〇・二六	東京女高師 教授兼主事 北澤種一先生著 (菊) 送料 〇・二六	東京女高師 教授兼主事 北澤種一先生著 (菊) 送料 〇・二六	東京女高師 教授兼主事 北澤種一先生著 (菊) 送料 〇・二六	東京女高師 教授兼主事 北澤種一先生著 (菊) 送料 〇・二六
本書は低学年經營に多年の経験と獨力心身の努力を要する。児童の生活の善化、家庭の生活の善化、學校の生活の善化、社會の生活の善化、國民教育の達成を目標とする。社會教育の指導、學校教育の改良、學校教育の地方の實際を詳説する。	本書は低学年經營に多年の経験と獨力心身の努力を要する。児童の生活の善化、家庭の生活の善化、學校の生活の善化、社會の生活の善化、國民教育の達成を目標とする。社會教育の指導、學校教育の改良、學校教育の地方の實際を詳説する。	本書は低学年經營に多年の経験と獨力心身の努力を要する。児童の生活の善化、家庭の生活の善化、學校の生活の善化、社會の生活の善化、國民教育の達成を目標とする。社會教育の指導、學校教育の改良、學校教育の地方の實際を詳説する。	本書は低学年經營に多年の経験と獨力心身の努力を要する。児童の生活の善化、家庭の生活の善化、學校の生活の善化、社會の生活の善化、國民教育の達成を目標とする。社會教育の指導、學校教育の改良、學校教育の地方の實際を詳説する。	本書は低学年經營に多年の経験と獨力心身の努力を要する。児童の生活の善化、家庭の生活の善化、學校の生活の善化、社會の生活の善化、國民教育の達成を目標とする。社會教育の指導、學校教育の改良、學校教育の地方の實際を詳説する。	本書は低学年經營に多年の経験と獨力心身の努力を要する。児童の生活の善化、家庭の生活の善化、學校の生活の善化、社會の生活の善化、國民教育の達成を目標とする。社會教育の指導、學校教育の改良、學校教育の地方の實際を詳説する。	本書は低学年經營に多年の経験と獨力心身の努力を要する。児童の生活の善化、家庭の生活の善化、學校の生活の善化、社會の生活の善化、國民教育の達成を目標とする。社會教育の指導、學校教育の改良、學校教育の地方の實際を詳説する。	本書は低学年經營に多年の経験と獨力心身の努力を要する。児童の生活の善化、家庭の生活の善化、學校の生活の善化、社會の生活の善化、國民教育の達成を目標とする。社會教育の指導、學校教育の改良、學校教育の地方の實際を詳説する。

東大 東洋圖書株式會社 發兌

東京市神田區表保町一丁目 電話一〇三〇七番

大阪市南區安内寺町一丁目 電話九三九三番

貴社は誠に卓見で且親切である (北海道・富永榮藏)……讀者の聲

【書育教の書圖洋東】

<p>最新刊 東京高師 復式尋一・二の學級經營 小林佐源治先生著 (送料) 定價 〇・二六</p> <p>最新刊 東京高師 復式尋三・四の學級經營 小林佐源治先生著 (送料) 定價 〇・二六</p> <p>最新刊 東京高師 復式尋五・六の學級經營 小林佐源治先生著 (送料) 定價 〇・二六</p>	<p>七版 文部省實業 補習學校經營原論 篤郎先生著 (送料) 定價 〇・三三</p> <p>六版 文部省實業 補習學校經營の實際 篤郎先生著 (送料) 定價 〇・三八</p> <p>九版 陸軍次官陸軍中將阿部信行閣下序 石田利作先生著 (送料) 定價 〇・二六</p>	<p>八版 富山師範附屬小學校著 (送料) 定價 〇・二六</p> <p>重版 ホーム組織の學校經營 (送料) 定價 〇・二六</p>	<p>四十版 奈良女高師 野中吉光先生著 (送料) 定價 〇・二六</p> <p>修身學習の根本と其の實際</p>	<p>廣島高師 堀之内恒夫先生著 (送料) 定價 〇・二六</p> <p>修身教育原論</p>	<p>廣島高師 堀之内恒夫先生著 (送料) 定價 〇・二六</p> <p>新尋常修身教育書 一年用</p>	<p>廣島高師 堀之内恒夫先生著 (送料) 定價 〇・二六</p> <p>新尋常修身教育書 二年用</p>	<p>廣島高師 堀之内恒夫先生著 (送料) 定價 〇・二六</p> <p>新尋常修身教育書 三年用</p>	<p>廣島高師 堀之内恒夫先生著 (送料) 定價 〇・二六</p> <p>新尋常修身教育書 四年用</p>	<p>東京高師 川島次郎先生共著 (送料) 定價 〇・二六</p> <p>尋常小學 例話原據と其解說 卷上</p>	<p>東京高師 川島次郎先生共著 (送料) 定價 〇・二六</p> <p>尋常小學 例話原據と其解說 卷下</p>
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

貴社は教育界の王座なり (栃木・影澤慶一)……讀者の聲

一一一

修身參考書

●權威ある著者
●嚴選された内容
●必要不可欠の良書

【書圖洋東は書育教】

<p>四十版 修身學習の根本と其の實際</p>	<p>八版 修身教育原論</p>	<p>廣島高師 堀之内恒夫先生著 (送料) 定價 〇・二六</p> <p>新尋常修身教育書 一年用</p>	<p>廣島高師 堀之内恒夫先生著 (送料) 定價 〇・二六</p> <p>新尋常修身教育書 二年用</p>	<p>廣島高師 堀之内恒夫先生著 (送料) 定價 〇・二六</p> <p>新尋常修身教育書 三年用</p>	<p>廣島高師 堀之内恒夫先生著 (送料) 定價 〇・二六</p> <p>新尋常修身教育書 四年用</p>	<p>東京高師 川島次郎先生共著 (送料) 定價 〇・二六</p> <p>尋常小學 例話原據と其解說 卷上</p>	<p>東京高師 川島次郎先生共著 (送料) 定價 〇・二六</p> <p>尋常小學 例話原據と其解說 卷下</p>
-------------------------	------------------	---	---	---	---	---	---

貴社の權威ある書物の發行を喜ぶ (徳島・青山盛雄)……讀者の聲

一一三

東大 東洋圖書株式會社 發行

東京市神田區表神保町一丁目 電話一〇三〇七番
大阪市南區安堂寺町一丁目 電話三九三九番

東大 東洋圖書株式會社 發行

東京市神田區表神保町一丁目 電話一〇三〇七番
大阪市南區安堂寺町一丁目 電話三九三九番

【書圖洋東は書育教】

版五	版一十	版重	版重	版重	版五	版五	版二十
東京高師教授 奈良女高師教授 臨時國語 調査會發表	奈良女高師 河野伊三郎先生著	奈良女高師 岩瀬六郎先生著	奈良女高師 岩瀬六郎先生著	奈良女高師 岩瀬六郎先生著	東京高師 五味義武先生著	奈良女高師 山路兵一先生著	奈良女高師 山路兵一先生著
漢字 整理案	國語學習上の諸問題	尋二國語教育精義	尋一國語教育精義	尋一國語教育精義	國語讀本 讀解指導と其實例	方學 方學習原論	方學 方學習活動
定價二〇〇〇	送料二〇〇〇	送料三〇〇〇	送料三〇〇〇	送料三〇〇〇	送料二〇〇〇	送料二〇〇〇	送料二〇〇〇
□ 文部省臨時國語調査會が發表したるもの、 □ 小國語研究者の友として至便至實の書、 □ 校文科生等の必携書。	□ 國語學習上あらゆる問題について多年研究 されたる稀に見る實際中の實例である。 □ 上中下各學年形式内容取扱上各方面に互 つた具體事例集である。	□ 國語教育一般の心的作用文章要素四方 法などを新觀點より語る。 □ 根本より當然派生する大小幾多の學習方法 上の諸問題を明快に語る。	□ 國語讀本を編集し我が教育界に劃時代的功 績を残した著者の最近研究披露する。 □ 一段高き觀點より時弊を救ひ重要問題を説 き新問題を暗示されたる獨特の卓見麗文集	□ 先生が讀本中の各種文章を指導された實際 を最も大膽に、赤裸々に叙述されたもの。 □ 兒童學習力伸張の具體的指針に如く明 かに且指導法も具體的に示す。	□ 先生が讀本中の各種文章を指導された實際 を最も大膽に、赤裸々に叙述されたもの。 □ 兒童學習力伸張の具體的指針に如く明 かに且指導法も具體的に示す。	□ 先生が讀本中の各種文章を指導された實際 を最も大膽に、赤裸々に叙述されたもの。 □ 兒童學習力伸張の具體的指針に如く明 かに且指導法も具體的に示す。	□ 先生が讀本中の各種文章を指導された實際 を最も大膽に、赤裸々に叙述されたもの。 □ 兒童學習力伸張の具體的指針に如く明 かに且指導法も具體的に示す。

貴社を知つてから他の書店を知る要がなくなつた (徳島・植山柔)……讀者の聲 一五

東大 京東 社會資合式株書圖洋東 發兌

東京市神田區表神保町一〇番地・振替東京一〇三〇七番
大阪市南區安内寺町一丁目二八番・振替大阪三九三九六番

【書育教の書圖洋東】

版五十	版三十	刊新最	刊新最	刊新最	刊新最	刊新最	刊新最
奈良女高師 秋田喜三郎先生著	奈良女高師 岩城準太郎先生著	奈良女高師 河野伊三郎先生著	文部省 東京高師前訓導馬淵冷佑先生著	文部省 東京高師前訓導馬淵冷佑先生著	文部省 東京高師前訓導馬淵冷佑先生著	文部省 東京高師前訓導馬淵冷佑先生著	文部省 東京高師前訓導馬淵冷佑先生著
國語讀本の縦斷的研究	表現と鑑賞	方學 方學習原論	方學 方學習原論	方學 方學習原論	方學 方學習原論	方學 方學習原論	方學 方學習原論
送料二〇〇〇	送料二〇〇〇	送料二〇〇〇	送料二〇〇〇	送料二〇〇〇	送料二〇〇〇	送料二〇〇〇	送料二〇〇〇
□ 國語讀本全十二卷を縦斷的に研究し其精神 其美點其長所を鑑賞的に研究されたる良書 見解から形式内容共通本に研究されてゐる	□ 創作と批評、表現と鑑賞の二者を一に渾融 して説いた文學的新作品である。 □ 現代文學の權威たる先生が永年練られた新 文章であり國語參考書である。	□ 先生が讀本中の各種文章を指導された實際 を最も大膽に、赤裸々に叙述されたもの。 □ 兒童學習力伸張の具體的指針に如く明 かに且指導法も具體的に示す。	□ 先生が讀本中の各種文章を指導された實際 を最も大膽に、赤裸々に叙述されたもの。 □ 兒童學習力伸張の具體的指針に如く明 かに且指導法も具體的に示す。	□ 先生が讀本中の各種文章を指導された實際 を最も大膽に、赤裸々に叙述されたもの。 □ 兒童學習力伸張の具體的指針に如く明 かに且指導法も具體的に示す。	□ 先生が讀本中の各種文章を指導された實際 を最も大膽に、赤裸々に叙述されたもの。 □ 兒童學習力伸張の具體的指針に如く明 かに且指導法も具體的に示す。	□ 先生が讀本中の各種文章を指導された實際 を最も大膽に、赤裸々に叙述されたもの。 □ 兒童學習力伸張の具體的指針に如く明 かに且指導法も具體的に示す。	□ 先生が讀本中の各種文章を指導された實際 を最も大膽に、赤裸々に叙述されたもの。 □ 兒童學習力伸張の具體的指針に如く明 かに且指導法も具體的に示す。

國語參考書

● 權威ある著者
● 厳選された内容
● 必要不可欠の良書

貴社の發行書は量以上の價值あることを喜ぶ (北海道・東山一男)……讀者の聲 一四

東大 京東 社會資合式株書圖洋東 發兌

東京市神田區表神保町一〇番地・振替東京一〇三〇七番
大阪市南區安内寺町一丁目二八番・振替大阪三九三九六番

【書育教の書圖洋東】

版九	版九	版五	版六	版重	版重	版重	版重	版重	版重
最新算術學習指導法	算術教育新論	算術教育の設備と活用	算術自發學習發展の實際	尋五新算術書の活用	尋六新算術書の活用	高一新算術書の活用	高二新算術書の活用	算術學習の診斷と其對策	算珠
塚本清先生著 (菊) 送料 二・三〇	佐藤良一郎先生著 (癸) 送料 二・三〇	中野恭一先生著 (癸) 送料 二・三〇	清水甚吾先生著 (菊) 送料 三・三〇	池内房吉先生著 (癸) 送料 二・三〇	池内房吉先生著 (癸) 送料 二・三〇	池内房吉先生著 (癸) 送料 二・三〇	池内房吉先生著 (癸) 送料 二・三〇	阪本忠諒先生著 (癸) 送料 二・三〇	岩下吉衛先生著 (菊) 送料 二・三〇
□ 算術の取扱法、實驗、實測、空想、教授の取扱、代 □ 著者の頭腦明晰、新問題を初め、算術の取扱、代 □ 算術の原理より、實際に及ぼせるもの、少く □ 算術の取扱法、實驗、實測、空想、教授の取扱、代 □ 算術の原理より、實際に及ぼせるもの、少く	□ 算術教育の意義、意味、非ず、普通、活用、本位、に於 □ 算術教育の意義、意味、非ず、普通、活用、本位、に於 □ 算術教育の意義、意味、非ず、普通、活用、本位、に於	□ 算術教育の意義、意味、非ず、普通、活用、本位、に於 □ 算術教育の意義、意味、非ず、普通、活用、本位、に於 □ 算術教育の意義、意味、非ず、普通、活用、本位、に於	□ 算術教育の意義、意味、非ず、普通、活用、本位、に於 □ 算術教育の意義、意味、非ず、普通、活用、本位、に於 □ 算術教育の意義、意味、非ず、普通、活用、本位、に於	□ 算術教育の意義、意味、非ず、普通、活用、本位、に於 □ 算術教育の意義、意味、非ず、普通、活用、本位、に於 □ 算術教育の意義、意味、非ず、普通、活用、本位、に於	□ 算術教育の意義、意味、非ず、普通、活用、本位、に於 □ 算術教育の意義、意味、非ず、普通、活用、本位、に於 □ 算術教育の意義、意味、非ず、普通、活用、本位、に於	□ 算術教育の意義、意味、非ず、普通、活用、本位、に於 □ 算術教育の意義、意味、非ず、普通、活用、本位、に於 □ 算術教育の意義、意味、非ず、普通、活用、本位、に於	□ 算術教育の意義、意味、非ず、普通、活用、本位、に於 □ 算術教育の意義、意味、非ず、普通、活用、本位、に於 □ 算術教育の意義、意味、非ず、普通、活用、本位、に於	□ 算術教育の意義、意味、非ず、普通、活用、本位、に於 □ 算術教育の意義、意味、非ず、普通、活用、本位、に於 □ 算術教育の意義、意味、非ず、普通、活用、本位、に於	□ 算術教育の意義、意味、非ず、普通、活用、本位、に於 □ 算術教育の意義、意味、非ず、普通、活用、本位、に於 □ 算術教育の意義、意味、非ず、普通、活用、本位、に於

正しき教育は正しき教育書から、正しき教育書は東洋圖書から (島根・長藤積) …… 讀者の聲 二〇

東大 東洋圖書株式會社 發兌

東京市神田區表保町一〇番地 電話一〇三〇七番

【書圖洋東は書育教】

版重	版七	版十二	版三十	版九	版六
算術學習の診斷と其對策	算珠	數學史	幾何學史	國史學習の根本及其の實際	國史學習上の諸問題
阪本忠諒先生著 (癸) 送料 二・三〇	岩下吉衛先生著 (菊) 送料 二・三〇	清水英一先生著 (癸) 送料 二・三〇	清水英一先生著 (癸) 送料 二・三〇	拵井弘先生著 (癸) 送料 二・三〇	拵井弘先生著 (癸) 送料 二・三〇
□ 算術教育の系統を明にし、學年別に尋一より □ 算術の漸進的取扱法、直觀的取扱法、對策と取扱 □ 算術の漸進的取扱法、直觀的取扱法、對策と取扱	□ 算珠の長所、短所、徹底的體験的取扱法、 □ 算珠の長所、短所、徹底的體験的取扱法、 □ 算珠の長所、短所、徹底的體験的取扱法、	□ 算術史の系統を明にし、學年別に尋一より □ 算術の漸進的取扱法、直觀的取扱法、對策と取扱 □ 算術の漸進的取扱法、直觀的取扱法、對策と取扱	□ 算術史の系統を明にし、學年別に尋一より □ 算術の漸進的取扱法、直觀的取扱法、對策と取扱 □ 算術の漸進的取扱法、直觀的取扱法、對策と取扱	□ 國史學習の根本及其の實際、 □ 國史學習の根本及其の實際、 □ 國史學習の根本及其の實際、	□ 國史學習上の諸問題、 □ 國史學習上の諸問題、 □ 國史學習上の諸問題、

國史・地理參考書

權威ある著者
厳選された内容
必要不可欠の良書

東大 東洋圖書株式會社 發兌

東京市神田區表保町一〇番地 電話一〇三〇七番

千島の涯まで貴社の恩恵に浴し得るを喜ぶ (千島・菅原藤一) …… 讀者の聲

【書育教の書圖洋東】

【書圖洋東は書育教】

貴社の糧により教育道に生く (静岡・松浦志郎)……讀者の聲

二二

<p>最新刊 奈良女高師 大松庄太郎先生著(菊) 送料二・五〇 尋常小學校 國史新指導書 上巻</p> <p>最新刊 奈良女高師 大松庄太郎先生著(菊) 送料二・五〇 尋常小學校 國史新指導書 下巻</p> <p>白井繁太郎先生著 (興) 送料二・四〇 東洋史物語 上巻</p> <p>白井繁太郎先生著 (興) 送料二・四〇 東洋史物語 下巻</p> <p>奈良女高師 鶴居滋一先生著 (興) 送料二・八〇 地理學指導法精義</p> <p>奈良女高師 清水甚吾先生著 (菊) 送料二・八〇 新地理書指導の實際 五巻</p> <p>奈良女高師 清水甚吾先生著 (菊) 送料二・三〇 新地理書指導の實際 六巻</p>	<p>最新刊 奈良女高師 大松庄太郎先生著(菊) 送料二・五〇 尋常小學校 國史新指導書 上巻</p> <p>最新刊 奈良女高師 大松庄太郎先生著(菊) 送料二・五〇 尋常小學校 國史新指導書 下巻</p> <p>白井繁太郎先生著 (興) 送料二・四〇 東洋史物語 上巻</p> <p>白井繁太郎先生著 (興) 送料二・四〇 東洋史物語 下巻</p> <p>奈良女高師 鶴居滋一先生著 (興) 送料二・八〇 地理學指導法精義</p> <p>奈良女高師 清水甚吾先生著 (菊) 送料二・八〇 新地理書指導の實際 五巻</p> <p>奈良女高師 清水甚吾先生著 (菊) 送料二・三〇 新地理書指導の實際 六巻</p>	<p>最新刊 奈良女高師 大松庄太郎先生著(菊) 送料二・五〇 尋常小學校 國史新指導書 上巻</p> <p>最新刊 奈良女高師 大松庄太郎先生著(菊) 送料二・五〇 尋常小學校 國史新指導書 下巻</p> <p>白井繁太郎先生著 (興) 送料二・四〇 東洋史物語 上巻</p> <p>白井繁太郎先生著 (興) 送料二・四〇 東洋史物語 下巻</p> <p>奈良女高師 鶴居滋一先生著 (興) 送料二・八〇 地理學指導法精義</p> <p>奈良女高師 清水甚吾先生著 (菊) 送料二・八〇 新地理書指導の實際 五巻</p> <p>奈良女高師 清水甚吾先生著 (菊) 送料二・三〇 新地理書指導の實際 六巻</p>	<p>最新刊 奈良女高師 大松庄太郎先生著(菊) 送料二・五〇 尋常小學校 國史新指導書 上巻</p> <p>最新刊 奈良女高師 大松庄太郎先生著(菊) 送料二・五〇 尋常小學校 國史新指導書 下巻</p> <p>白井繁太郎先生著 (興) 送料二・四〇 東洋史物語 上巻</p> <p>白井繁太郎先生著 (興) 送料二・四〇 東洋史物語 下巻</p> <p>奈良女高師 鶴居滋一先生著 (興) 送料二・八〇 地理學指導法精義</p> <p>奈良女高師 清水甚吾先生著 (菊) 送料二・八〇 新地理書指導の實際 五巻</p> <p>奈良女高師 清水甚吾先生著 (菊) 送料二・三〇 新地理書指導の實際 六巻</p>
---	---	---	---

□ 現行國史教科書が出版されて十餘年間に
 □ 進歩したる理論と實際は悉く本書に織込
 □ 従来の類書は繁に流れて錯雑し或は簡に
 □ 各題材毎に1学習目的の2學習事項の3
 □ 各題材毎に1學習目的の2學習事項の3
 □ 國史教育の更なるエッセンスを示す
 □ 世界最古の文明を生んだ東洋の歴史—現
 □ 代文化の源を明にすべき通俗的良書であ
 □ 正しく興味深い物語として人物逸話を緯
 □ 我國の出来事や人物と比較し又短評を加
 □ 難解の評ある東洋史と比較し又短評を加
 □ 全文の假名遣い、東洋史の理を易からしむ
 □ 事成語の出所、意義をも明かに示す
 □ 廣く入學以前より尋常に至る迄の地理教
 □ 國語算術等の地理教育の準備を示さる
 □ 著者が二十有餘年間に研究された實際
 □ 教授の経験と最近研究された學習法を緯
 □ 地理學指導上の重要問題は悉く解決さ
 □ 尋常用は昭和六年度改訂書につき
 □ 項の解説(1)材料の説明と参考資料(2)學習事
 □ 項の解説(3)地理用語の解説(4)附圖との連絡
 □ 解説(4)學習問題等に分ちて詳解さる
 □ 尋常用は昭和五年度改訂書につき
 □ (3)(1)新教材を集成(2)教材精解にグラフ圖表
 □ 學習問題を載する等懇切を盡さる

東洋圖書株式會社發行

東京市神田區表神保町一丁目・番三〇七番
大阪市南區安堂寺町一丁目・番九三九番

最新刊

大東京物語

□ 企畫して五年大東京實現を期として公表し
 □ たもの、教育的見地に立ち真面目の研究物
 □ 各方面の地理的科學的挿畫を多く挿入し自然
 □ 人々年々の出来事を詳述し小學校教材と連絡

理科參考書

● 權威ある著者
 ● 厳選された内容
 ● 必要不可欠の良書

版三 版三 版二十 版一十 版三 版三

文部博士 伯爵 林博太郎先生 共編(菊) 送料三・三〇
 東京女高師主事 堀七藏先生 共編(菊) 送料三・三〇
 文部博士 伯爵 林博太郎先生 共編(菊) 送料三・三〇
 東京女高師主事 堀七藏先生 共編(菊) 送料三・三〇

奈良女高師 大浦茂樹先生著 (興) 送料三・五〇
 理科學習指導實錄

奈良女高師 神戶伊三郎先生著(菊) 送料三・三〇
 理科學習原論

奈良女高師 神戶伊三郎先生著(菊) 送料三・三〇
 理科學習各論 尋四

奈良女高師 神戶伊三郎先生著(菊) 送料三・三〇
 理科學習各論 尋五

□ 小學校の各學年各種教材につき林伯爵親し
 □ く指導の下になる大正七年以來十有餘年間
 □ 壹百餘回の理科教授の實際記録
 □ 尋常四尋五尋六高等一二のあらゆる教材に互
 □ り模範的指導記録にて我國理科教育の指針
 □ 第一指導案、第二教授の經過、第三質問應
 □ 答、第四批評の順に詳録す

□ 學習主義に基き理論と實際を巧に取合せ其
 □ の月並の問題を他書に譲り實際的著書である
 □ のみを力説されたのも又本書の長所である
 □ 本書は先生が多年實際に指導せられた體験
 □ の結晶で多くの指導例をあげらる
 □ 加ふるに自然科学の本質を明かにし理科學
 □ 習の寶庫を開かれたものである

□ 著者は本書に蘊蓄と研究の總てを注がれた
 □ 指導方案が各材料毎に詳述してある
 □ 教材を精説し細微な點まで明かにしてある
 □ 各課に互り(1)選題の要旨(2)學習の着眼點(3)
 □ 學習用具(4)學習準備(5)教材の内容(6)指導法
 □ 及び學習發展の狀を詳述せる斯界の名著

東洋圖書株式會社發行

東京市神田區表神保町一丁目・番三〇七番
大阪市南區安堂寺町一丁目・番九三九番

教育界の黎明は御社の圖書から (秋田・小松恕助)……讀者の聲

二二

【書圖洋東は書育教】

版重	版重	版重	版重	版十	版三	版五	版五
奈良女高師 訓導 川口英明先生著 （四）送料 〇・二六	奈良女高師 訓導 池尻景順先生共著 （菊）送料 〇・二六	奈良女高師 訓導 池尻景順先生共著 （菊）送料 〇・二六	奈良女高師 訓導 幾尾純先生編 （菊）送料 〇・二六	奈良女高師 訓導 幾尾純先生編 （吳半）送料 〇・四六	奈良女高師 訓導 幾尾純先生著 （四）送料 〇・二六	奈良女高師 訓導 幾尾純先生著 （菊）送料 〇・二六	奈良女高師 訓導 幾尾純先生著 （菊）送料 〇・二六
體育學習の實際	伴奏の附け方	旋律作法	幾尾式カド	幾尾式カド	新小學唱歌指導書	小學唱歌の指導書	小學唱歌の指導書
□ 舊來の體操を體育と改稱して其の範圍を廣 □ 齊的劃一的なものなりしを個別的とした。 □ 兒童本位の獨自學習を新設した實際書。	□ 伴奏は音樂の普及音樂教育の進歩と共に一 □ 般的大衆化と共に伴奏もその附け方の入門書 □ 曲の作り方著はされたる初等作曲法手引に □ 解し得る名著にて引例豊富説明懇切に極む	□ 本書は普通作曲法の入門書として誰人にも □ 分り易く著はされたる初等作曲法手引に □ 曲の作り方著はされたる初等作曲法手引に □ 解し得る名著にて引例豊富説明懇切に極む	□ 第一に兒童作曲法を載せて先生の手解とす □ 第二に兒童作曲法を載せて先生の手解とす □ 第三に「本譜練習幾尾式カド」を全部本譜 □ に譯して掲載し指導用に供してある。	□ 一名本譜ヨメルと稱し、本譜の讀譜力、 □ 記譜力養成に此上なき良カドである。 □ 幾尾式唱歌教授の秘訣は、本書にあつて、 □ 唱歌教授成功への鍵である。	□ 新高等小學唱歌の編纂趣旨開明、教材選擇 □ 全二十餘曲の實際的取扱指針書、東京高師 □ 青柳先生が親しく協力されしは本書の強味	□ 本書は先生の二十餘回生徒に教へられた事 □ 實の記録に洗練又洗練を加へられたエキス □ 取論の方面はその學習上の諸問題を實際的 □ 取扱中に巧に具體化して織り込まれてある □ 第一等二共の内容を一方針二教育の概略 □ 三教材及其指導四附加唱歌五補充唱歌六教 □ 材七其指導の實際に別けて詳説す。	□ 本書は先生の音樂教育に關する力作で著書 □ 關する御意見は悉く本書に收められてある □ 唱歌教授の第一人者たる以て誰もが許す幾 □ 尾先生の本譜教學法は獨り獨りたる音樂教育に □ 關する御意見は悉く本書に收められてある

廉價と内容に一層の努力あることを感謝す（愛知・磯貝鹿太郎）……讀者の聲

二五

發兌 社會資合式株書圖洋東 京東 阪大

番七三〇一京東替攝・地番〇一町保神表區田神市京東
番六五五九三阪大替攝・八二日丁一町寺堂安内・區南市阪大

【書育教の書圖洋東】

版八卅	版十	版五	版七	版五	版五	版五
奈良女高師 訓導 幾尾純先生著 （四）送料 〇・二六	東京高師 訓導 青柳善吾先生著 （四）送料 〇・二六	中川逢吉先生著 （四）送料 〇・二六	宮道馨先生著 （四）送料 〇・二六	東京高師 訓導 橋本爲次先生著 （四）送料 〇・二六	東京高師 訓導 橋本爲次先生著 （四）送料 〇・二六	廣島高師 訓導 桑原理助先生著 （四）送料 〇・二六
私の唱歌教授	音樂・體操參考書	生物學史	理化學史	尋四の理科教育	尋三の理科教育	理科教育の設備と活用
□ 唱歌教授の第一人者たる以て誰もが許す幾 □ 尾先生の本譜教學法は獨り獨りたる音樂教育に □ 關する御意見は悉く本書に收められてある	□ 本書は先生の音樂教育に關する力作で著書 □ 關する御意見は悉く本書に收められてある □ 唱歌教授の第一人者たる以て誰もが許す幾 □ 尾先生の本譜教學法は獨り獨りたる音樂教育に □ 關する御意見は悉く本書に收められてある	□ 動物植物の生物學歴史を平易な文章と多くの □ 挿畫とを以て懇説詳解したる唯一無二の良書 □ 小學中男女學生の參考必須書にて學校 □ 圖書館・通俗圖書館に必備の良書	□ 本書は重要にして興味あり而も日常生活に □ 關係の深いものを人物本位に述べた良書に □ 尙卷末には「最新世界理化年表」として大小 □ 各發明發見の事實が年代的に纏めてある	□ 理科教育の權威たる著者が新時代の要求よ □ り兒童本位の立場より見行したる新指導書 □ し又一學位を如何に指導するかの新指針 □ 兒童本位の立場より見行したる新指導書 □ し又一學位を如何に指導するかの新指針	□ 尋四から獨立教科になる迄に如何に理科的 □ 教育を施すべき時代の實際案を詳示する。理科 □ 教育を施すべき時代の實際案を詳示する。理科 □ 教育を施すべき時代の實際案を詳示する。理科	□ 理科教育を徹底させたために眞の教育的設備 □ を研究詳述懇切を盡くされし最新良書 □ 活用本位にて經費本位に非ず經濟的良書 □ にて特別教室は勿論普通教室設備の良書

貴社の奉仕的出版に對し敬意を表す（岡山・寺坂忠）……讀者の聲

二四

發兌 社會資合式株書圖洋東 京東 阪大

番七三〇一京東替攝・地番〇一町保神表區田神市京東
番六五五九三阪大替攝・八二日丁一町寺堂安内・區南市阪大

【書育教の書圖洋東】

<p>最新刊 奈良女高師 會根 榮先生著 (四六) 送料〇・二六 圖畫の發生的指導法</p> <p>□ 創作から創作へ児童は伸びるその根本の上 □ 創作から創作へ児童は伸びるその根本の上 □ 創作から創作へ児童は伸びるその根本の上 □ 創作から創作へ児童は伸びるその根本の上 □ 創作から創作へ児童は伸びるその根本の上</p>	<p>重版 奈良女高師 横井曹一先生著 (四六) 送料〇・二六 圖案教育の新構成</p> <p>□ 本道は圖畫教育の本質を闡明し新しき而も □ 本道は圖畫教育の本質を闡明し新しき而も □ 本道は圖畫教育の本質を闡明し新しき而も □ 本道は圖畫教育の本質を闡明し新しき而も □ 本道は圖畫教育の本質を闡明し新しき而も</p>	<p>六版 奈良女高師 横井曹一先生著 (四六) 送料〇・二六 圖畫學習原論</p> <p>□ 本道は圖畫教育の本質を闡明し新しき而も □ 本道は圖畫教育の本質を闡明し新しき而も □ 本道は圖畫教育の本質を闡明し新しき而も □ 本道は圖畫教育の本質を闡明し新しき而も □ 本道は圖畫教育の本質を闡明し新しき而も</p>	<p>重版 奈良女高師 新井つた女史著 (四六) 送料〇・二六 體育としての薙刀</p> <p>□ 刀の開祖が其真髓を記録されたものであり □ 刀の開祖が其真髓を記録されたものであり □ 刀の開祖が其真髓を記録されたものであり □ 刀の開祖が其真髓を記録されたものであり □ 刀の開祖が其真髓を記録されたものであり</p>	<p>十版 奈良女高師 御笹政重(菊)先生共著 (四六) 送料〇・二六 教育のダンス</p> <p>□ 挿入して懇切に説明し楽譜三十餘種を添ふ □ 挿入して懇切に説明し楽譜三十餘種を添ふ □ 挿入して懇切に説明し楽譜三十餘種を添ふ □ 挿入して懇切に説明し楽譜三十餘種を添ふ □ 挿入して懇切に説明し楽譜三十餘種を添ふ</p>	<p>七版 東京市 藤本光清先生編 (三五) 送料〇・二六 改正要目 小學校體操教程</p> <p>□ 本道は各學年十一種計八十八種の教程を其 □ 本道は各學年十一種計八十八種の教程を其 □ 本道は各學年十一種計八十八種の教程を其 □ 本道は各學年十一種計八十八種の教程を其 □ 本道は各學年十一種計八十八種の教程を其</p>	<p>八版 東京市 寺谷朝藏先生著 (四六) 送料〇・二六 改正要目 小學校體操指導書</p> <p>□ 體操の全部に亘り其指導法を詳述する良書 □ 體操の全部に亘り其指導法を詳述する良書 □ 體操の全部に亘り其指導法を詳述する良書 □ 體操の全部に亘り其指導法を詳述する良書 □ 體操の全部に亘り其指導法を詳述する良書</p>
--	--	--	--	--	--	---

貴社發行書の優良なるに感服す(青森・種市與四郎)……讀者の聲

東大 東洋圖書株式會社 發兌
東京市神田區表神保町一〇番地 電話一三〇七番
大阪市南區堂安町一丁目二八番 電話三九五六番

【書圖洋東は書育教】

<p>最新刊 奈良女高師 横井曹一先生著 (四六) 送料〇・二六 尋常小學圖畫の解説と指導精案</p> <p>□ 新國定の尋常小學圖畫の編纂趣旨を明らか □ 新國定の尋常小學圖畫の編纂趣旨を明らか □ 新國定の尋常小學圖畫の編纂趣旨を明らか □ 新國定の尋常小學圖畫の編纂趣旨を明らか □ 新國定の尋常小學圖畫の編纂趣旨を明らか</p>	<p>十版 奈良女高師 横井曹一先生著 (四六) 送料〇・二六 尋常小學圖畫の解説と指導精案</p> <p>□ 新國定の尋常小學圖畫の編纂趣旨を明らか □ 新國定の尋常小學圖畫の編纂趣旨を明らか □ 新國定の尋常小學圖畫の編纂趣旨を明らか □ 新國定の尋常小學圖畫の編纂趣旨を明らか □ 新國定の尋常小學圖畫の編纂趣旨を明らか</p>	<p>八版 奈良女高師 横井曹一先生著 (四六) 送料〇・二六 尋常小學圖畫の解説と指導精案</p> <p>□ 新國定の尋常小學圖畫の編纂趣旨を明らか □ 新國定の尋常小學圖畫の編纂趣旨を明らか □ 新國定の尋常小學圖畫の編纂趣旨を明らか □ 新國定の尋常小學圖畫の編纂趣旨を明らか □ 新國定の尋常小學圖畫の編纂趣旨を明らか</p>	<p>五版 東京市 山形 寛先生著 (四六) 送料〇・二六 尋一の手工作教育</p> <p>□ 新手工教育の實際に重點を置き勞作教育作 □ 新手工教育の實際に重點を置き勞作教育作 □ 新手工教育の實際に重點を置き勞作教育作 □ 新手工教育の實際に重點を置き勞作教育作 □ 新手工教育の實際に重點を置き勞作教育作</p>	<p>五版 東京市 山形 寛先生著 (四六) 送料〇・二六 尋二の手工作教育</p> <p>□ 新手工教育の實際に重點を置き勞作教育作 □ 新手工教育の實際に重點を置き勞作教育作 □ 新手工教育の實際に重點を置き勞作教育作 □ 新手工教育の實際に重點を置き勞作教育作 □ 新手工教育の實際に重點を置き勞作教育作</p>	<p>七版 東京市 山形 寛先生著 (四六) 送料〇・二六 尋三の手工作教育</p> <p>□ 新手工教育の實際に重點を置き勞作教育作 □ 新手工教育の實際に重點を置き勞作教育作 □ 新手工教育の實際に重點を置き勞作教育作 □ 新手工教育の實際に重點を置き勞作教育作 □ 新手工教育の實際に重點を置き勞作教育作</p>
---	--	--	--	--	--

日本の教育は貴社より生れる(福岡・武上俊治)……讀者の聲

東大 東洋圖書株式會社 發兌
東京市神田區表神保町一〇番地 電話一三〇七番
大阪市南區堂安町一丁目二八番 電話三九五六番

【書育教の書圖洋東】

版九	刊新最	版七	版七	版二十	版二十	刊新最
東京女高師 裁縫學習の根本と其の實際	奈良女高師 裁縫精義	奈良女高師 裁縫精義	奈良女高師 裁縫精義	奈良女高師 裁縫精義	奈良女高師 裁縫精義	東京高阿部七三吉先生 裁縫手工精義
松尾まきを先生著(菊) 送料 〇・六	米澤外四先生共著(菊) 送料 〇・六	米澤外四先生共著(菊) 送料 〇・六	米澤外四先生共著(菊) 送料 〇・六	米澤外四先生共著(菊) 送料 〇・六	米澤外四先生共著(菊) 送料 〇・六	森積之祐先生著(菊) 送料 〇・六
〇・八	〇・六	〇・三	〇・三	〇・六	〇・六	〇・六

裁縫・家事参考書

● 權威ある著者
● 厳選された内容
● 必要不可欠の良書

〇本書は總ての方面に亘り綿密なる説明と美麗なる寫眞版と多くの精密なる圖解とを用ひて充實し専ら學習者の理解に便した日本一の最高最良の裁縫参考書である。

〇奈良女高師裁縫科教授の一同が各自の研究を合一し各流派に拘泥せず中庸を得た三十年の體験に基き其力審議八ヶ年漸く完成す本年の體験に基き其力審議八ヶ年漸く完成す

〇本書には又大幅物裁ち方を多く加へ且用布節約の爲に經濟裁方をも詳述記載した。

〇全部メートル法を採用し新度量衡に倣す。

〇第一篇は単衣の裁縫原論・第二篇は袷縮入帶の裁縫原論・第三篇は羽織袴の裁縫原論・第四篇は他に類例なきコートの裁縫原論・第五篇は其他の附屬裁縫の襦袢・夜着・丹前・蒲團・枕・座蒲團・蚊帳・絆纏・足袋等三十餘種につき懇切丁寧に詳述したる良書。

〇小學校女學校の裁縫教師必須書、高女、女師女專の教科書文檢裁縫科唯一の良参考書。

〇裁縫の體験的記録になる新裁縫教育法裁縫の原理及方法の實際的指針で新しき學習指材料配列とは他にその比を見ない。

東大 京 東 資 合 式 株 書 圖 洋 東 發 兌

京東市神田區表神保町一〇番地・電話一〇三〇七番
大阪市南區堂寺町一丁目二八番・電話五九三九番

教育立國の指導書多きことを喜ぶ (朝鮮・朴元淳)……讀者の聲

【書圖洋東は書育教】

版五	刊新最	版八	版五	版八	版十	版五	版六
奈良女高師 家事指導の實際	奈良女高師 私の家事教育	奈良女高師 家事學習上の諸問題	奈良女高師 花の活け方	奈良女高師 服装の研究	大阪府立清水谷高女 裁縫學習指導法	奈良女高師 裁縫教育の諸問題	廣島高師 裁縫教育の諸問題
溝上泰子先生著(四) 送料 〇・六	溝上泰子先生著(四) 送料 〇・六	石澤吉磨先生著(四) 送料 〇・六	須山法香齋先生著(菊) 送料 〇・六	錦織竹香先生著(菊) 送料 〇・六	結城親學先生著(四) 送料 〇・六	中澤かすめ先生著(四) 送料 〇・六	石田ひろ先生著(四) 送料 〇・六
〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六	〇・六

裁縫・家事参考書

〇本書は總ての方面に亘り綿密なる説明と美麗なる寫眞版と多くの精密なる圖解とを用ひて充實し専ら學習者の理解に便した日本一の最高最良の裁縫参考書である。

〇奈良女高師裁縫科教授の一同が各自の研究を合一し各流派に拘泥せず中庸を得た三十年の體験に基き其力審議八ヶ年漸く完成す本年の體験に基き其力審議八ヶ年漸く完成す

〇本書には又大幅物裁ち方を多く加へ且用布節約の爲に經濟裁方をも詳述記載した。

〇全部メートル法を採用し新度量衡に倣す。

〇第一篇は単衣の裁縫原論・第二篇は袷縮入帶の裁縫原論・第三篇は羽織袴の裁縫原論・第四篇は他に類例なきコートの裁縫原論・第五篇は其他の附屬裁縫の襦袢・夜着・丹前・蒲團・枕・座蒲團・蚊帳・絆纏・足袋等三十餘種につき懇切丁寧に詳述したる良書。

〇小學校女學校の裁縫教師必須書、高女、女師女專の教科書文檢裁縫科唯一の良参考書。

〇裁縫の體験的記録になる新裁縫教育法裁縫の原理及方法の實際的指針で新しき學習指材料配列とは他にその比を見ない。

東大 京 東 資 合 式 株 書 圖 洋 東 發 兌

京東市神田區表神保町一〇番地・電話一〇三〇七番
大阪市南區堂寺町一丁目二八番・電話五九三九番

貴社の書籍は斷然教育界の尖端を行く (鹿兒島・藤崎親徳)……讀者の聲

【書育教の書圖洋東】

【書圖洋東は書育教】

貴社の良書に我が心躍る (臺灣・小川一)……讀者の聲

三〇

農業・商業参考書

文部省前督學官農學博士松井謙吉先生著(興)
千葉高等園藝校長
農村並農業教育 送料二・五〇

教育週報 爲藤五郎先生著 (興) 送料二・五〇
現代農村の教育 送料二・五〇

文部省督學官 小出滿二先生著(興) 送料二・五〇
農業教育 送料二・五〇

文部省實業 千葉敬止先生著(興) 送料二・五〇
農業教育原論 送料二・五〇

文部省實業 千葉敬止先生著(菊) 送料二・五〇
農業指導書 送料二・五〇

文部省實業 松本喜一先生共著(菊) 送料二・五〇
農業指導書 送料二・五〇

文部省實業 足達丑六先生共著(菊) 送料二・五〇
商業指導書 送料二・五〇

權威ある著者
嚴選された内容
必要不可欠の良書

行政家として實際家として常に眞摯なる博
士の農村教育方法と農業教育の徹底法詳論
本書の眞髓は農業教育の要諦は須らく自力
創生の大精神を以て終始するにありとさる

現代農村は行詰り青年男女其の方途に悩む
國定教科書の農村教育指針として最良の
親しく縦横より見て其の眞相を明かにす

著者は九大勲任教授と文部省督學官とを兼ね
又農業科實業員檢定委員の重職にあらる
著書は先生の農業教育の論文を添へてある
著書で尙有益なる幾多の論を添へてある

高等小學に於ける農業教育の目的本質教材
方法教師實習地經營等を闡明したる良書
著者は文部省實業局長として高等小學農業
目選定の局に當り全國の實際を視察指導す

文部省制定の新高等小學農業科教授要目作
成の委員が其趣旨により指導書を編纂さる
指導の方法と内容の解とを巧に織りこむ
説明懇切挿繪多く必要用具も示す

實習を特示して各項は1指導に要す
一項目を示し準備4指導法内は1指導に要す
二項目を示し準備4指導法内は1指導に要す
三項目を示し準備4指導法内は1指導に要す

本書は文部省の商業科教授要目案に準據し其
委員たる著者が商業科の教材及び指導法
圖解として編述された無二の指導書である
圖解と諸様式等を例示し内容豊富説明懇切

東大 東洋圖書株式會社 發行
東京市神田區表神保一丁目番七三〇一
大阪市南區安堂寺一丁目二八番六五五九三

五版 文部省實業 松本喜一先生共著(菊) 送料二・五〇
商業指導書 卷下
文部省實業 足達丑六先生共著(菊) 送料二・五〇
商業指導書 卷上
十版 文部省實業 千葉敬止先生著(菊) 送料二・五〇
農業指導書 卷上
七版 文部省實業 松本喜一先生共著(菊) 送料二・五〇
農業指導書 卷下
五版 文部省實業 足達丑六先生共著(菊) 送料二・五〇
商業指導書 卷上

生徒・兒童用書

二高教授 大石喬一先生著 (興) 送料二・五〇
現代數學問題集

二高教授 大石喬一先生著 (興) 送料二・五〇
幾何學問題集

東京女高師校長 吉岡徳甫先生序 (興) 送料一・〇〇
東京女高師校長 永田與三郎編 (興) 送料一・〇〇
東京女高師校長 永田與三郎編 (興) 送料一・〇〇
東京女高師校長 永田與三郎編 (興) 送料一・〇〇

東京女高師校長 永田與三郎編 (興) 送料一・〇〇
東京女高師校長 永田與三郎編 (興) 送料一・〇〇
東京女高師校長 永田與三郎編 (興) 送料一・〇〇
東京女高師校長 永田與三郎編 (興) 送料一・〇〇

本書は高等諸學校の受驗用に最適し解法を
附したる問題二〇〇題、練習問題四〇〇題、
課題四〇〇題を集む。課題は短時間に多
くの問題を觀て自信をつける爲に最良。
本書は一通り中等平面幾何學を修了したる
もの獨習用並に既習知識を確實にして好適す
る排列表を工夫し興味を失はない方法に努む
單調を破り永く興味を失はない方法に努む

東大 東洋圖書株式會社 發行
東京市神田區表神保一丁目番七三〇一
大阪市南區安堂寺一丁目二八番六五五九三

貴社は各方面に愈整備せるを感ず (長野・佐藤嘉市)……讀者の聲

三一

【書圖洋東は書育教】

版五	版六	版五	版五	版四十	版六
大阪家なき幼稚園長 顧問橋詰良一先生著(四六) 定價二・五〇 送料〇・二六	奈良女高師教授 兼附屬幼稚園主事 森川正雄先生著(菊) 定價二・〇〇 送料〇・三〇	奈良女高師教授 兼附屬幼稚園主事 森川正雄先生著(菊) 定價二・〇〇 送料〇・三〇	奈良女高師教授 兼附屬幼稚園主事 森川正雄先生著(四六) 定價二・〇〇 送料〇・三〇	奈良女高師教授 兼附屬幼稚園主事 森川正雄先生著(菊) 定價二・〇〇 送料〇・三〇	藤西學院 教授 砂川寛榮先生著 (四六) 定價二・〇〇 送料〇・二六
家なき幼稚園と實際	幼稚園教育法	幼稚園の經營	幼稚園の理論及實際	幼稚園參考書	養力學生新學習法
<ul style="list-style-type: none"> □ 橋詰先生の御創案「家なき幼稚園」は世界的大事業として、パーカースト女史驚嘆す。現に經營される七幼稚園の實際とを詳述。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 育兒法は保母資格試験の必須科目である。本書はその唯一の参考書。保母養成所教科書(附録)(一)工場法(二)健康保險法(三)種痘法(四)産前産後の訓令、五六七其他諸規定諸表。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 保母檢定試験規則による教育兒童心理教授に依ると共に保母須要の二大科目の良參考書。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 該規定・託兒所經營の重要問題凡て解決。更に經營論・幼兒の眞生活・保育の眞髓。家庭と連絡・保育の雜問題等に付懇説さる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 幼稚園の理論及實際を説かれた本邦唯一の書物である。□ 内外の實際、古今の理論悉くこの一巻に收められて遺憾とする所なし。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 競爭激甚の今日眞の學習法を會得し全我を伸すものが最後の勝者である。
<p>● 權威ある著者 ● 厳選された内容 ● 必要不可欠の良書</p>					

貴社の圖書は我等の力強き師友なり (長崎・江口仙三郎)……讀者の聲

三三

東京 東洋圖書株式會社發行

東京市神田區表神保町一丁目 番〇一 電話一〇三〇七番
大阪市南區安堂寺町一丁目 番八二 電話三九三五番

【書育教の書圖洋東】

版十	版十	版十	版六十	版重	版八廿	版二十	版四十
文藝學博士 澤柳政太郎先生著(菊) 定價二・五〇 送料〇・二六	文藝學博士 澤柳政太郎先生著(菊) 定價二・五〇 送料〇・二六	文藝學博士 澤柳政太郎先生著(菊) 定價二・五〇 送料〇・二六	愛知一中 教員 中山久吉先生著 (四六) 定價一・二〇 送料〇・二〇	大阪清水谷 高女教諭 中村邦治先生著 (四六) 定價二・五〇 送料〇・二六	東京高師 佐藤良一郎 山本政治 四先生共著(四六) 定價一・八〇 送料〇・三〇	東京高師 佐藤良一郎 山本政治 四先生共著(四六) 定價一・八〇 送料〇・三〇	東京高師 佐藤良一郎 山本政治 四先生共著(四六) 定價一・八〇 送料〇・三〇
兒童副修身書卷六	兒童副修身書卷五	兒童副修身書卷四	問題最新化學	女子物理學講義	代數講義補習用	代數講義下卷	代數講義上卷
<ul style="list-style-type: none"> □ 澤柳博士は本邦修身教育界の大先達で常に修身の指導者であつた。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 澤柳博士は本邦修身教育界の大先達で常に修身の指導者であつた。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 澤柳博士は本邦修身教育界の大先達で常に修身の指導者であつた。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 受驗必勝の鍵實力鍛錬捷徑の最良書として過去二十餘年の高模範解答との形に整理。調として最近五十年の問題に付新傾向を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 女學生を本位とし判り易く親切に説き、殊に現行女子物理學教科書を全部参照して參考となるべき事項を殆ど網羅された。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 本書必讀の三大要諦者(一)中學校女學校師範學校前業學校の生徒の學習用。(二)専ら獨力によつて自學自習せんとする者の參考書。(三)高等學校專門學校の入學試験受驗者の學習及練習用。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 代數を初めて學ぶ人、既に學びたる人の學習復習整理の好伴侶である。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 代數講義の最高權威書。學科の本質と指導法の妙とを究められた四先生が深甚の注意を拂ひ極めて平易に系統的に詳解せられたる最新最良の學習書。

學校行事は學校經營のマスコット (宮城・大友貞行)……讀者の聲

三二

東京 東洋圖書株式會社發行

東京市神田區表神保町一丁目 番〇一 電話一〇三〇七番
大阪市南區安堂寺町一丁目 番八二 電話三九三五番

【書育教の書圖洋東】

版八	版三	刊新最	版一廿	版二卅
教高育等	教高育等	教高育等	教高育等	教高育等
代	力	電	物	物
數	磁	氣	理	理
學	學	學	學	學
學	學	學	學	學
大石喬一先生著	野邑雄吉先生著	野邑雄吉先生著	佐藤充先生著	佐藤充先生著
定價二・五〇 送料〇・六〇	定價三・〇〇 送料〇・六〇	定價三・五〇 送料〇・六〇	定價四・〇〇 送料〇・六〇	定價四・五〇 送料〇・六〇

貴社の圖書は時勢に適する最良書なり (愛知・中村繁治)……讀者の聲

△高等學術書

高等程度參考書

● 邦文物理學として最良書との定評の書。
● 「佐藤の物理」とは即ち本書である。
● 内容は多年高等學校で自ら體験されたもので洗練に洗練され其最新發達したる部面を詳述し又索引並に復習問題を特設す。
● 大學入學受驗者、工業學校受驗者、師範學校受驗者、師範學校及大學豫科の教科書。
● 本書は比較的少い頁数を以て必要程度の電磁學の挿入を得るやうに叙述された良書。
● 多数の挿入を得るやうに叙述された良書。
● 著者は二高の主任で多年力學を教授し専ら苦心體験された力作。
● 二高教科書に採用、各高等學校其他力學の教科書參考書に最適す。
● 著者の權威、本邦數理の府たる仙臺二高の數學主任全部の協力合著にて理論實際の兩方面共完備し類書中頭角を抜く名著。(次欄へ)

【書圖洋東は書育教】

版八	版八	版四	版五	版七	版五	版四	版八	版八
教高育等	教高育等	教高育等	教高育等	教高育等	教高育等	教高育等	教高育等	教高育等
代	三	微	微	座	座	鑛	鑛	平
數	角	分	分	標	標	物	物	面
學	法	積	積	幾	幾	地	地	圖
學	學	學	學	何	何	質	質	學
學	學	學	學	學	學	學	學	學
大石喬一先生著	市原哲治先生著	柴田寛先生著	柴田寛先生著	田中保房先生著	田中保房先生著	吉井正敏先生著	吉井正敏先生著	神門久太郎先生著
定價二・五〇 送料〇・六〇	定價二・五〇 送料〇・六〇	定價四・〇〇 送料〇・六〇	定價四・〇〇 送料〇・六〇	定價三・〇〇 送料〇・六〇	定價三・〇〇 送料〇・六〇	定價二・八〇 送料〇・六〇	定價二・八〇 送料〇・六〇	定價三・五〇 送料〇・六〇

□ 内容の八大特色 一全五冊互に相連關統一し而も各筆者が得意に向つて徹底す。二文部省高要目に準據し時間合せ而も詳細懇切を極む。三理論的著作にして類書中の自眉。四多年の體験を合せ最も了解し易く而かも實力養成に徹す。五最新發達の新數學の部分を挿入す。六あらゆる親切を盡し自學自習に便す。七復習問題練習問題を多く載せて至便。八數學書として比較的安價にて買ひ易く従つて學生教科書に最も適す。

□ 五大必讀者 (一)高等學校大學豫科生。(二)大學入學受驗者。(三)高工其他專門學校生。(四)師範專攻科高師生。(五)文檢受驗者參考書。

□ 著者は東北大學の霸者、二高を兼任し斯道に定評ある專門權威者にて本書は其力作。鑛物及地質を地學とす、努めて總合的に眺める態度にて取扱はれたる最新最良の名著。上巻鑛物・下巻地質學、實際は主として上高工大學豫科の教科書、大學入學受驗者、高工藥專鑛山學校生徒、文檢受驗者參考書。

□ 著者は斯界の大先輩にて二高の神門とて定評あり、本書は邦文圖學の最高級書。

□ 最新刊の立體圖學は最も苦心した力作にて應用圖學をも含み本邦最高最良の圖學書との稱あり。

□ 文檢受驗者、工業家必携の良書である。

良書は國の寶なり (埼玉・逸見喜一)……讀者の聲

東洋圖書株式會社發行
 東京市神田區表神保一丁目〇番七三〇
 大阪市南區安堂寺一丁目二八番六五五九三

東洋圖書株式會社發行
 東京市神田區表神保一丁目〇番七三〇
 大阪市南區安堂寺一丁目二八番六五五九三

【書圖洋東は書育教】

【書育教の書圖洋東】

Table with 10 columns listing books such as '女子倫理學', '女子教育學', '女子法制・經濟學', '家庭學', '音樂通論', '世界地理圖集', '系譜精表', '支那文學史', '支那文學史', '道史', '日本口語法'. Includes author names and prices.

Table with 10 columns listing books such as '動物學', '心理學', '兒童心理學', '哲學概說', '系統的西洋教育史', '女子倫理學', '女子教育學', '女子法制・經濟學', '家庭學', '音樂通論'. Includes author names and prices.

學校行事は數年後には學校曆となる (栃木・小林常吉)……讀者の聲

貴社の書物は内容精選せられ又穩健なりと信ず (群馬・岡田博)……讀者の聲

東京東洋圖書株式會社 發行 京東大 番七三〇一京東替攝・地番〇一町保神表區田神市京東

東京東洋圖書株式會社 發行 京東大 番七三〇一京東替攝・地番〇一町保神表區田神市京東

【書育教の書圖洋東】

刊新最	刊新最	版三	版五	刊新最	版三	版五	版八
高等商業學	高等商業學	現代實業作法	實業道德精義	チヨイスコレツチ	室町文學類選	江戶八大家文	高等國文法講義
北條時重先生著	北條時重先生著	南守謹吾先生著	菰田萬一郎先生著	小泉卓藏先生著	岩城準太郎先生著	岩城準太郎先生著	木枝増一先生著
送料〇・〇八	送料〇・〇六	送料〇・〇六	送料〇・〇六	送料〇・〇八	送料〇・〇六	送料〇・〇六	送料〇・〇六
□本書は多年多くの著書に精説論述したる豊富なる資料を壓縮したエキスである。及此種講習用参考書として空前の良書。	□本書は多年多くの著書に精説論述したる豊富なる資料を壓縮したエキスである。及此種講習用参考書として空前の良書。	□本書は多年多くの著書に精説論述したる豊富なる資料を壓縮したエキスである。及此種講習用参考書として空前の良書。	□本書は多年多くの著書に精説論述したる豊富なる資料を壓縮したエキスである。及此種講習用参考書として空前の良書。	□本書は高女卒業生をして高等なる讀物の消の趣味に導く爲に其基礎知識を與へ又女子女子専門高女高等科等の教科書として必須の東西實業道德研究の粹を悉く集め而も獨特の見識を以て現代日本の實業道德を詳述す。高等商業學校其他實業專門校教科書に適用す。實業道德の鼓吹は實業振興の現代の要求。	□本書は高女卒業生をして高等なる讀物の消の趣味に導く爲に其基礎知識を與へ又女子女子専門高女高等科等の教科書として必須の東西實業道德研究の粹を悉く集め而も獨特の見識を以て現代日本の實業道德を詳述す。高等商業學校其他實業專門校教科書に適用す。實業道德の鼓吹は實業振興の現代の要求。	□本書は高女卒業生をして高等なる讀物の消の趣味に導く爲に其基礎知識を與へ又女子女子専門高女高等科等の教科書として必須の東西實業道德研究の粹を悉く集め而も獨特の見識を以て現代日本の實業道德を詳述す。高等商業學校其他實業專門校教科書に適用す。實業道德の鼓吹は實業振興の現代の要求。	□本書は高女卒業生をして高等なる讀物の消の趣味に導く爲に其基礎知識を與へ又女子女子専門高女高等科等の教科書として必須の東西實業道德研究の粹を悉く集め而も獨特の見識を以て現代日本の實業道德を詳述す。高等商業學校其他實業專門校教科書に適用す。實業道德の鼓吹は實業振興の現代の要求。

本校圖書の90%は貴社の書物です (大阪・乾信次)……讀者の聲

三八

東大 社會資合式株書圖洋東 免發

東京市神田區表保町一丁目番〇一 電話一〇三〇七番
大阪市南區安堂寺町一丁目番八二・八 電話九三九三五番

【書圖洋東は書育教】

版三	版五	版三	版三	版三	版五	版八	版五
一般理科教育の實際	一般理科教育法	元素及新元素	解析幾何綱要	微積分綱要	計算精表	數學教育各論	實業補習教育概論
奈良女高師 教授 神戶伊三郎先生著	奈良女高師 教授 神戶伊三郎先生著	東北帝大教授 青山新一先生著	東京女高師 教授 田中増太郎先生著	東京女高師 教授 田中増太郎先生著	東京女高師 教授 田中増太郎先生著	東京女高師 教授 佐藤良一郎先生著	文部省 岡 篤郎先生著
送料〇・〇八	送料〇・〇六	送料〇・〇六	送料〇・〇六	送料〇・〇六	送料〇・〇六	送料〇・〇六	送料〇・〇六
□本書は「ゼネラルサイエンス」一般理科教育の精華でその實際案を示したものである。ゼネラルサイエンスは今や混沌として要を得がたき時本書は斯界唯一無二の燈。	□本書は「ゼネラルサイエンス」一般理科教育の精華でその實際案を示したものである。ゼネラルサイエンスは今や混沌として要を得がたき時本書は斯界唯一無二の燈。	□地球形成の元素及新元素の発見苦心の跡悉く未発見の二種の元素物語として珍貴である。未発見の二種の元素物語として珍貴である。未発見の二種の元素物語として珍貴である。	□地球形成の元素及新元素の発見苦心の跡悉く未発見の二種の元素物語として珍貴である。未発見の二種の元素物語として珍貴である。未発見の二種の元素物語として珍貴である。	□地球形成の元素及新元素の発見苦心の跡悉く未発見の二種の元素物語として珍貴である。未発見の二種の元素物語として珍貴である。未発見の二種の元素物語として珍貴である。	□邦文唯一の數學計算表にて洋書にも斯く完全な網羅したるものなし。其の他總て七十三種を網羅し高等學生工學家の至寶書。	□邦文唯一の數學計算表にて洋書にも斯く完全な網羅したるものなし。其の他總て七十三種を網羅し高等學生工學家の至寶書。	□本書は多年多くの著書に精説論述したる豊富なる資料を壓縮したエキスである。及此種講習用参考書として空前の良書。

御社の絶えざる努力に感謝す (福島・岡本大憲)……讀者の聲

三九

東大 社會資合式株書圖洋東 免發

東京市神田區表保町一丁目番〇一 電話一〇三〇七番
大阪市南區安堂寺町一丁目番八二・八 電話九三九三五番

【書圖洋東は教科書】

<p>第二高校教授 柴田寛先生著 算術代數 上巻 送料 〇・三〇</p> <p>第二高校教授 柴田寛先生著 算術代數 下巻 送料 〇・三〇</p> <p>中等新數 柴田寛先生著 算術代數 送料 〇・三〇</p> <p>中等新數 柴田寛先生著 平面幾何 送料 〇・三〇</p>	<p>第二高校教授 柴田寛先生著 算術代數 上巻 送料 〇・三〇</p> <p>第二高校教授 柴田寛先生著 算術代數 下巻 送料 〇・三〇</p> <p>中等新數 柴田寛先生著 算術代數 送料 〇・三〇</p> <p>中等新數 柴田寛先生著 平面幾何 送料 〇・三〇</p>	<p>女子學院 鈴木謙一郎先生著 コンデンストイングリッシュグラママー 送料 〇・六〇</p> <p>奈良女高師 木枝増一先生著 中學現代國文法 送料 〇・三〇</p>	<p>中等學校用教科書</p> <p>△中等教科書</p>
---	---	--	-------------------------------

貴社は凡ての方面の書物を發行せらるゝことを喜ぶ (鹿兒島・坂榮男)……讀者の聲 四一

東大 京 東洋圖書株式會社 發行

東京市神田區表神保町一〇番地・電話一〇三〇七番
大阪市南區安堂寺町一丁目二八番・電話三五九六番

【書育教の書圖洋東】

<p>愛知醫大教授 出射 榮先生著 高等物理學講義 送料 〇・三〇</p> <p>奈良女高師 清水與三郎先生著 高等化學講義 上巻 送料 〇・三〇</p> <p>奈良女高師 清水與三郎先生著 高等化學講義 中巻 送料 〇・三〇</p> <p>奈良女高師 清水與三郎先生著 高等化學講義 下巻 送料 〇・三〇</p>	<p>東京高等工業講師 佐藤富治先生著 工場管理學 送料 〇・三〇</p> <p>神戶高等商船 西川孝次郎先生著 材料強弱學 送料 〇・三〇</p> <p>東京女高師教授 內藤智秀先生著 歐米國際關係 送料 〇・三〇</p> <p>奈良女高師 桑野久任先生著 遺傳講話 送料 〇・三〇</p>	<p>最新刊 奈良女高師 清水與三郎先生著 高等化學講義 送料 〇・三〇</p> <p>最新刊 東京高等工業講師 佐藤富治先生著 工場管理學 送料 〇・三〇</p> <p>最新刊 神戶高等商船 西川孝次郎先生著 材料強弱學 送料 〇・三〇</p> <p>最新刊 東京女高師教授 內藤智秀先生著 歐米國際關係 送料 〇・三〇</p> <p>最新刊 奈良女高師 桑野久任先生著 遺傳講話 送料 〇・三〇</p>	<p>三版 愛知醫大教授 出射 榮先生著 高等物理學講義 送料 〇・三〇</p> <p>三版 奈良女高師 清水與三郎先生著 高等化學講義 上巻 送料 〇・三〇</p> <p>三版 奈良女高師 清水與三郎先生著 高等化學講義 中巻 送料 〇・三〇</p> <p>三版 奈良女高師 清水與三郎先生著 高等化學講義 下巻 送料 〇・三〇</p>
---	--	---	---

貴社の書物により教育能率の向上せしを感謝す (三重・村山尙)……讀者の聲 四〇

東大 京 東洋圖書株式會社 發行

東京市神田區表神保町一〇番地・電話一〇三〇七番
大阪市南區安堂寺町一丁目二八番・電話三五九六番